

II 結果の概要

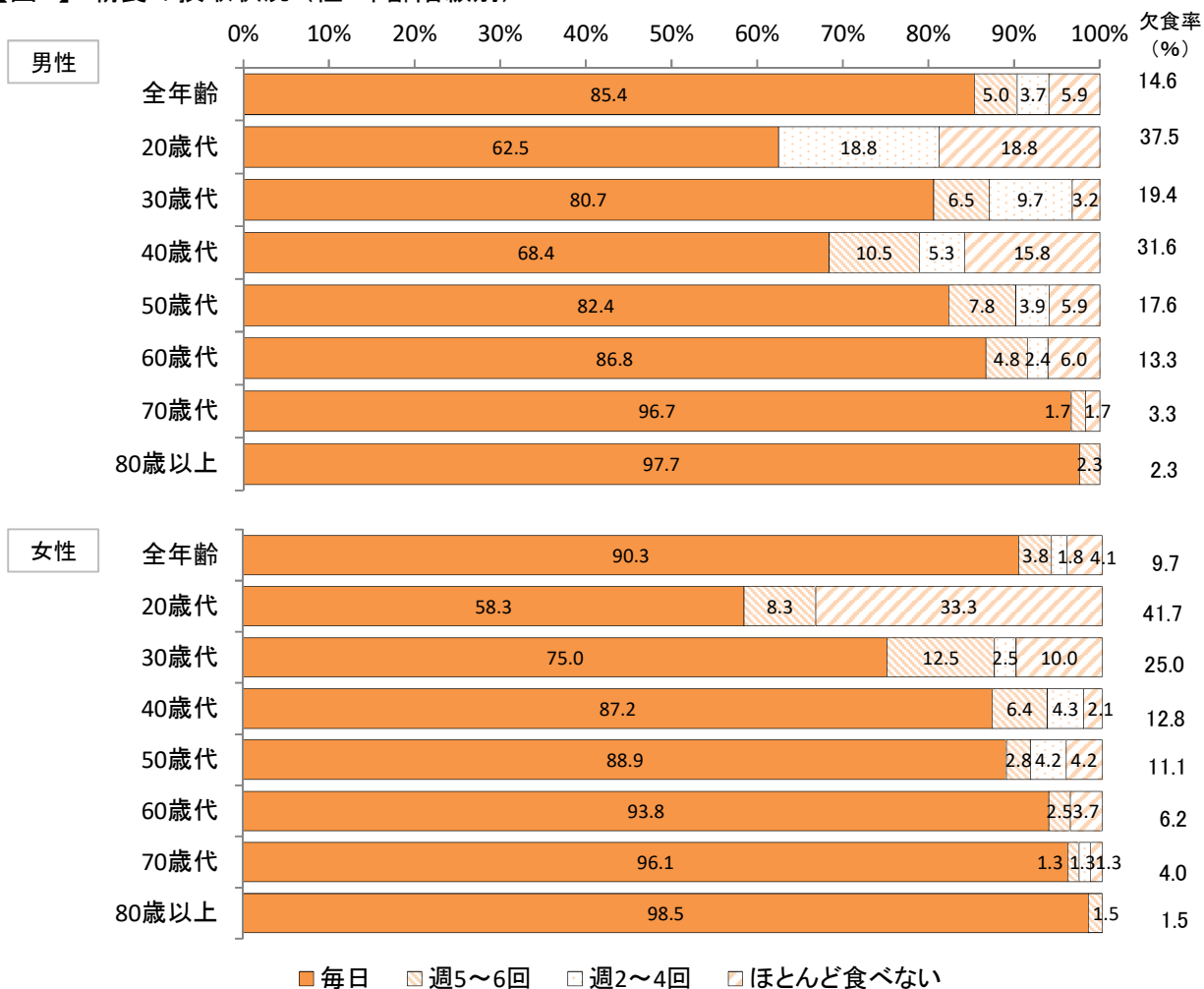
1 栄養・食生活に関する状況

(1) 食生活に関すること

◆朝食の摂取状況

朝食を「毎日食べる」者の割合は、男性85.4%、女性90.3%であった。
また、「朝食を欠食する(毎日食べていない)」者の割合は、男性では20歳代と40歳代が高く、20歳代37.5%、40歳代31.6%であった。女性では20歳代が高く、41.7%であった。

【図1】 朝食の摂取状況（性・年齢階級別）



※ 欠食率は、全体(100%)から「毎日食べる」者の割合を除いたもの



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標

朝食を欠食する小・中学生の割合

目標値(令和5年度) : 0%

第3次愛媛県食育推進計画の目標

朝食を欠食する割合の減少

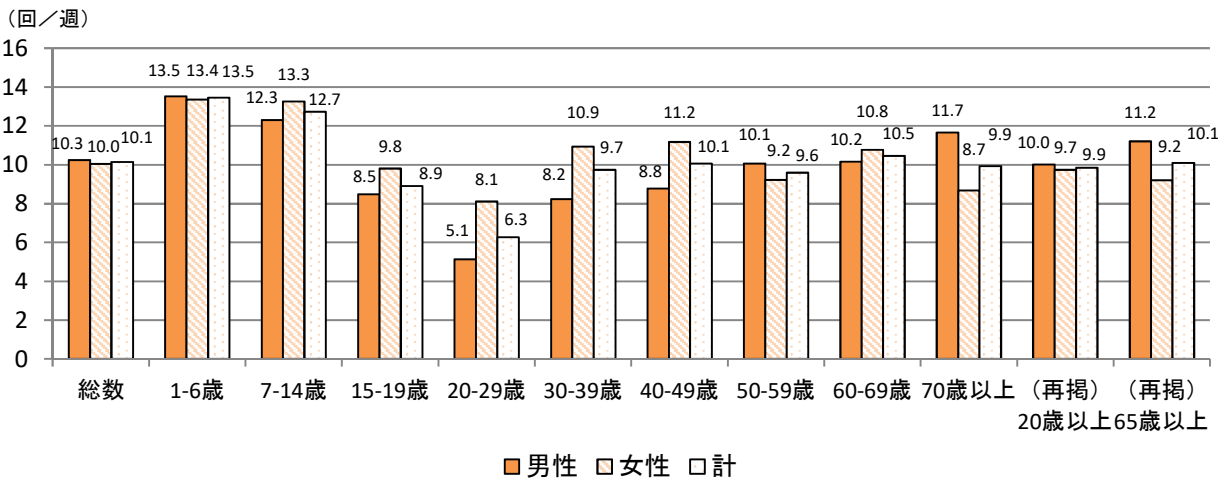
目標値(令和5年度)

小学生 : 0%

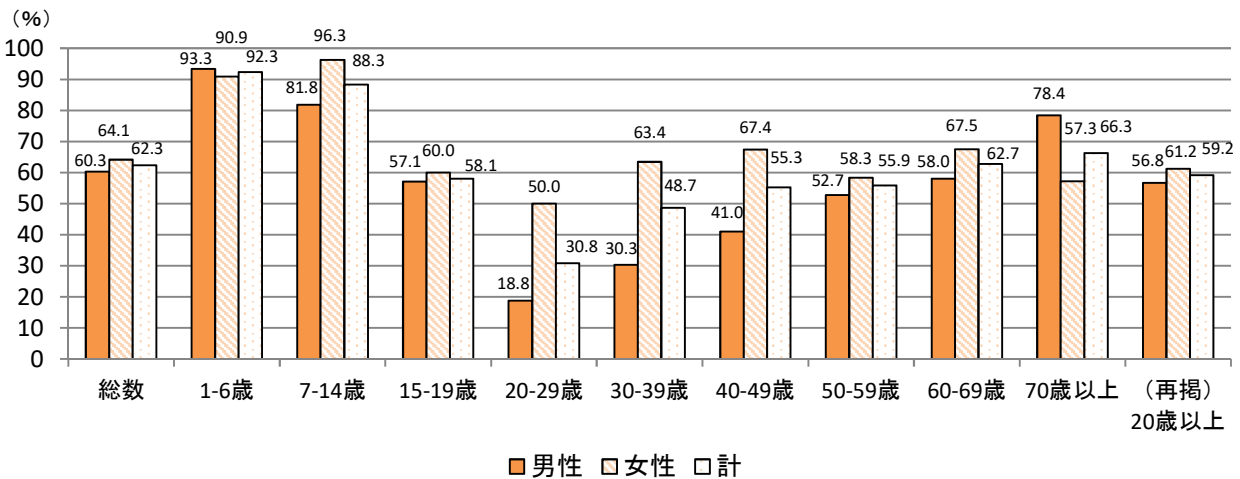
◆「共食」の状況

朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数(一週間当たりの平均値)は、男性10.3回、女性10.0回であった。
 性・年齢階級別にみると、男女ともに20歳代で回数が最も少なく、男性5.1回、女性8.1回であった。
 また、週に10回以上共食を実施している者の割合は、男性60.3%、女性64.1%であった。
 性・年齢階級別にみると、男性では20～40歳代で半数を下回っていた。

【図2】 共食の回数(平均値)(性・年齢階級別)



【図3】 週に10回以上共食を実施している人の割合(性・年齢階級別)



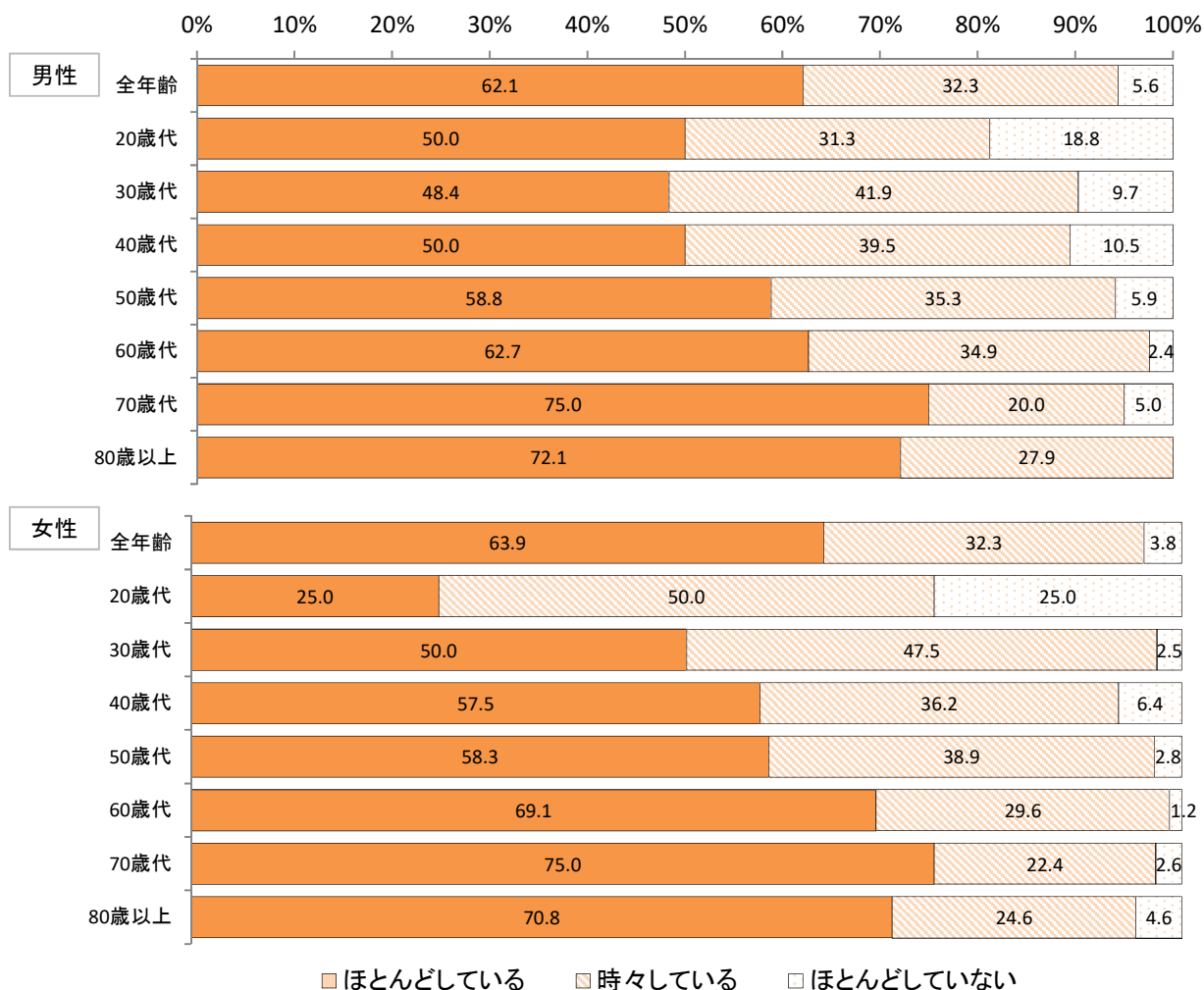
(参考)第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数
 目標値(令和5年度) : 週10回以上

第3次愛媛県食育推進計画の目標
 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加
 目標値(令和5年度) : 週11回以上

◆栄養バランス等に配慮した食生活の状況

「主食・主菜・副菜」をそろえた食事をほとんどしている者の割合は、男性62.1%、女性63.9%であった。性・年齢階級別にみると、男性は20～40歳代、女性は20歳代で最も割合が低くなっていた。

【図4】「主食・主菜・副菜」をそろえた食事の実施状況（性・年齢階級別）

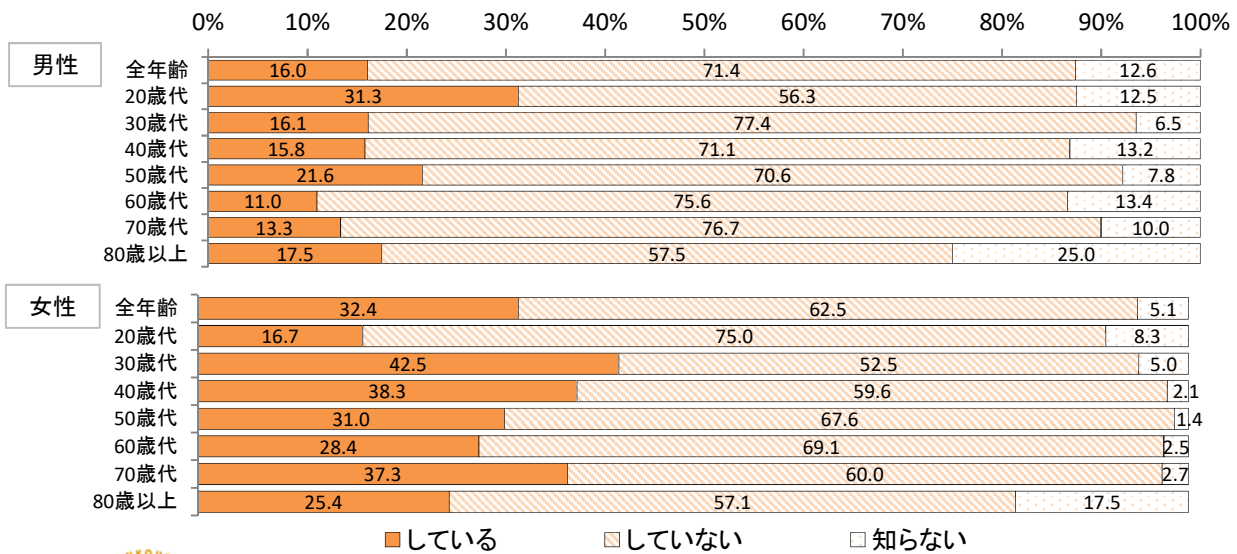


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
栄養バランス等に配慮した食生活を送っている者の割合
目標値(令和5年度) : 80%以上

第3次愛媛県食育推進計画の目標
栄養バランス等に配慮した食生活を送っている者の割合
目標値(令和5年度) : 70%以上

外食や食品購入時に栄養成分表示を参考にしている者の割合は、男性16.0%、女性32.4%であった。性・年齢階級別にみると、20歳代以外の年代で男性より女性の方が割合が高くなっていった。

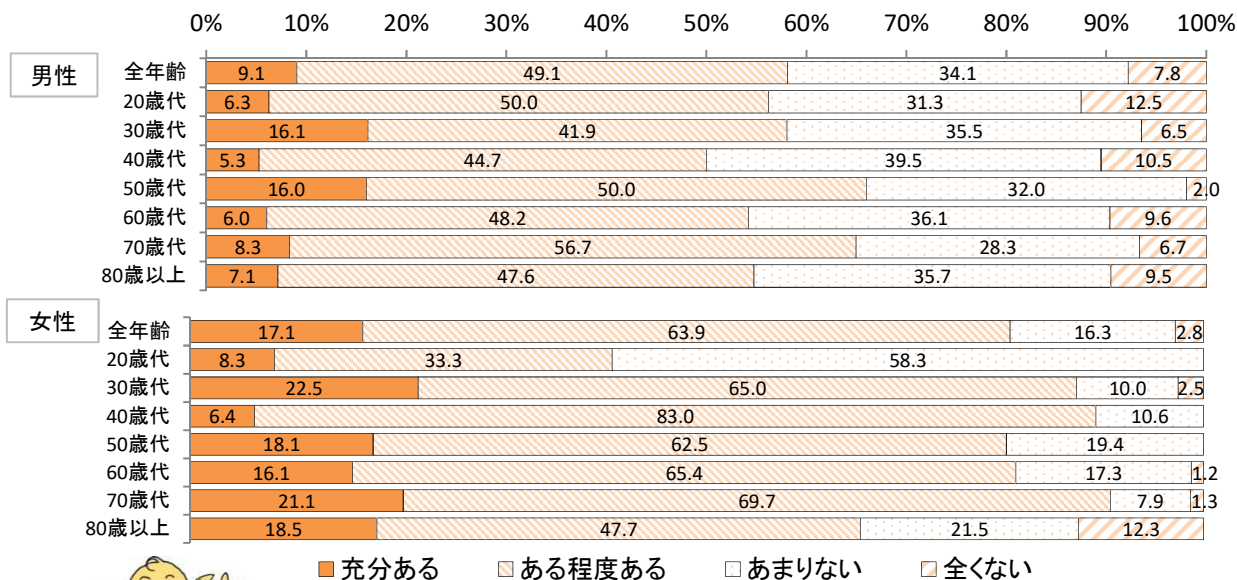
【図5】 外食や食品購入時における栄養成分表示の参考状況(性・年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
外食や食品を購入する時に食品重量や栄養成分を参考にする人の割合
目標値(令和5年度) : 男性30% 女性55%

安全な食生活を送るための、食の安全性に関する基礎的な知識が「充分ある」「ある程度ある」者の割合は、男性58.2%、女性81.0%であった。性・年齢階級別にみると、20歳代以外の年代で男性より女性の方が割合が高くなっていった。

【図6】 安全な食生活を送るための、食の安全性に関する基礎的な知識の状況



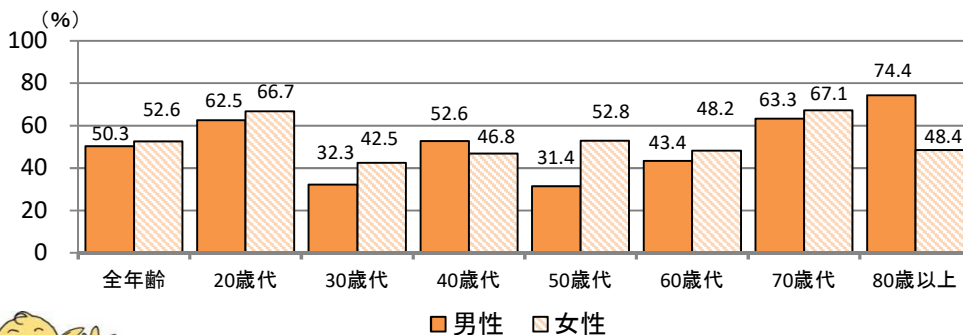
第3次愛媛県食育推進計画

(参考) 第3次愛媛県食育推進計画の目標
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている県民の割合の増加
目標値(令和5年度) : 80%以上

◆食育に関する状況

食事をする時、いつもよく噛んで味わって食べている者の割合は、男性50.3%、女性52.6%であった。性・年齢階級別にみると、男性は80歳以上、女性は20歳代と70歳代で割合が高くなっていた。

【図7】 食事をする時、いつもよく噛んで味わって食べている者の割合（性・年齢階級別）

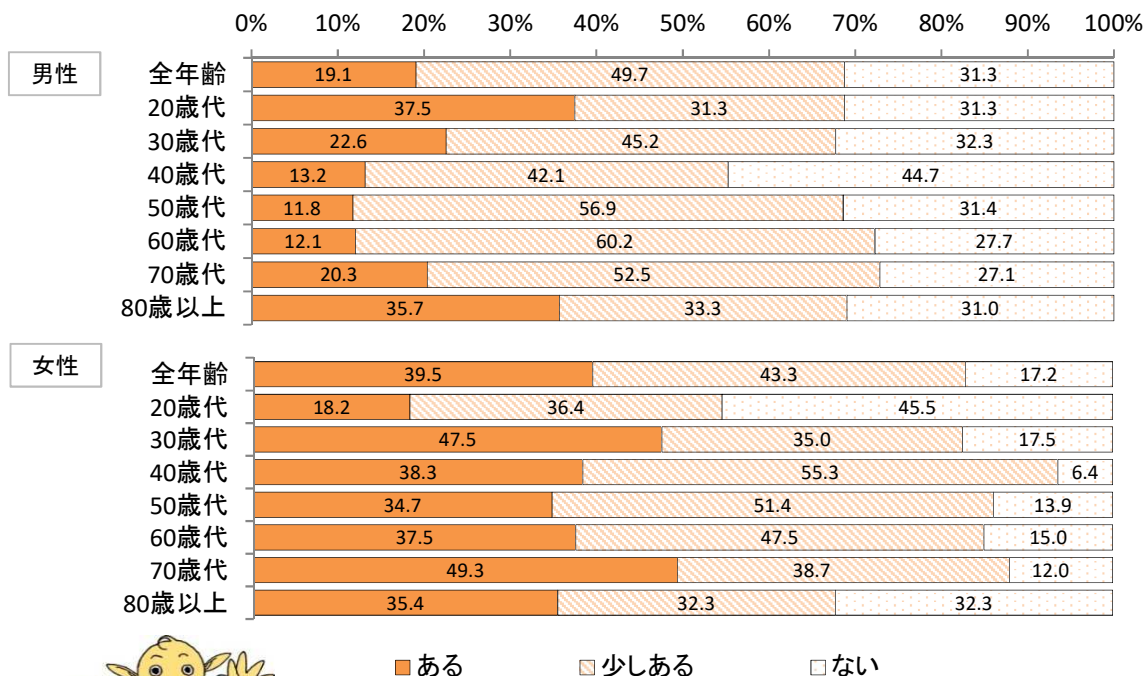


第3次愛媛県食育推進計画

(参考)第3次愛媛県食育推進計画の目標
よく噛んで味わって食べる県民の割合の増加
目標値(令和5年度) : 90%以上

食育に関心がある者の割合は、男性19.1%、女性39.5%であった。性・年齢階級別にみると、男性は20歳代、女性は70歳代で最も割合が高くなっていた。

【図8】 食育への関心の状況（性・年齢階級別）



第3次愛媛県食育推進計画

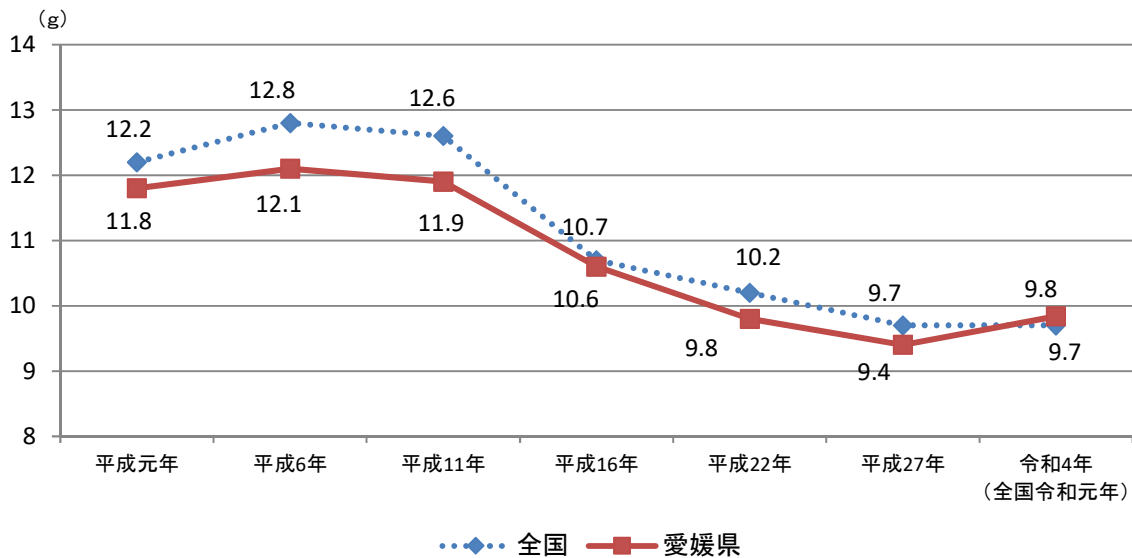
(参考)第3次愛媛県食育推進計画の目標
食育に関心を持っている県民の割合の増加
目標値(令和5年度) : 90%以上

(2) 栄養素摂取に関すること

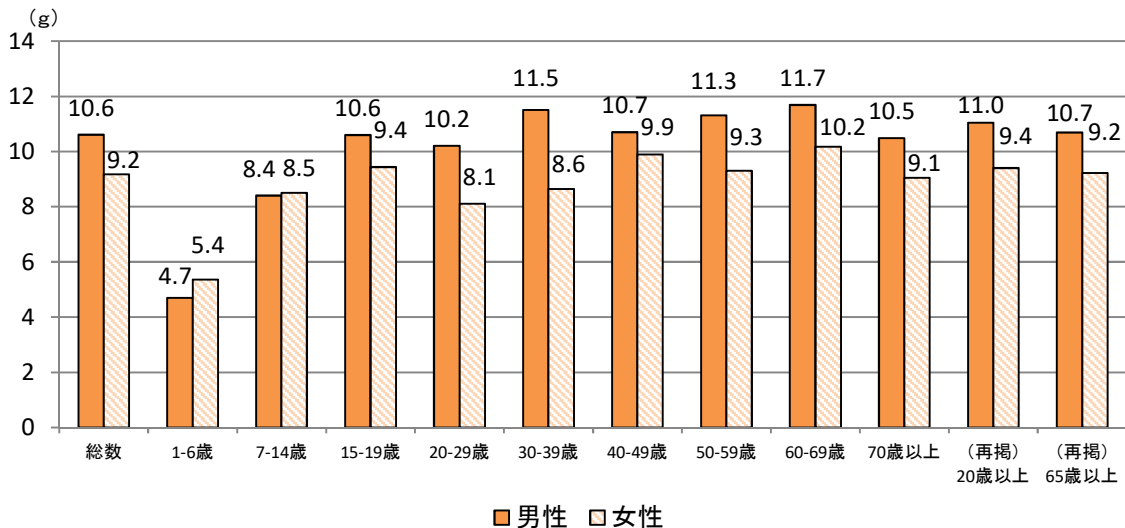
◆食塩摂取量の年次推移と平均摂取量

1人1日当たりの食塩摂取量は9.8gで、平成27年より0.4g増加した。
性・年齢階級別にみると、男女とも60歳代で摂取量が最も多くなっていた。

【図9】 食塩摂取量の年次推移



【図10】 食塩の平均摂取量(性・年齢階級別)

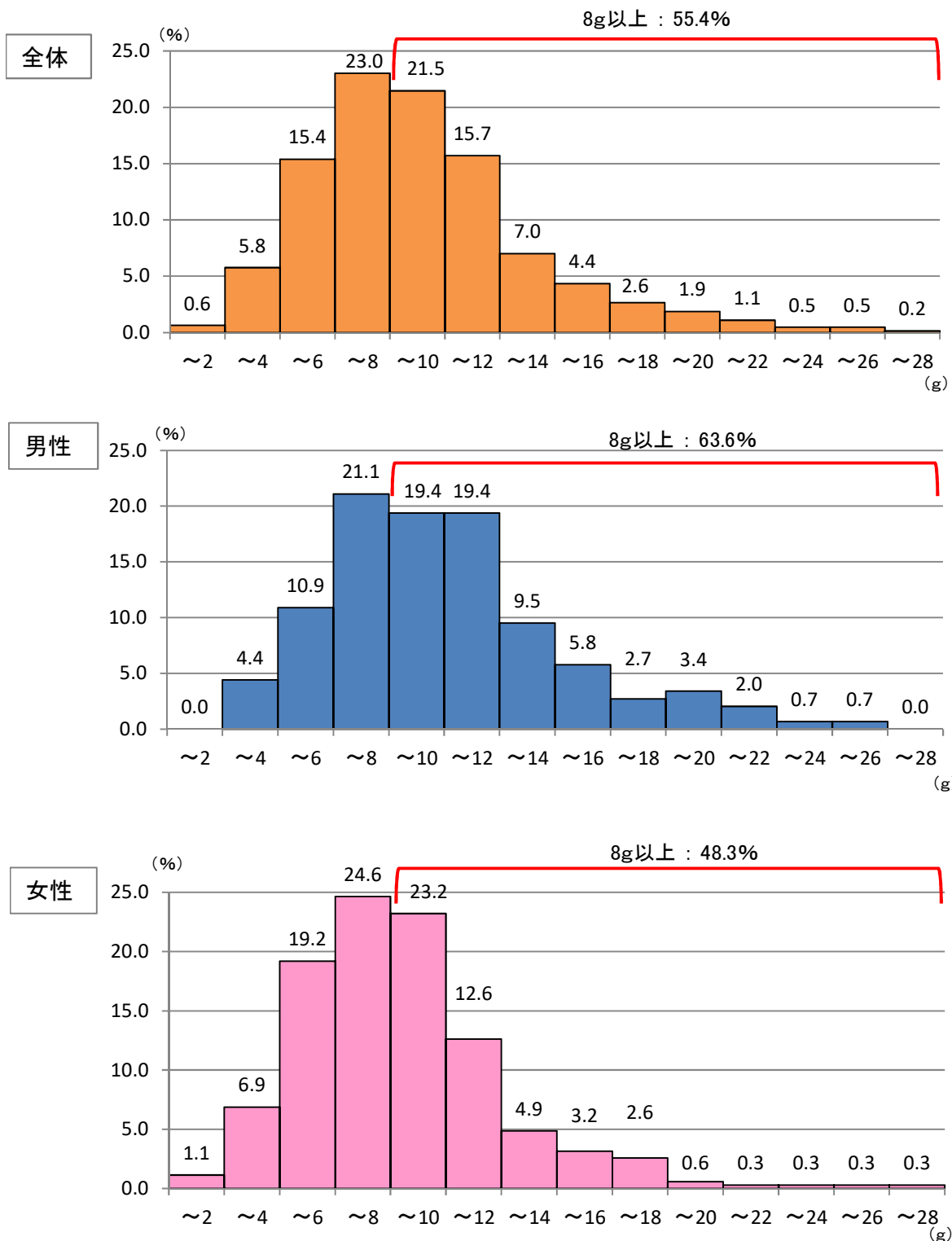


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
1日当たり食塩摂取量(20歳以上)
目標値(令和5年度) : 8g

◆食塩摂取量の分布

食塩摂取量は、8g以上摂取している者が55.4%であった。
性別で見ると、男性は63.6%、女性は48.3%と男性の方が8g以上摂取している者の割合が高かった。

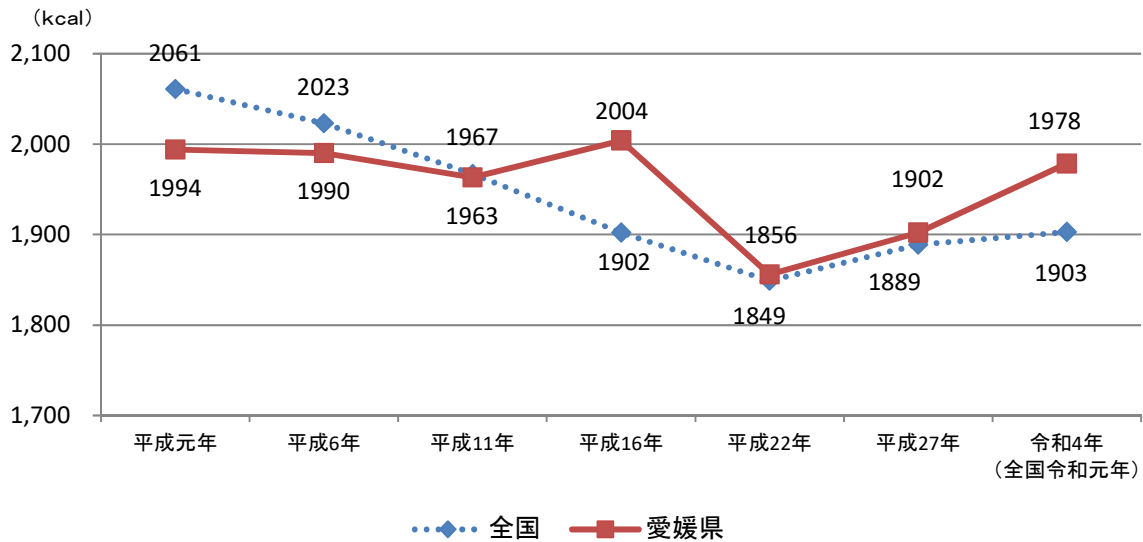
【図11】 食塩摂取量の分布（20歳以上）



◆エネルギーの年次推移

1人1日当たりのエネルギー摂取量は減少傾向にあったが、平成22年以降全国と同様に増加に転じていた。

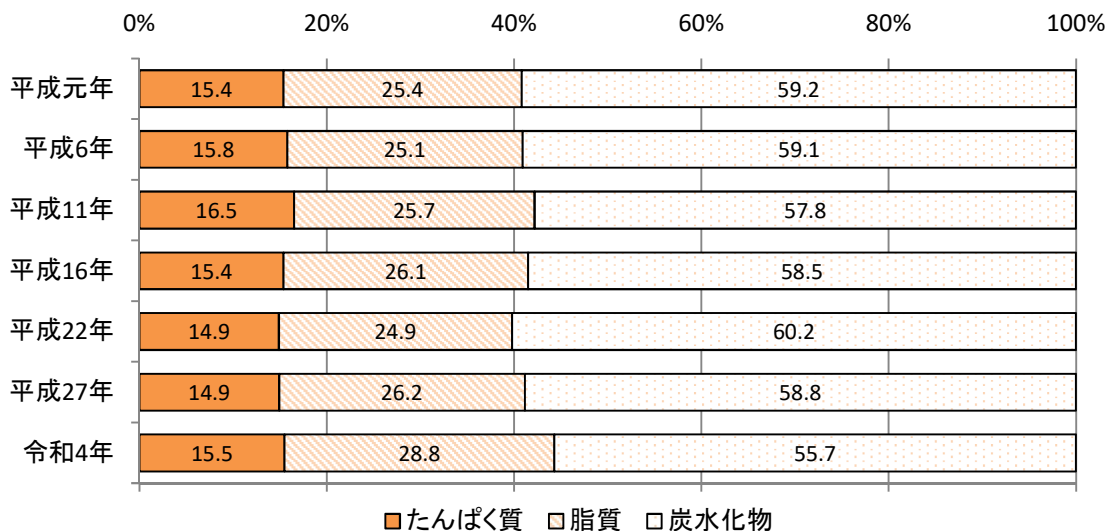
【図12】 エネルギーの年次推移



◆エネルギーの栄養素別構成比

摂取エネルギーに占める脂質の割合は、平成27年以前は25%前後で推移していたが、今回(令和4年)は28%を超えていた。

【図13】 エネルギーの栄養素別構成比(年次推移)



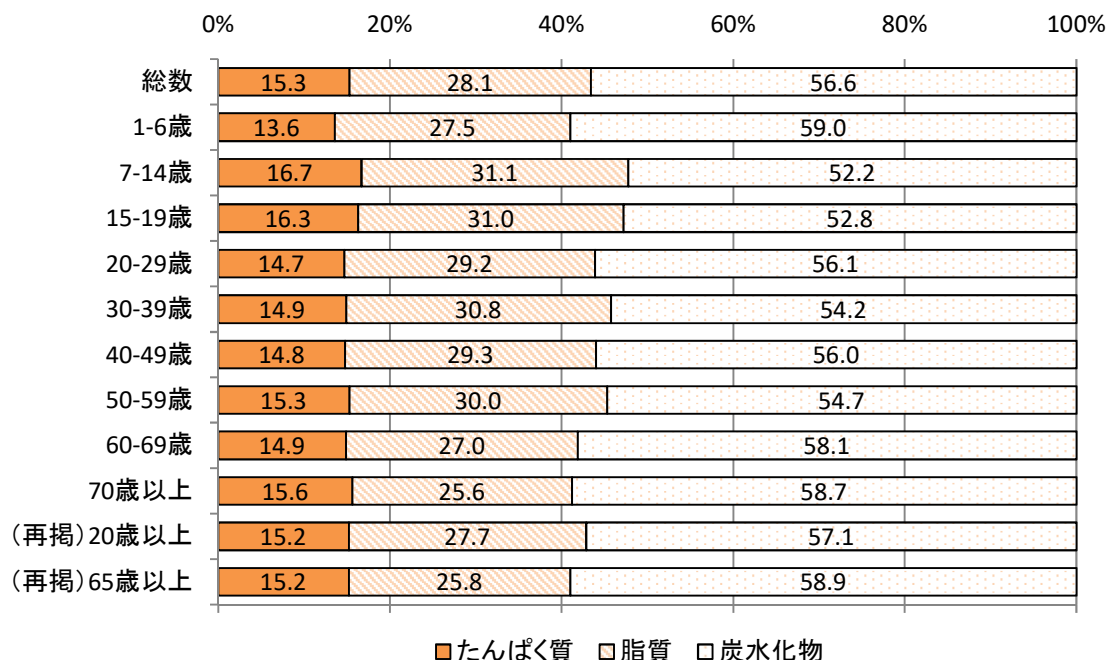
(参考)

脂肪エネルギー比率: 脂肪エネルギーの総エネルギーに占める割合
目標量(範囲) 20~30% (日本人の食事摂取基準2020年版より)

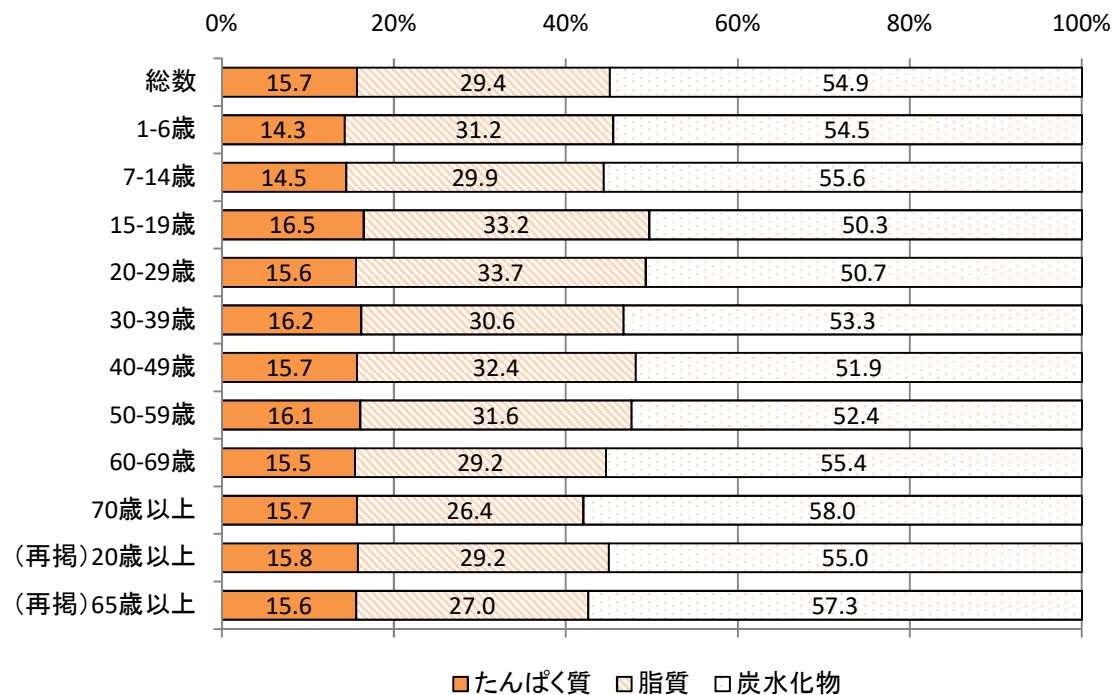
◆エネルギーの栄養素別構成比（性・年齢階級別）

エネルギーの栄養素別構成比は、男女ともに全ての年代で脂肪エネルギー比率が25%を超えていた。

【図14】 エネルギーの栄養素別構成比（男性、年齢階級別）



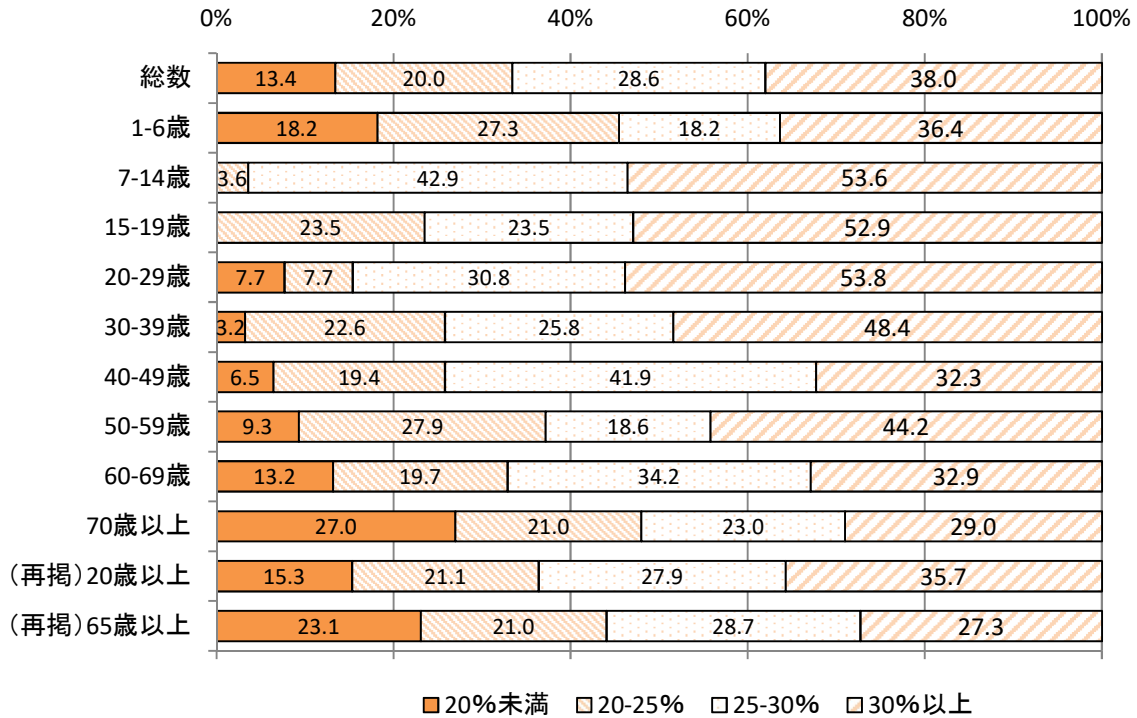
【図15】 エネルギーの栄養素別構成比（女性、年齢階級別）



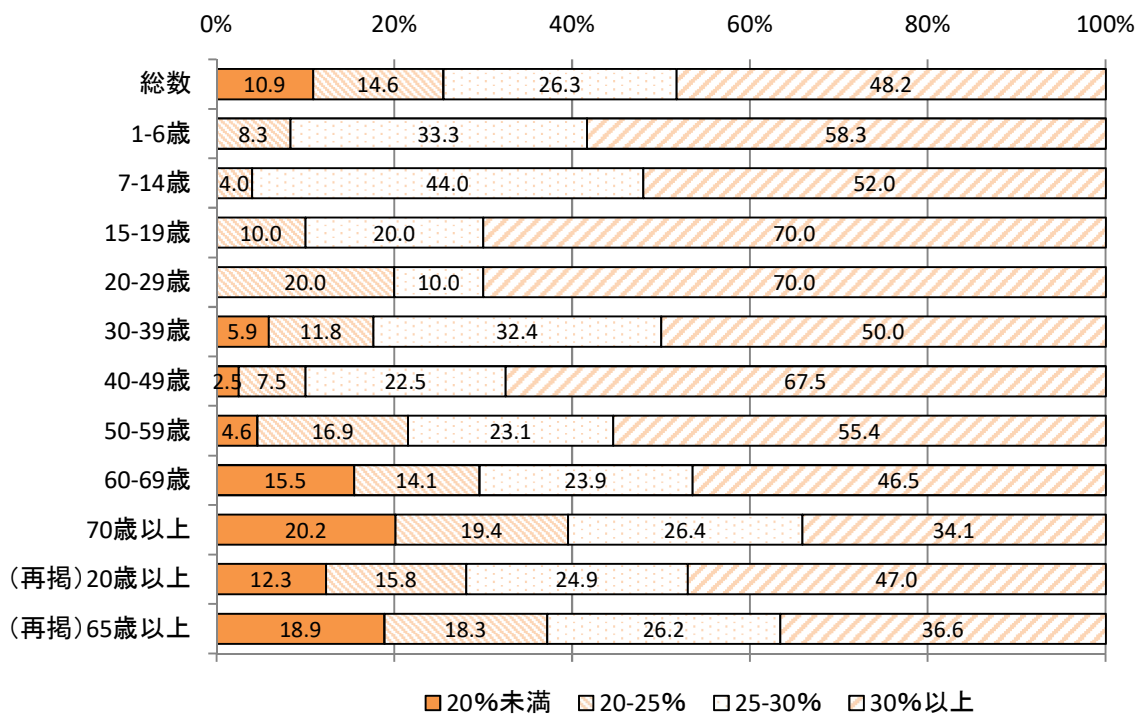
◆脂肪エネルギー比率の状況(性・年齢階級別)

脂肪エネルギー比率が30%を超えている者の割合は、男性では20歳代(53.8%)が最も多く、女性では15～19歳と20歳代(70.0%)が最も高くなっていた。

【図16】 脂肪エネルギー比率の状況(男性、年齢階級別)



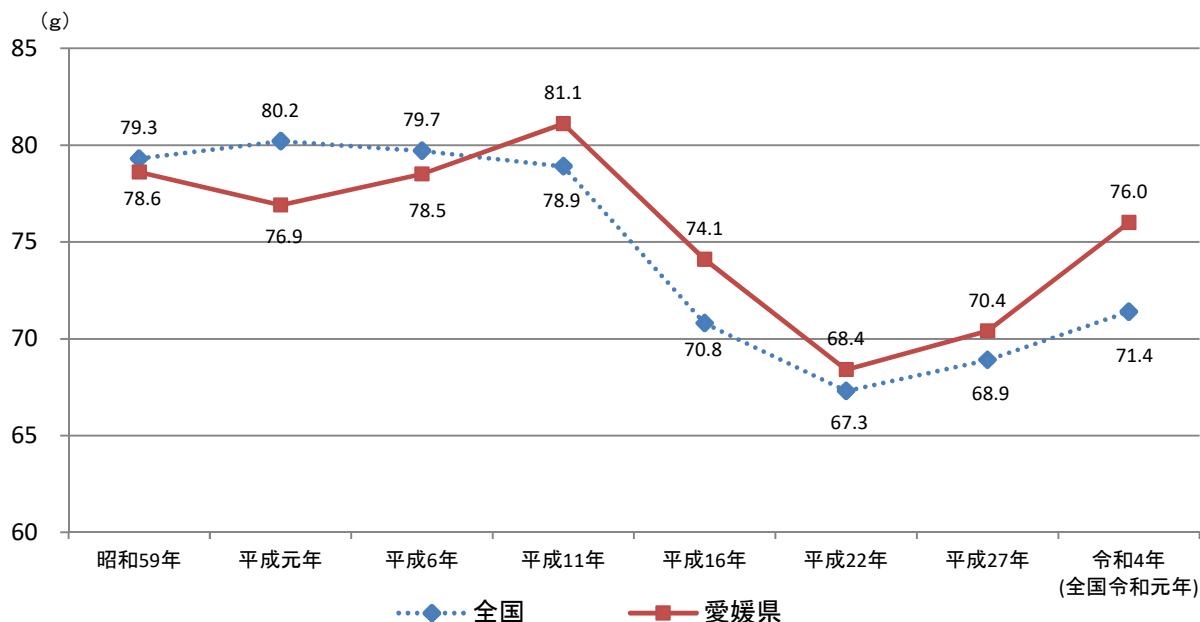
【図17】 脂肪エネルギー比率の状況(女性、年齢階級別)



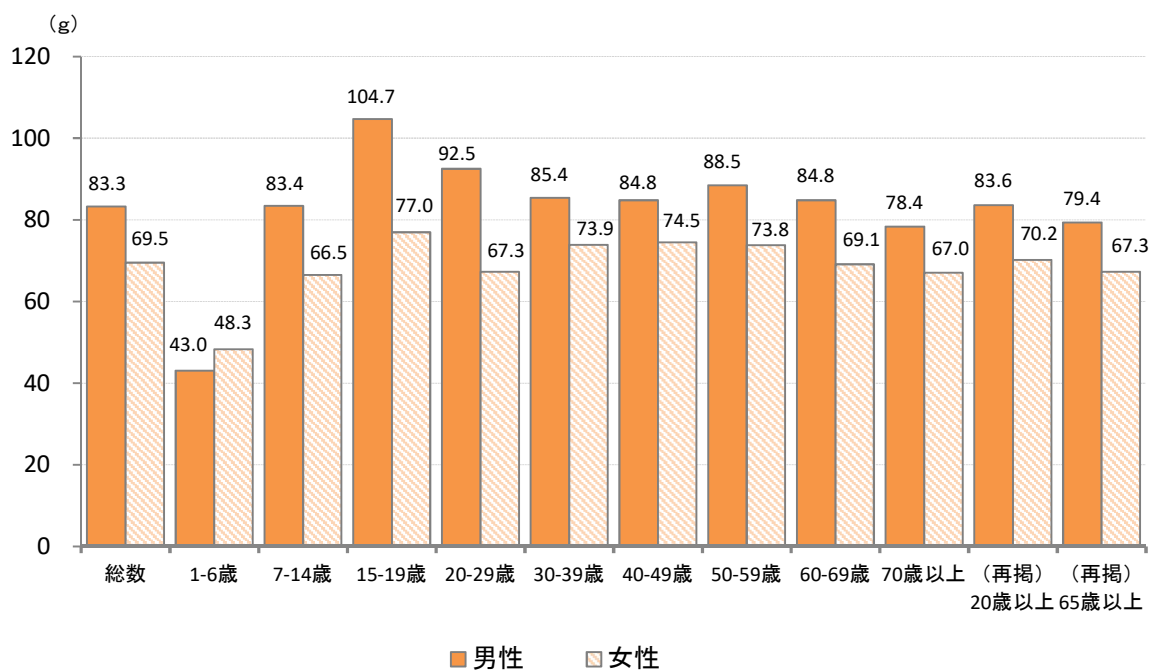
◆たんぱく質摂取量の年次推移と平均摂取量

1人1日当たりのたんぱく質摂取量は、全国と同様に増加しており、男性83.3g、女性69.5gであった。

【図18】たんぱく質摂取量の年次推移



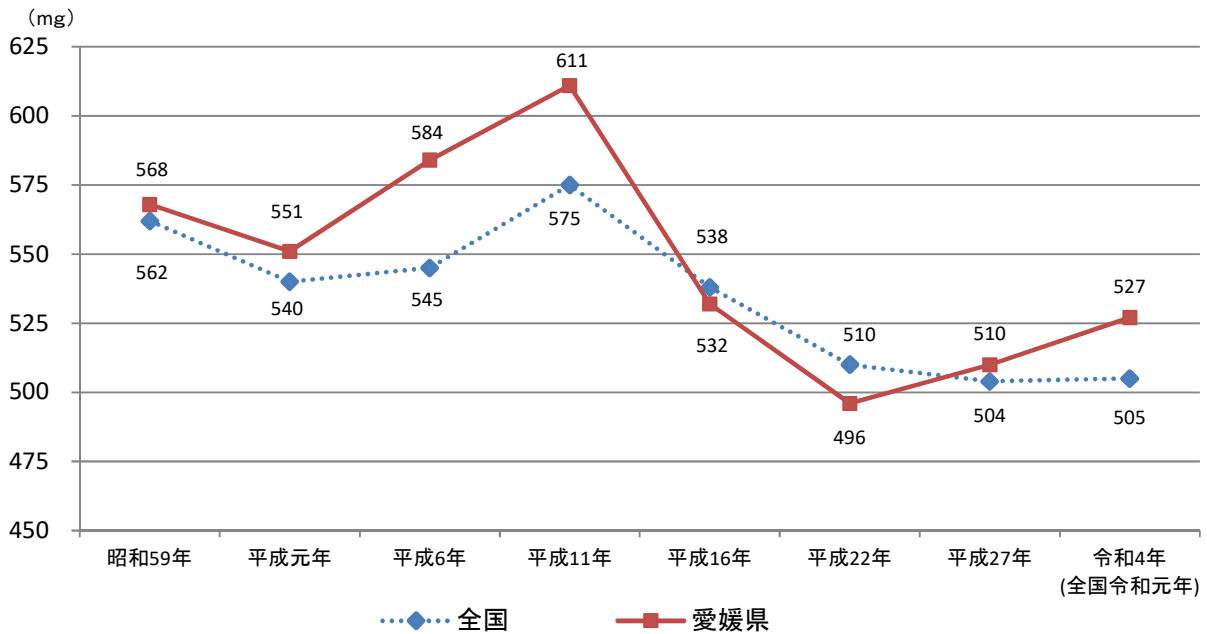
【図19】たんぱく質の平均摂取量(性・年齢階級別)



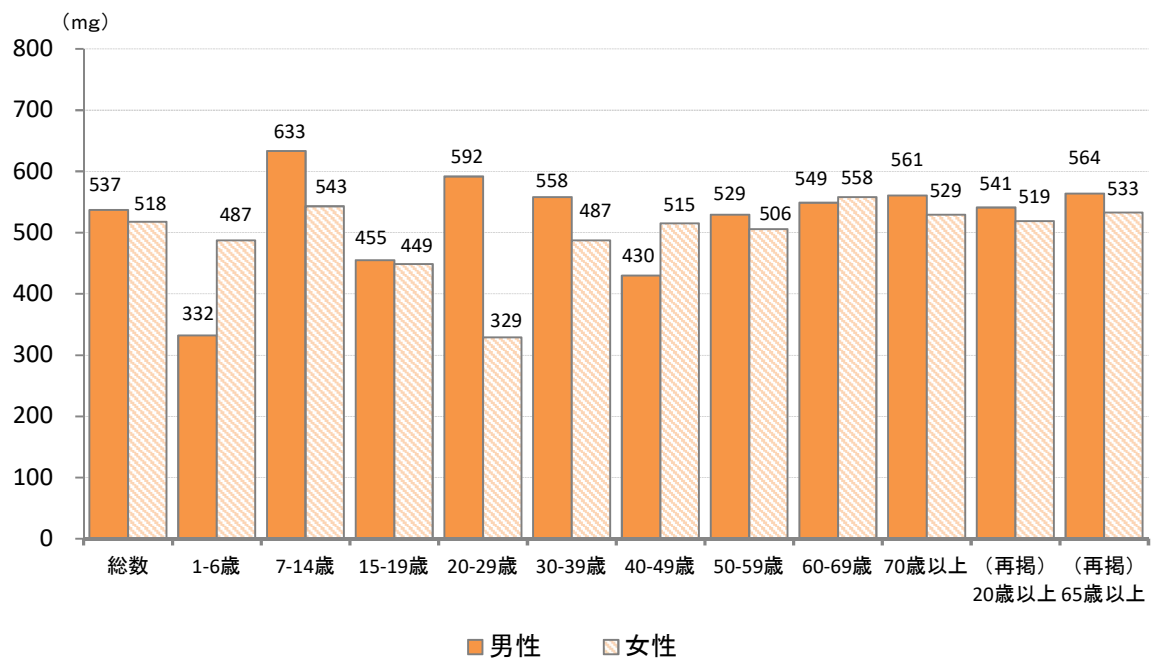
◆カルシウム摂取量の年次推移と平均摂取量

1人1日当たりのカルシウム摂取量は、平成22年から徐々に増加している。
また、20歳以上の性・年齢階級別で見ると、20歳代女性が329mgと最も少なかった。

【図20】カルシウム摂取量の年次推移



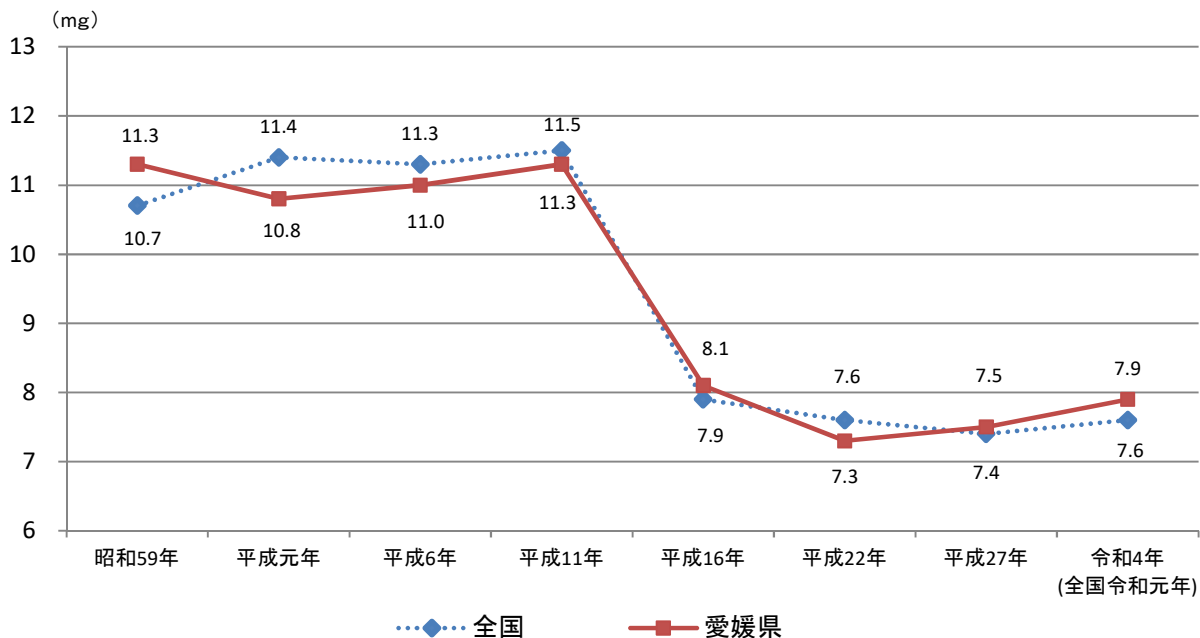
【図21】カルシウムの平均摂取量(性・年齢階級別)



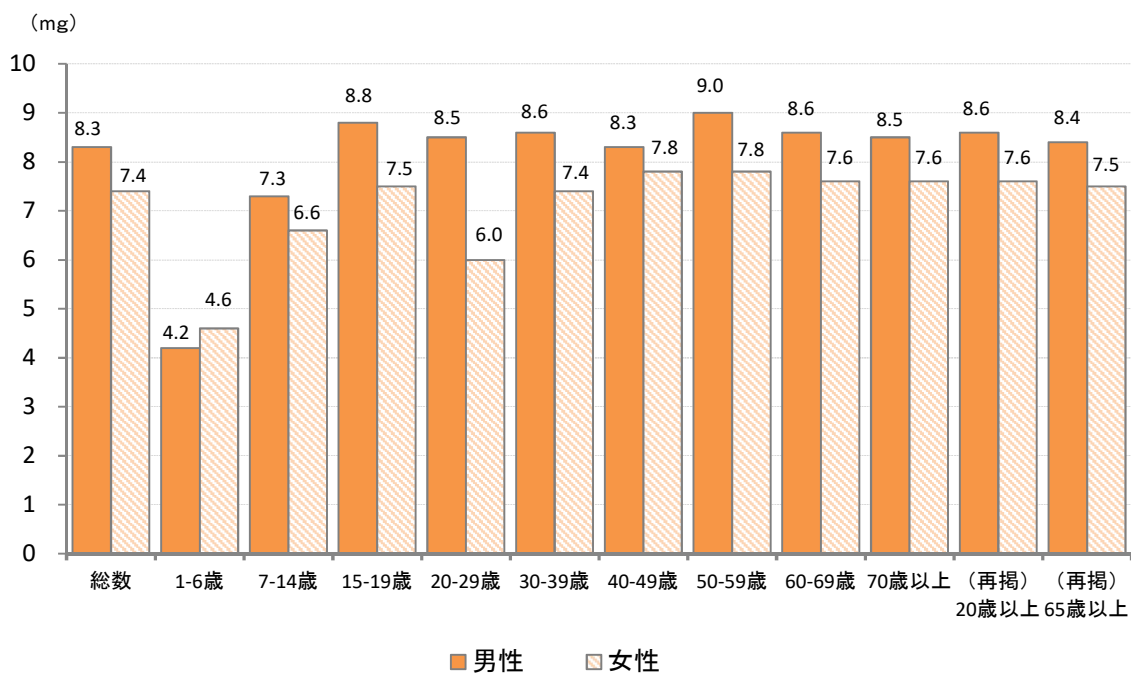
◆鉄摂取量の年次推移と平均摂取量

1人1日当たりの鉄摂取量は、平成16年からほぼ横ばいであった。
また、20歳以上の性・年齢階級別で見ると、20歳代女性が6.0mgと最も少なかった。

【図22】鉄摂取量の年次推移



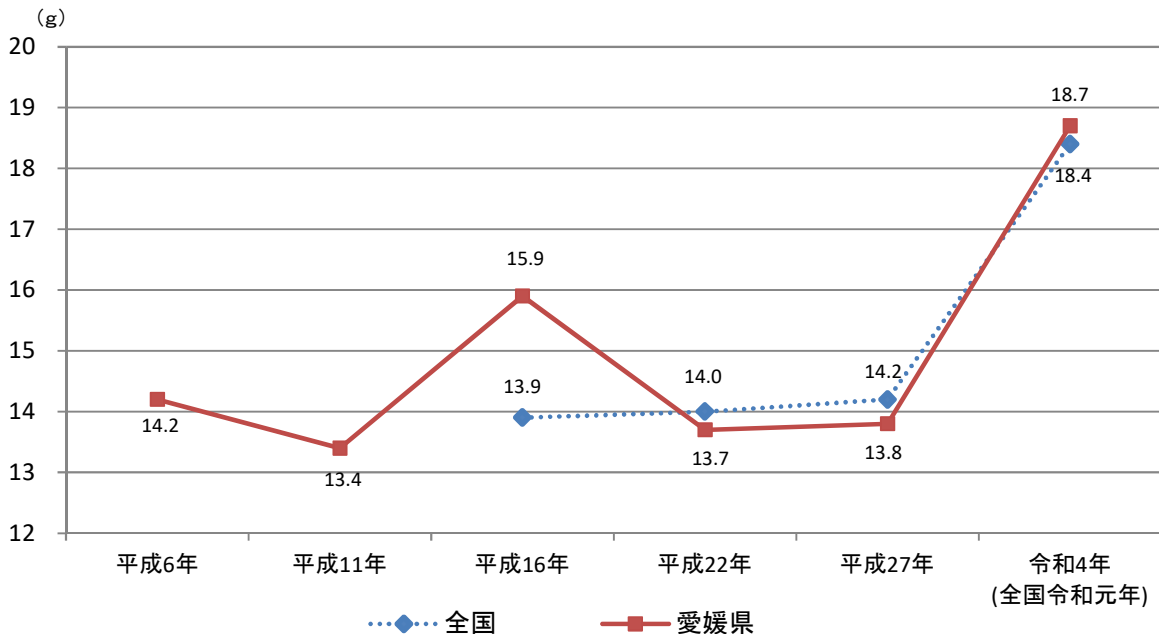
【図23】鉄の平均摂取量(性・年齢階級別)



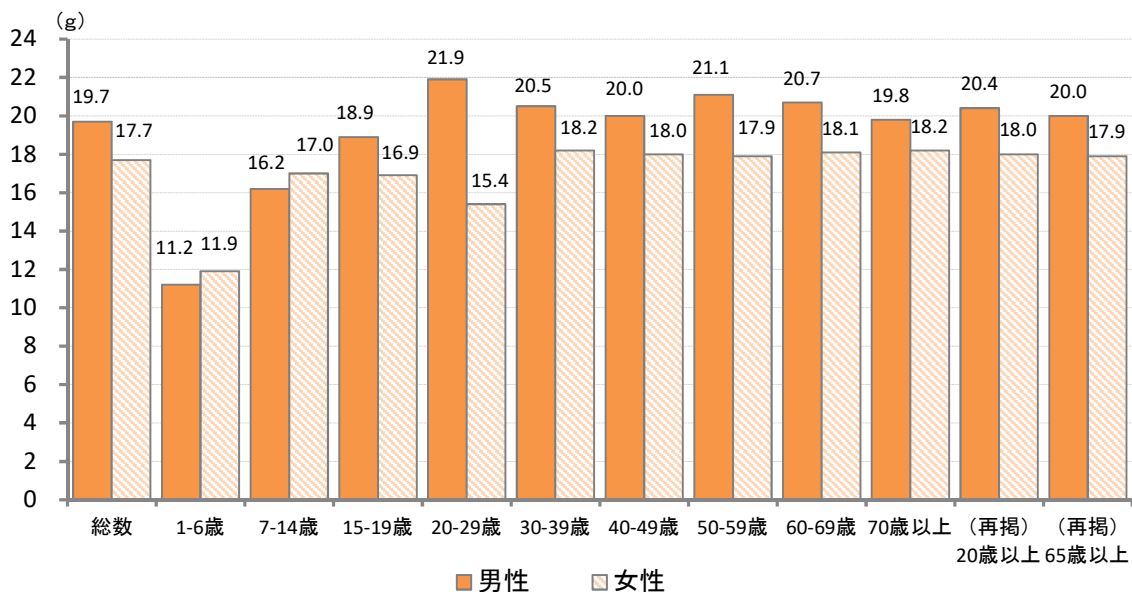
◆食物繊維摂取量の年次推移と平均摂取量

1人1日当たりの食物繊維摂取量は、18.7gで増加している。
 食物繊維摂取量の算出にあたっては、令和元年から「日本食品標準成分表2015年版(七訂)追補2018」が用いられている。「追補2018」では、食物繊維の定量方法が変更され、今まで定量が不十分であった「難消化性でんぷん」を含めて食物繊維の総量が定量でき、本調査における食物繊維摂取量の増加につながった。

【図24】 食物繊維摂取量の年次推移



【図25】 食物繊維の平均摂取量 (性・年齢階級別)

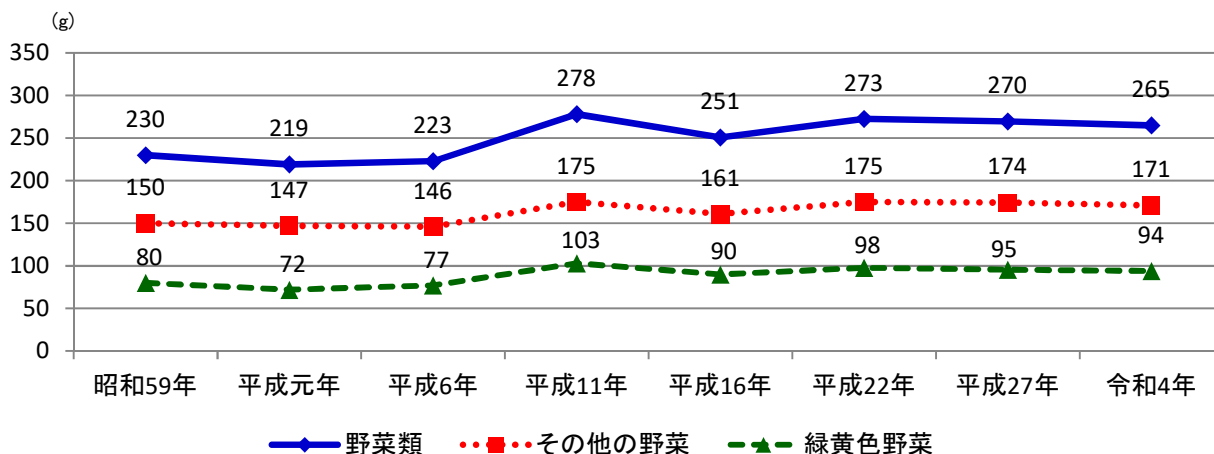


(3) 食品摂取に関すること

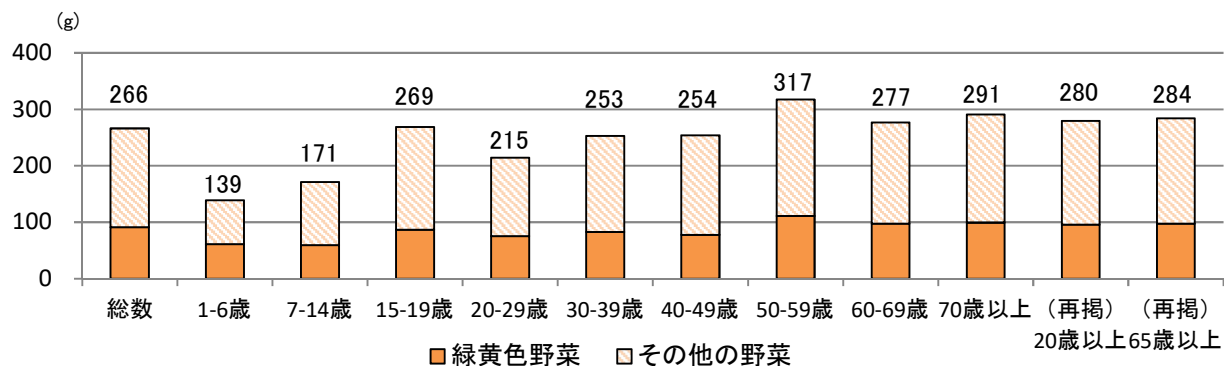
◆野菜類の摂取量

野菜類の摂取量の平均値は265gであった。
 性・年齢階級別にみると、男性では50歳代が最も多く、317gであり、女性では60歳代が最も多く、290gであった。
 20歳以上において、1日当たりの野菜類の摂取量が350g以上である者の割合は26.8%であった。

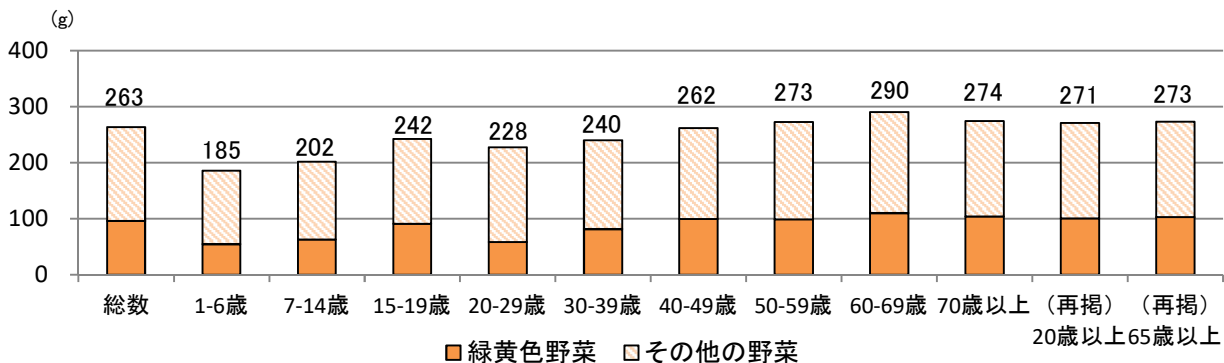
【図26】 野菜類の摂取量の平均値の年次推移



【図27】 野菜類の摂取量の平均値（男性、年齢階級別）

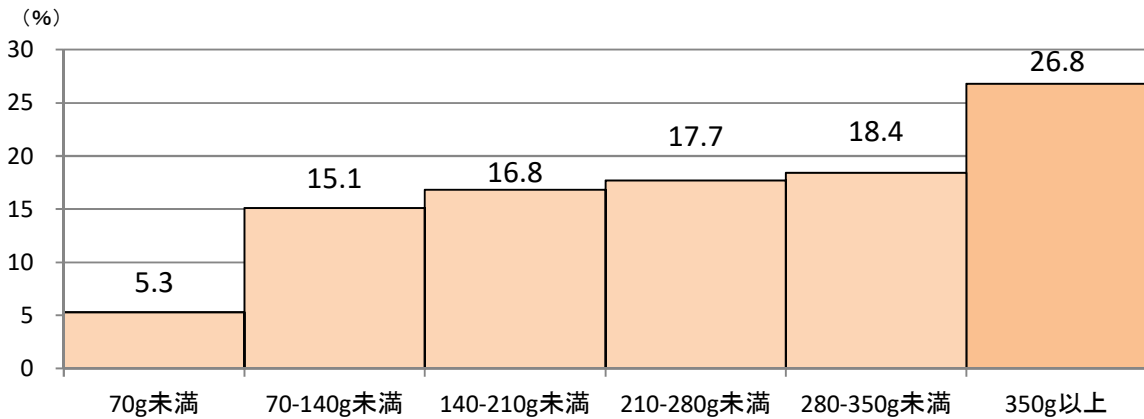


【図28】 野菜類の摂取量の平均値（女性、年齢階級別）



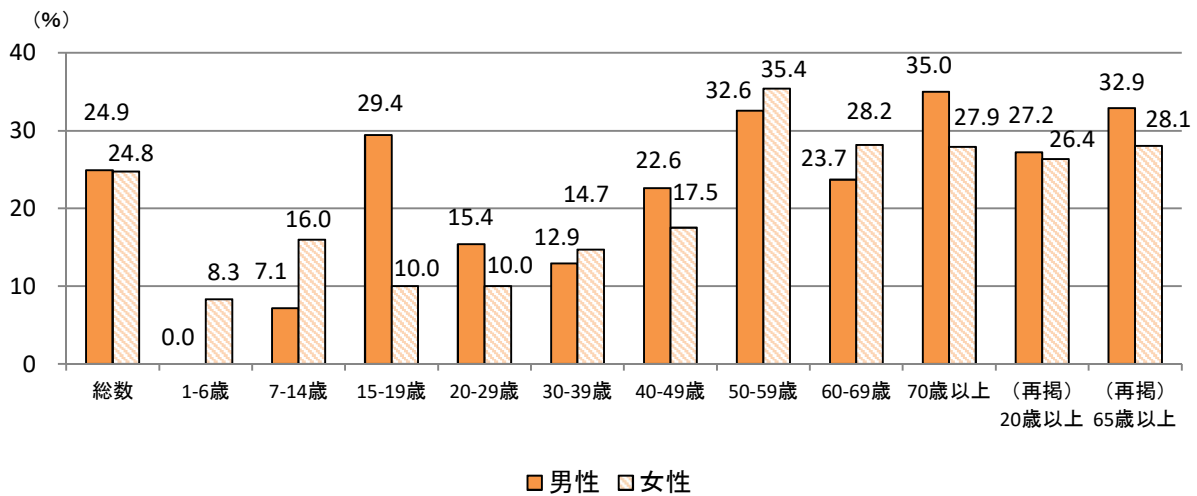
※その他の野菜は、漬物を含む
 ※摂取量の数字は、緑黄色野菜とその他の野菜の合計

【図29】 野菜類の摂取量の分布 (20歳以上)



(参考) 野菜70gを1皿とした場合、野菜350gは5皿分になる。
(食事バランスガイド/厚生労働省と農林水産省の共同により平成17年6月策定)

【図30】 野菜類の摂取量が350g以上の者の割合 (性・年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
1日当たり野菜摂取量(20歳以上)
目標値(令和5年度) : 350g

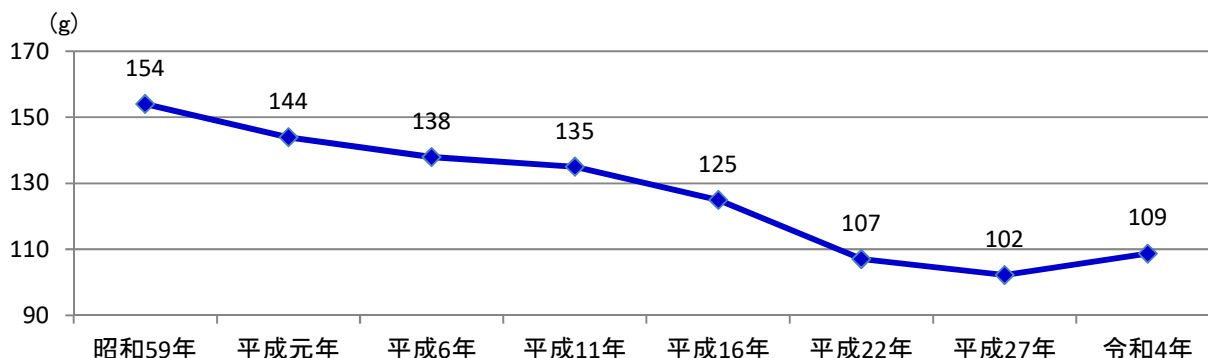
第3次愛媛県食育推進計画の目標
県民一人当たりの野菜の摂取量の増加
目標値(令和5年度)
児童・生徒(7~14歳) : 300g以上
20歳以上 : 350g以上



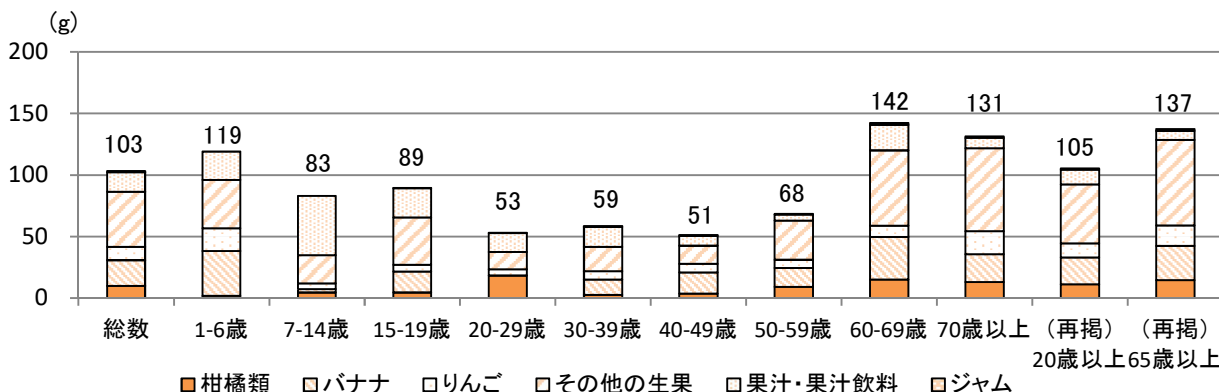
◆果実類の摂取量

果実類の摂取量の平均値は109gであり、昭和59年から減少傾向にあったが、わずかに増加した。性・年齢階級別にみると、男性では60歳代が最も多く142gであり、女性では70歳以上が最も多く153gであった。
果実類の種類別では、ほとんどの年代でその他の生果や果汁・果汁飲料の摂取量が多くなっていた。20歳以上において、1日当たりの果実類の摂取量が200g以上である者の割合は21.3%であった一方、100g未満である者の割合は52.6%であり、そのうち未摂取の者の割合は30.2%であった。

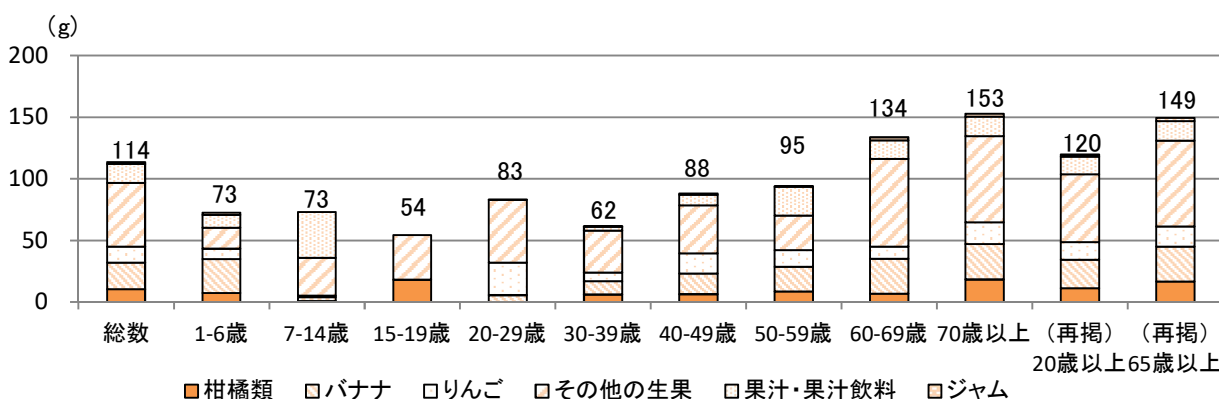
【図31】 果実類の摂取量の平均値の年次推移



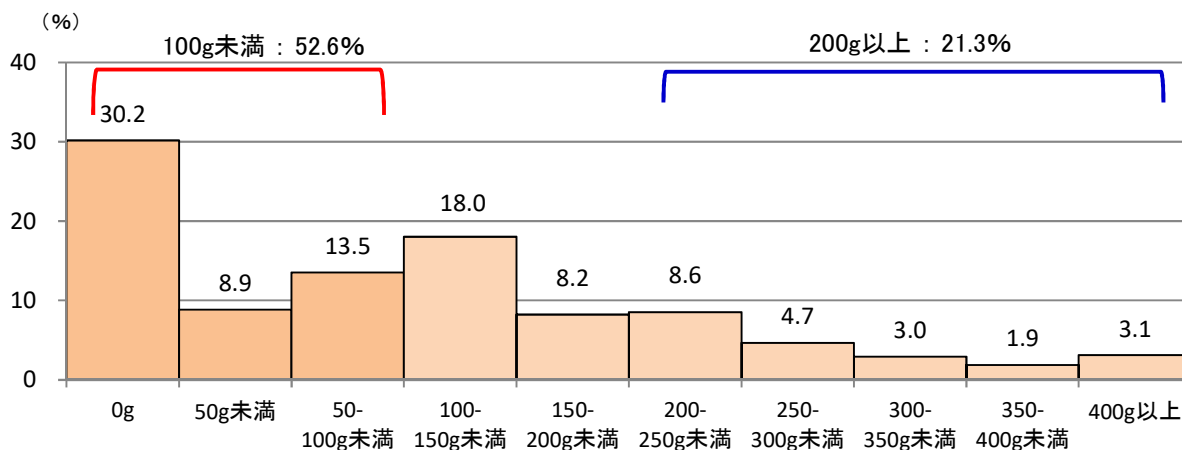
【図32】 果実類の種類別の摂取量の平均値（男性、年齢階級別）



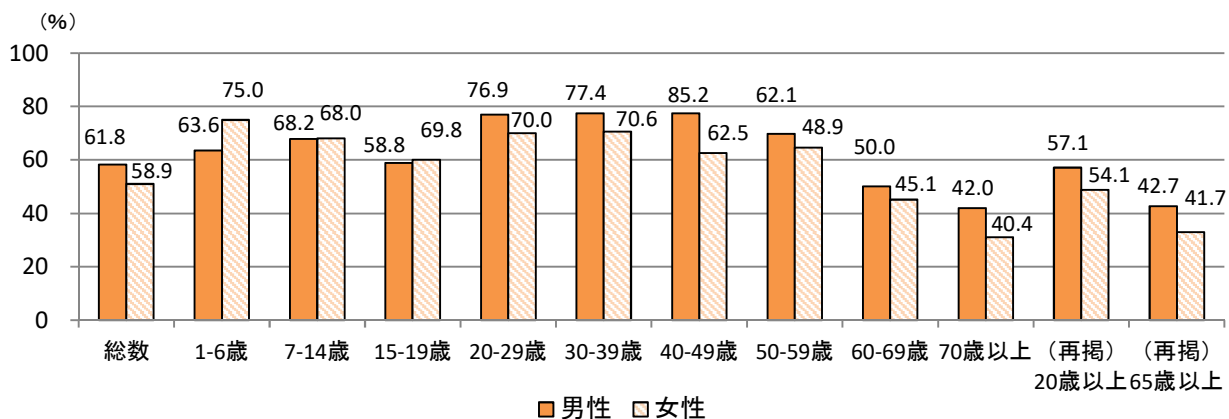
【図33】 果実類の種類別の摂取量の平均値（女性、年齢階級別）



【図34】 果実類の摂取量の分布(20歳以上)



【図35】 果実類の摂取量が100g未満の者の割合(性・年齢階級別)



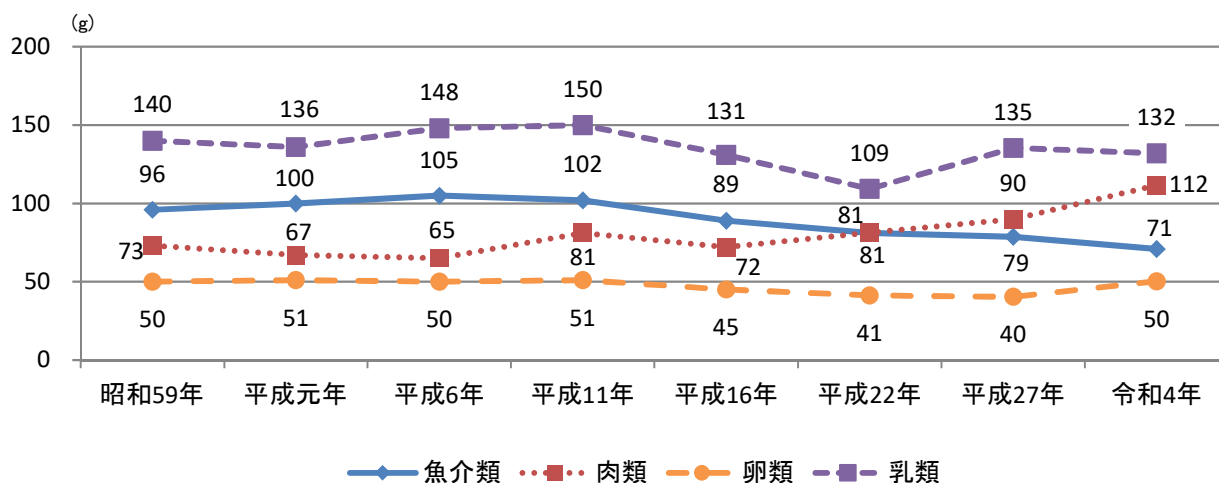
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
かんきつ類等の果物の摂取量100g未満の者の割合
目標値(令和5年度) : 30%

第3次愛媛県食育推進計画の目標
県民1人当たりのかんきつ類等の果物の摂取量の増加
目標値(令和5年度) : 200g

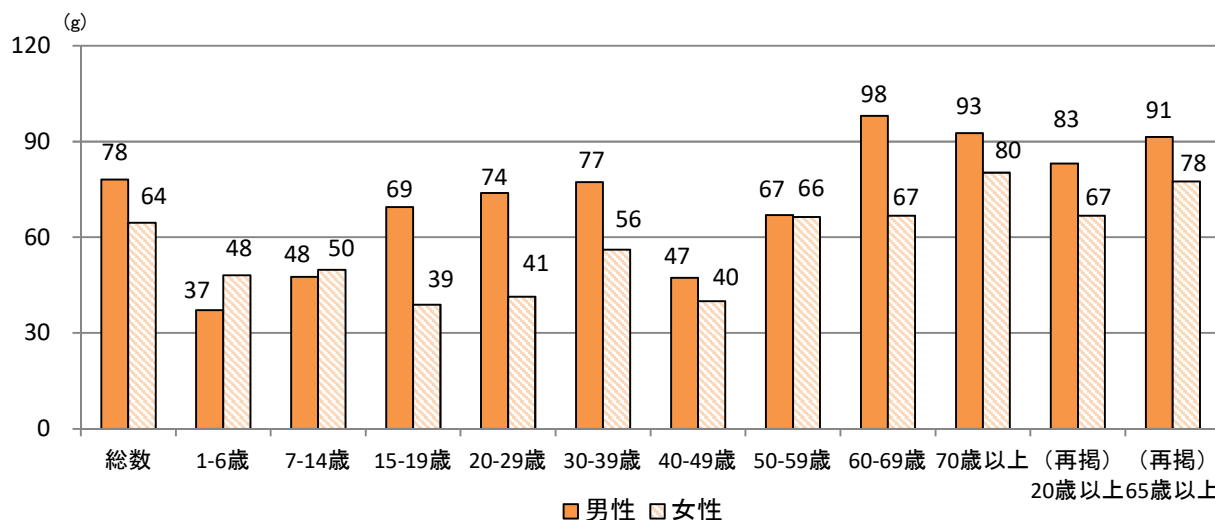
◆動物性食品の摂取量

動物性食品(魚介類、肉類、卵類、乳類)の摂取量の年次推移をみると、魚介類は減少傾向、肉類は増加傾向であった。
 性・年齢階級別にみると、魚介類では、15歳以上で男性が女性より摂取量が多く、20歳以上では40歳代の摂取量が男女ともに最も少なかった。
 肉類では、いずれの年代も男性が女性より摂取量が多く、男女とも15～19歳が最も多かった。
 次に40歳代の摂取量が多く、40歳以上では、年齢が高くなるほど摂取量が減少する傾向がみられた。
 卵類では、いずれの年代も男性が女性より摂取量が多く、15～19歳、20歳代で、男性は75g程度、女性は60g程度であった。
 乳類では、男女ともに7～14歳で摂取量が最も多く、7歳以上30歳代までは男性が女性より多くなっているが、1～6歳、40歳以上では女性が男性より多くなっていた。

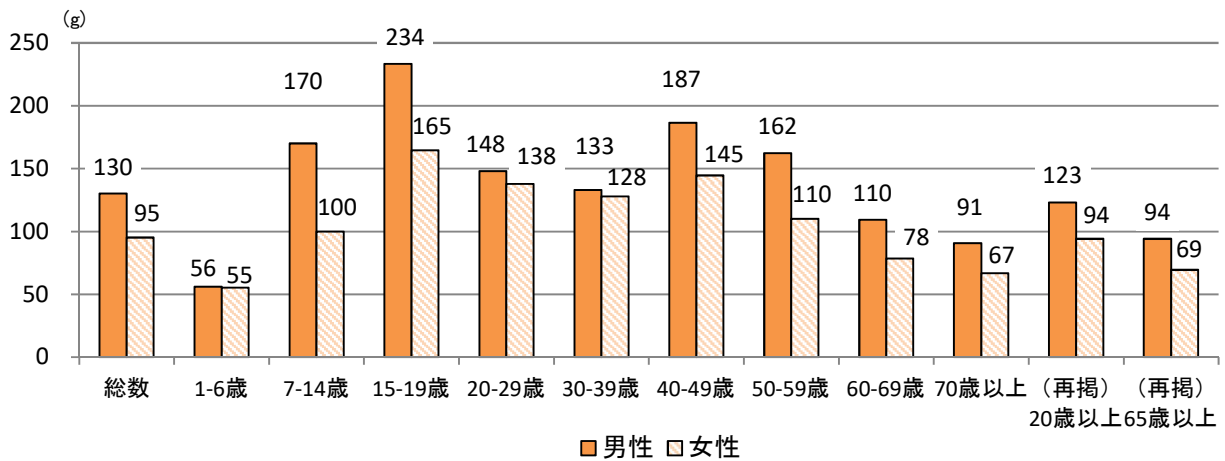
【図36】 動物性食品の摂取量の平均値の年次推移



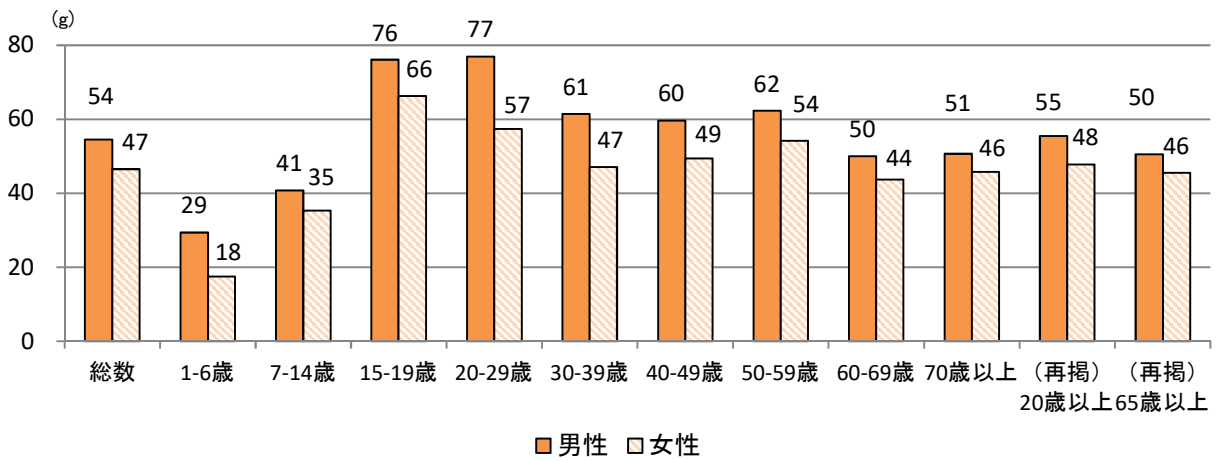
【図37】 魚介類の摂取量の平均値(性・年齢階級別)



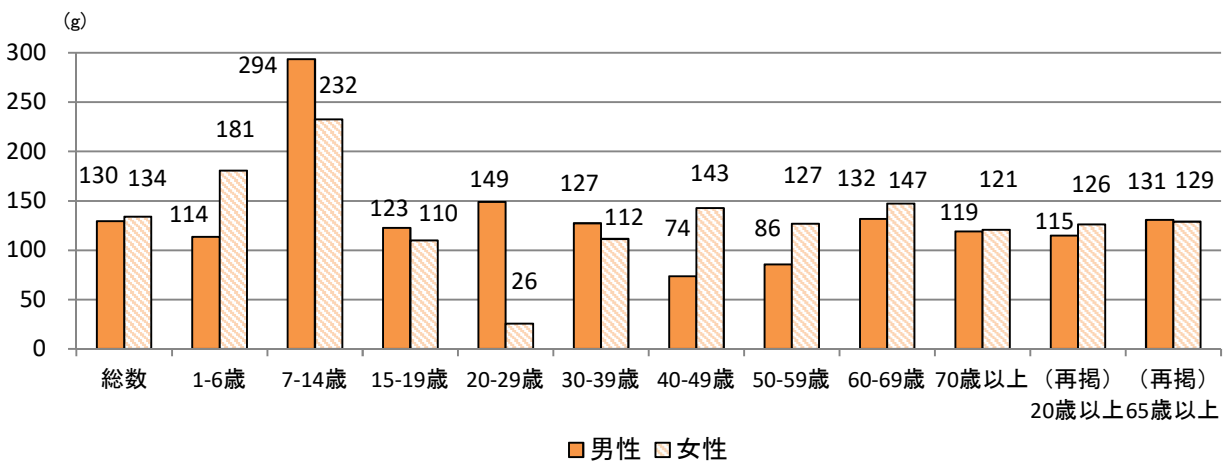
【図38】 肉類の摂取量の平均値(性・年齢階級別)



【図39】 卵類の摂取量の平均値(性・年齢階級別)



【図40】 乳類の摂取量の平均値(性・年齢階級別)

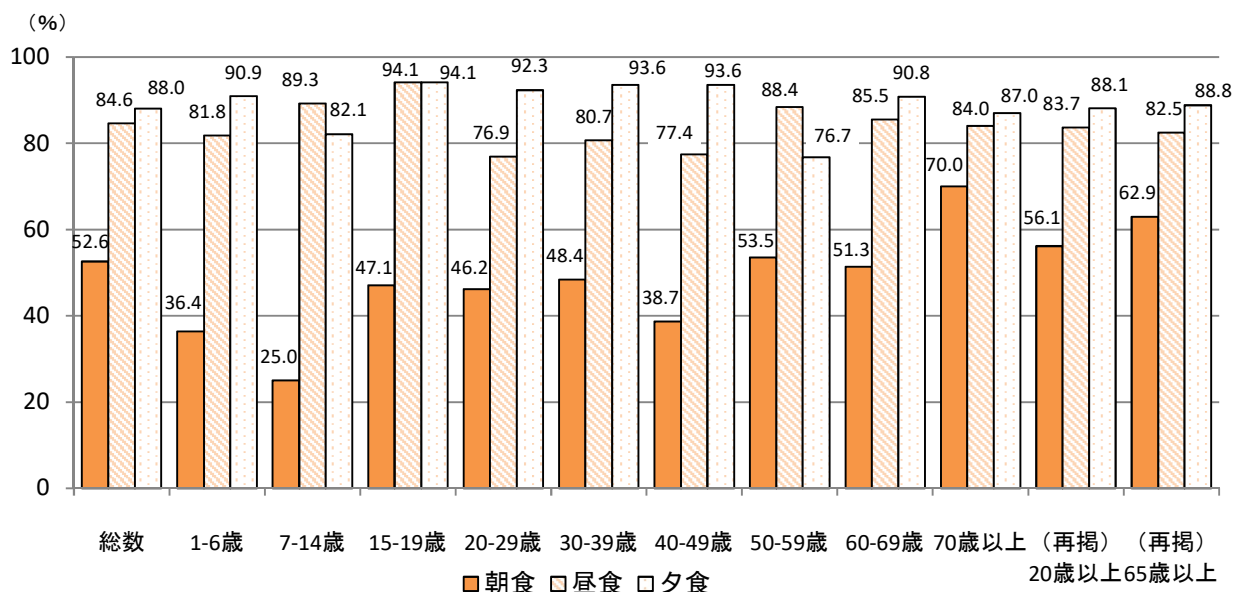


◆食品群の組合せの状況

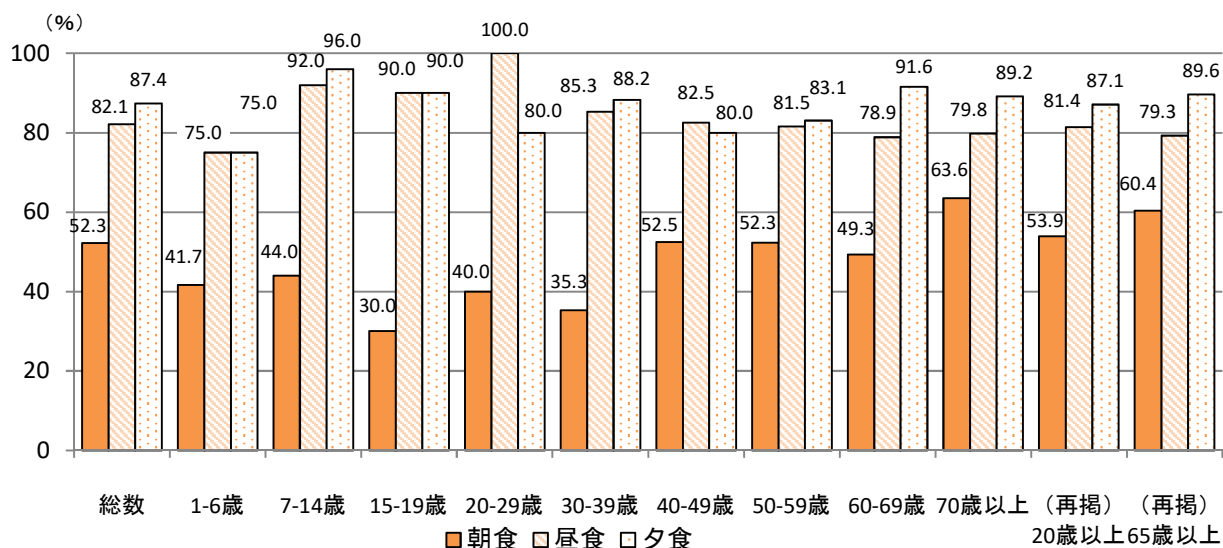
穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせる者の割合を朝・昼・夕食別にみると、男女ともに朝食で低くなっていた。

朝食に穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせる者の割合を性・年齢階級別にみると、男性では40歳代まで、女性では30歳代までと60歳代が半数に満たなかった。20歳以上では、男性は40歳代が、女性は30歳代が最も低くなっていた。

【図41】 穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせる者の割合
(男性、年齢階級別、朝・昼・夕食別)



【図42】 穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせる者の割合
(女性、年齢階級別、朝・昼・夕食別)

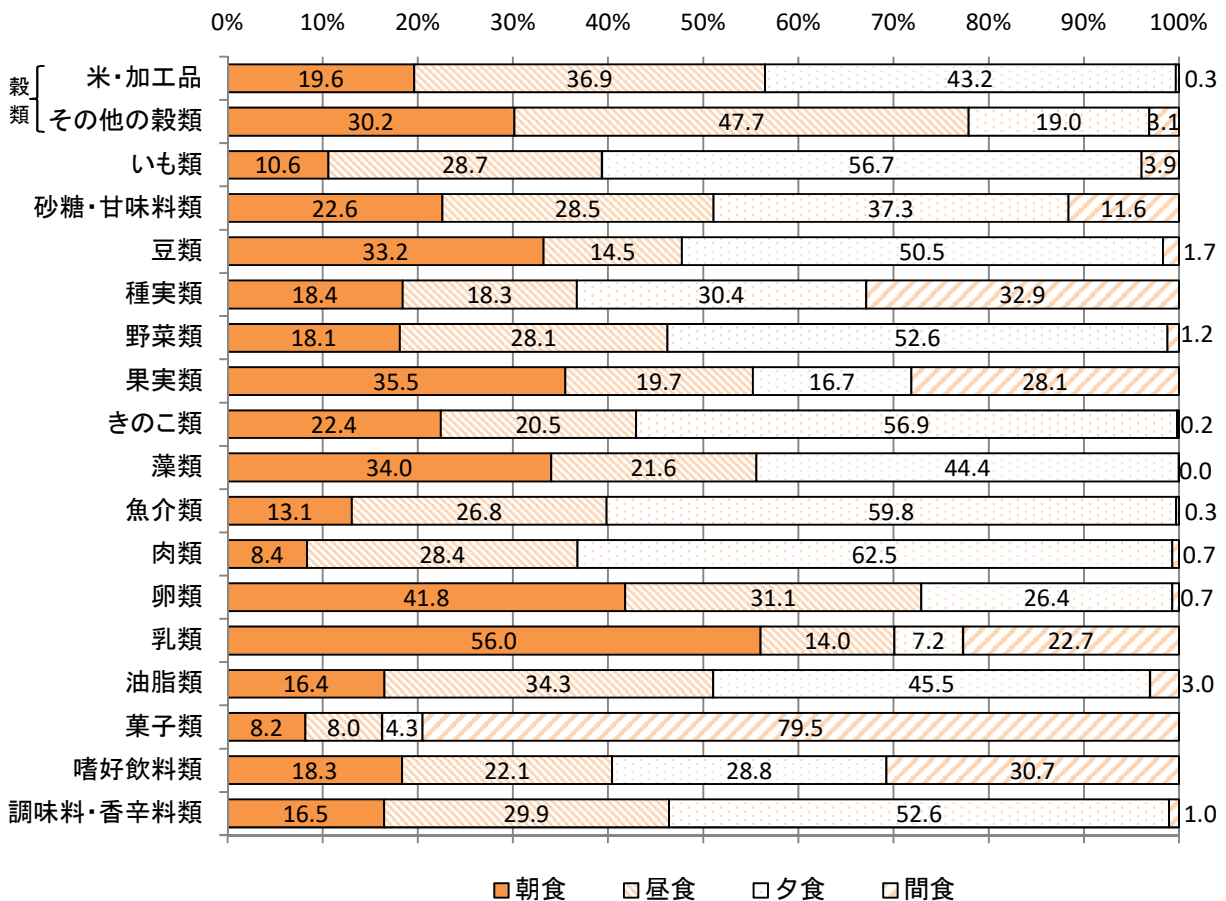


※「穀類と魚介類・肉類・卵・大豆(大豆製品)と野菜を組み合わせる」とは、いずれの食品群も摂取することであり、摂取量については、考慮していない

◆朝・昼・夕・間食別食品群別摂取比率

果実類、卵類、乳類の3群は、朝食での摂取比率が最も高かった。
 その他の穀類は、昼食での摂取比率が最も高かった。
 米・加工品、いも類、砂糖・甘味料類、豆類、野菜類、きのこ類、藻類、魚介類、肉類、油脂類、調味料・香辛料類の11群は、夕食での摂取比率が最も高かった。
 種実類、菓子類、嗜好飲料類の3群は、間食での摂取比率が最も高かった。

【図43】朝・昼・夕・間食別食品群別摂取比率(総数)

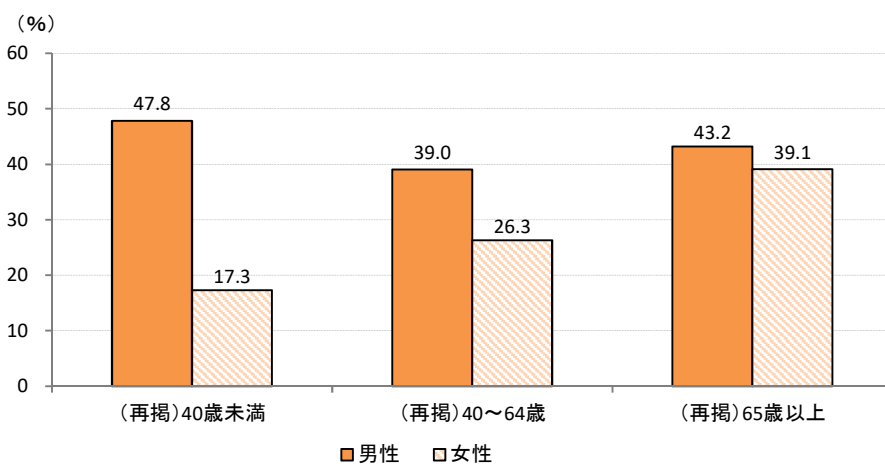
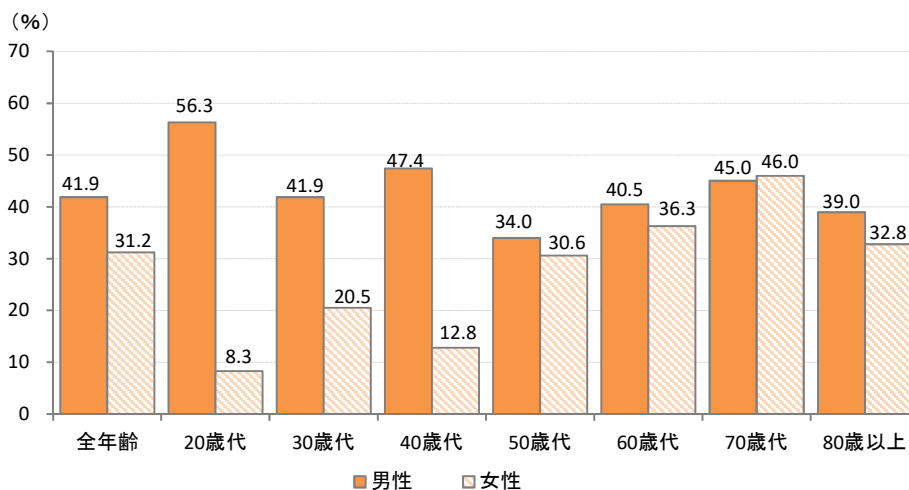


2 身体活動・運動に関する状況

◆身体活動に関すること

1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している者の割合は、男性は41.9%、女性は31.2%であった。70歳代を除いて男性の方が高かった。

【図44】 1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している者の割合（性・年齢階級別）



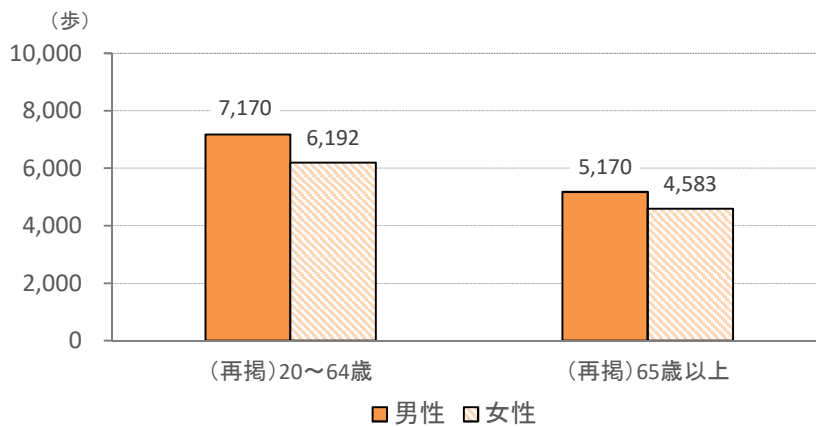
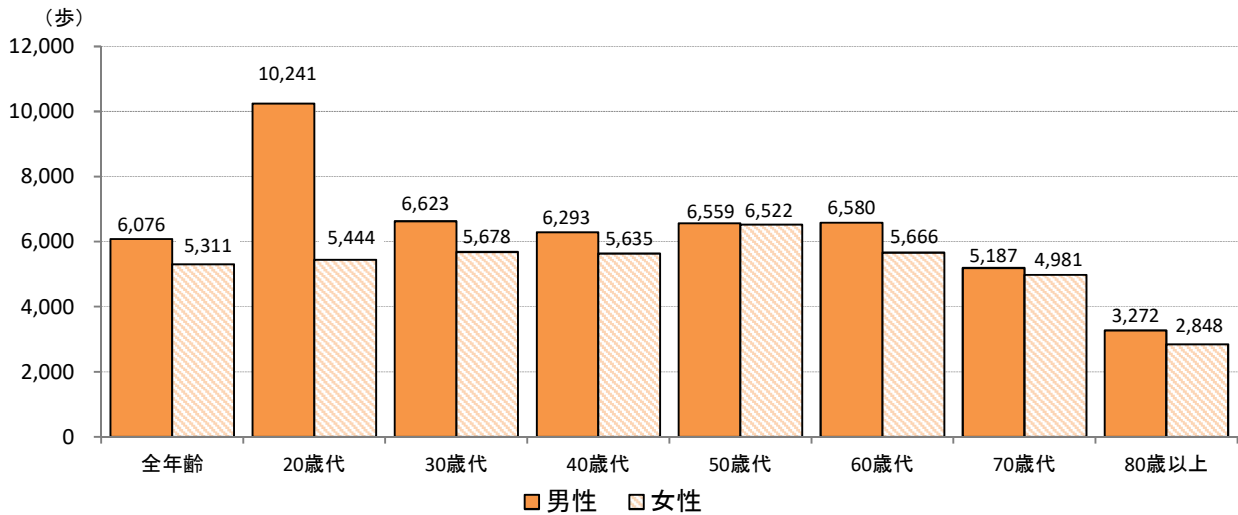
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
運動習慣者の割合

目標値(令和5年度) : 40～64歳 男性45% 女性43%
65歳以上 男性65% 女性58%

◆1日の歩行数

20～64歳の歩数は、男性が7,170歩、女性が6,192歩であった。
65歳以上の歩数は、男性が5,170歩、女性が4,583歩であった。

【図45】 1日の歩行数（性・年齢階級別）



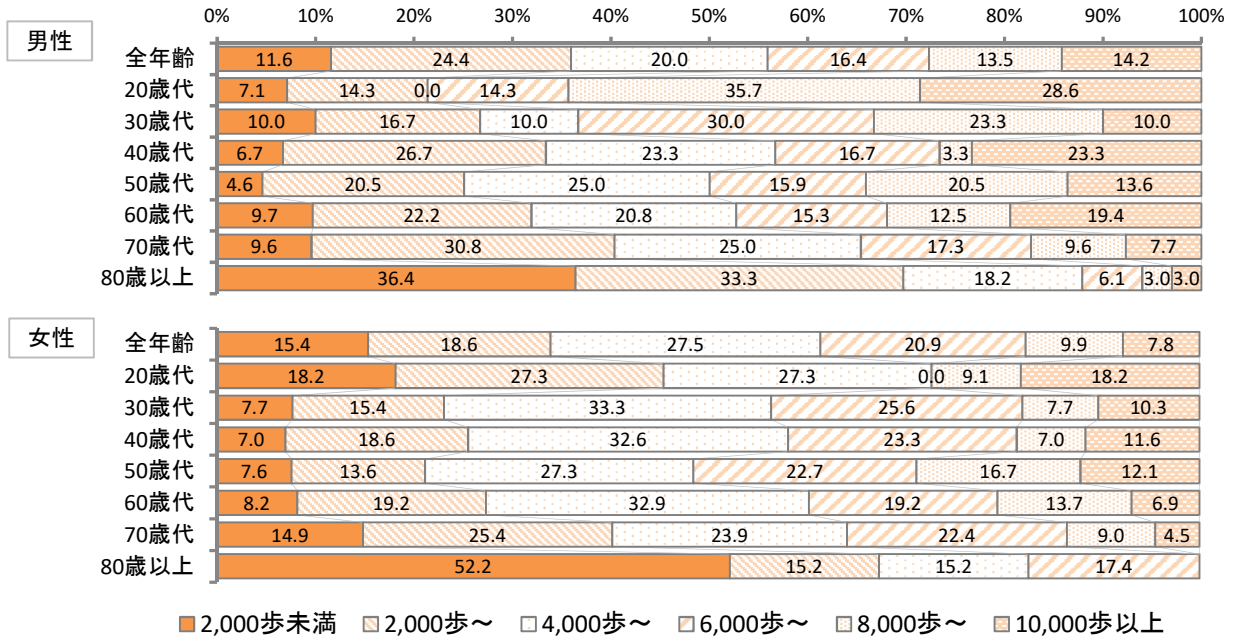
(参考)第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
日常生活における歩数
目標値(令和5年度)：

20～64歳	男性	8,500歩	女性	8,500歩
65歳以上	男性	7,000歩	女性	6,500歩

◆歩行数の分布

男女とも10,000歩以上の者の割合は20歳代が最も多かった。
また、2,000歩未満の者の割合は男女ともに80歳以上が最も多く、70歳代から80歳以上までの増加率は男性が3.8倍、女性が3.5倍と高くなっていた。

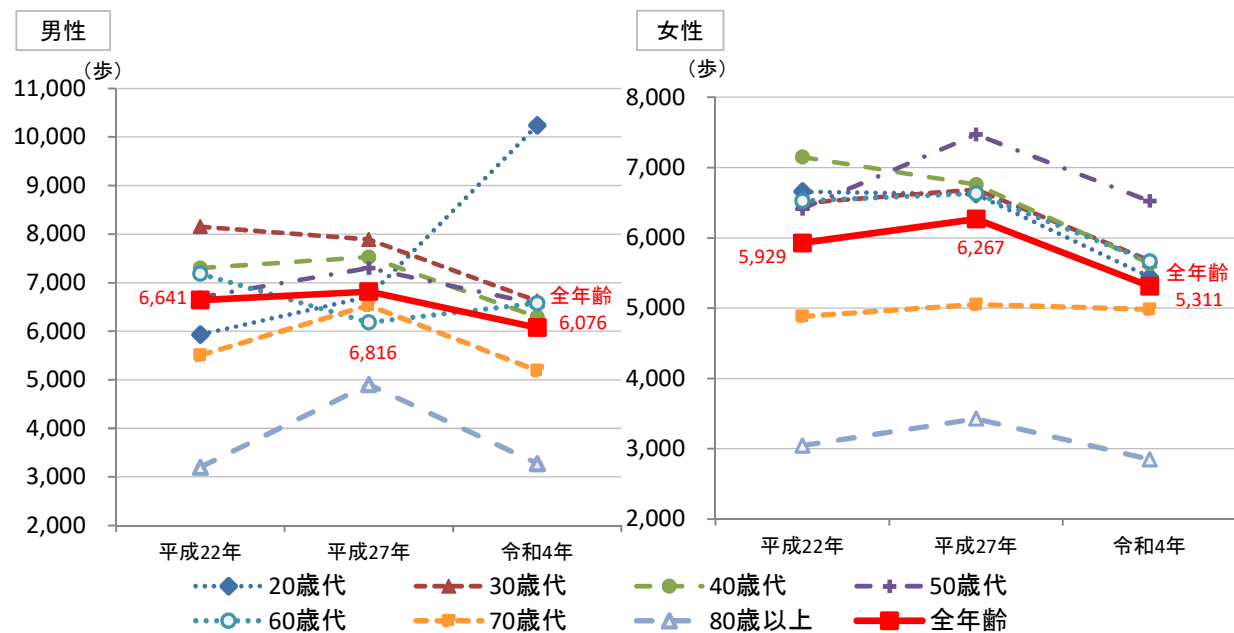
【図46】 1日の歩行数の分布（性・年齢階級別）



◆平均歩行数の年次推移

男性は前回調査より20歳代、60歳代を除く全ての年代で減少していた。20歳代が最も増加幅が大きかった。女性は前回調査より全ての年代で減少していた。
(※「全年齢」は、平成27年は20歳以上、平成22年は15歳以上のため、単純比較はできない。)

【図47】 平均歩行数の年次推移

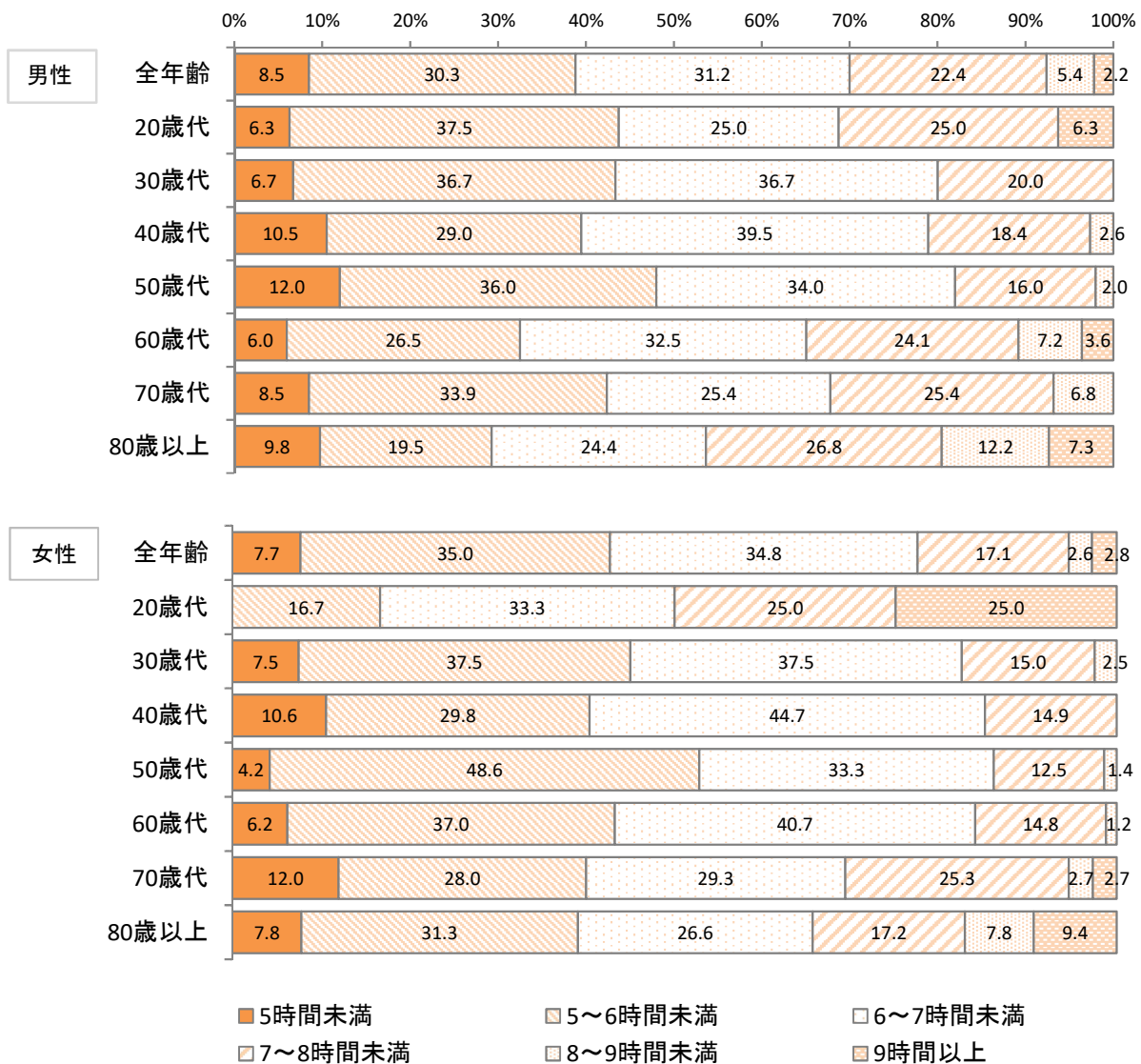


3 休養に関する状況

◆睡眠に関すること

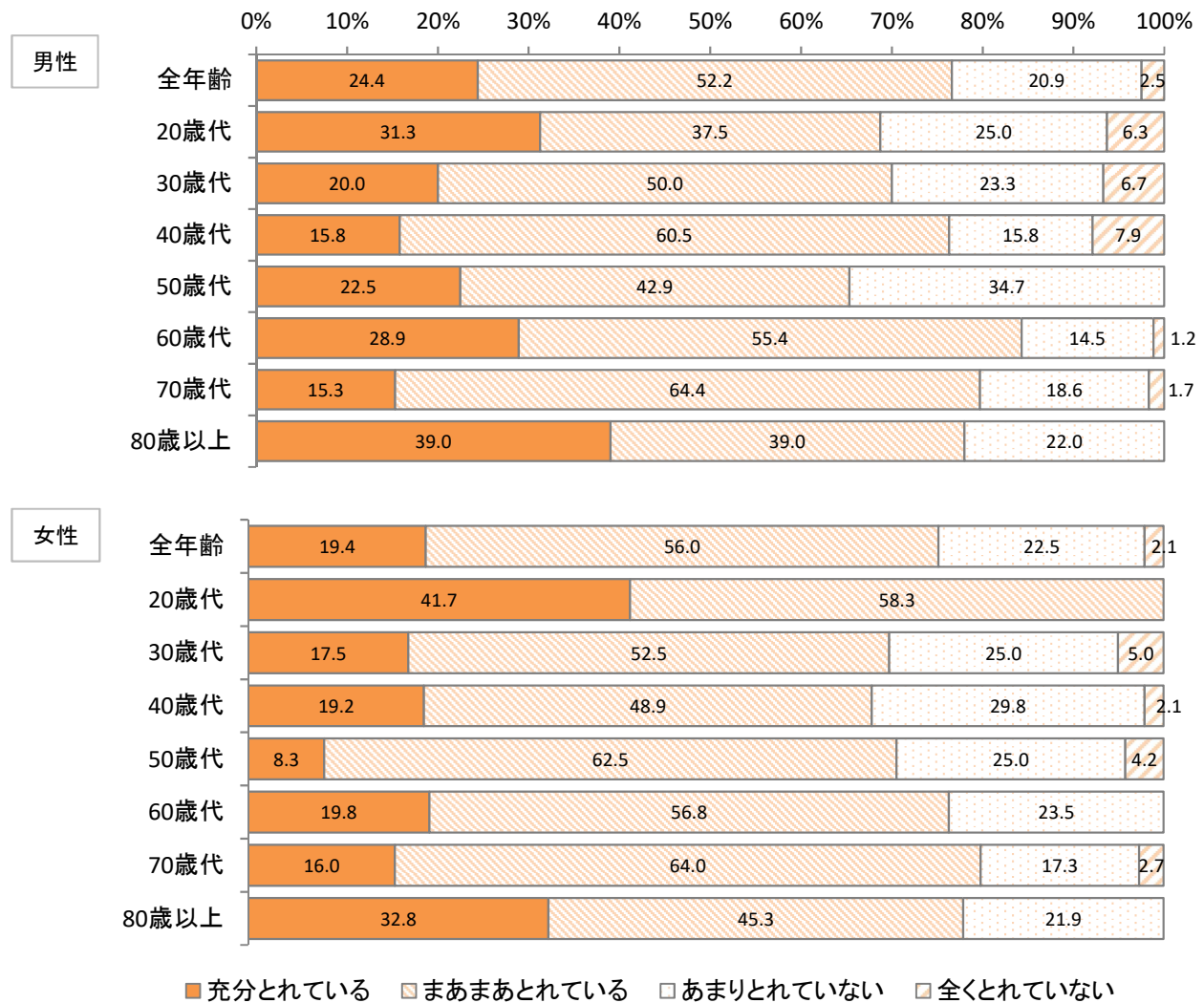
普段の睡眠時間の状況は、男性では多い順に「6～7時間未満」(31.2%)、「5～6時間未満」(30.3%)、「7～8時間未満」(22.4%)であった。
女性では多い順に「5～6時間未満」(35.0%)、「6～7時間未満」(34.8%)、「7～8時間未満」(17.1%)であった。

【図48】 普段の睡眠時間の状況（性・年齢階級別）



睡眠で十分に休養がとれていると感じている者の割合は、男性24.4%、女性19.4%であった。
一方、「あまりとれていない」、「全くとれていない」と感じている者の割合は、男性23.4%、女性24.6%であった。
性・年齢階級別にみると、男性では50歳代の割合が最も高く34.7%であり、女性では40歳代の割合が最も高く31.9%であった。

【図49】ここ1か月間、睡眠で十分に休養がとれている者の割合（性・年齢階級別）

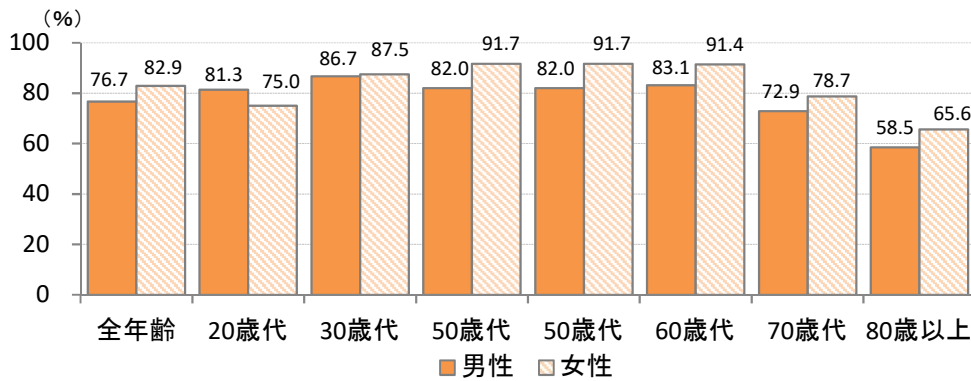


(参考)第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
睡眠による休養を十分取れていない者の割合
目標値(令和5年度) : 15%

◆ストレスに関すること

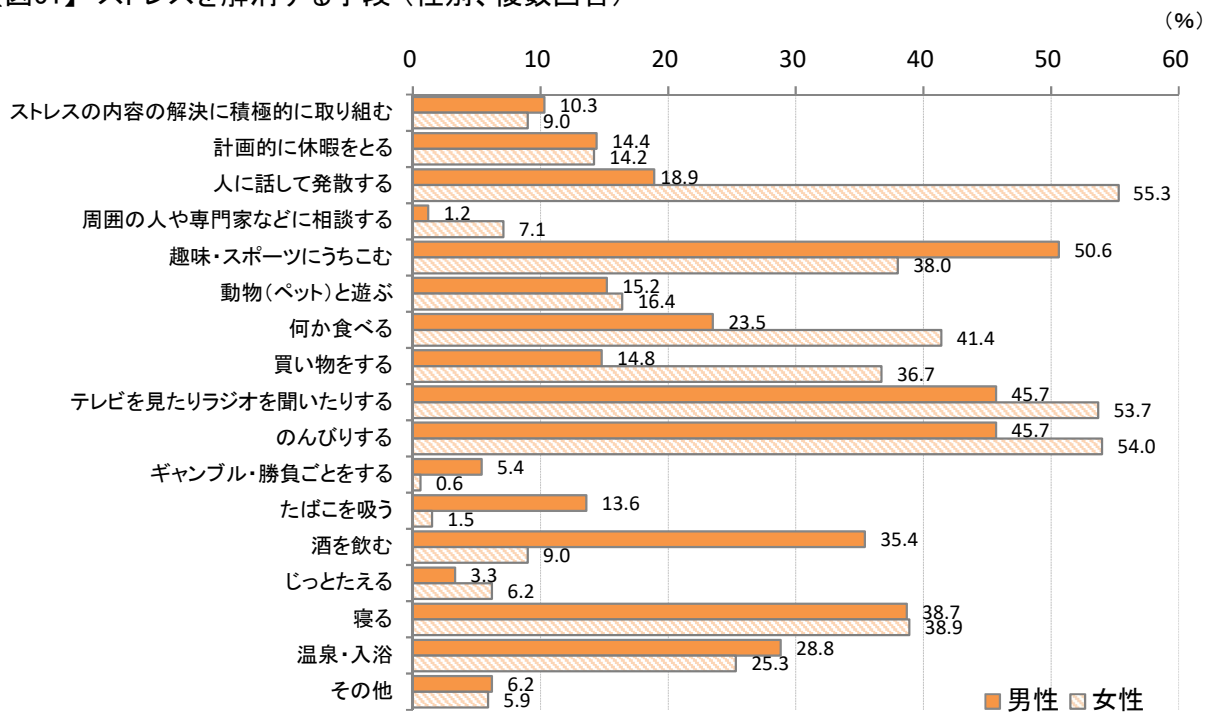
ストレスを解消する手段を持っている者の割合は、男性76.7%、女性82.9%であった。
 ストレスを解消する手段は、回答の多い順に、男性は「趣味・スポーツにうちこむ」、「テレビを見たりラジオを聞いたりする」、「のんびりする」、「寝る」であった。
 女性は「人に話して発散する」、「のんびりする」、「テレビを見たりラジオを聞いたりする」、「何か食べる」であった。

【図50】 ストレスを解消する手段を持っている者の割合（性・年齢階級別）



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
 ストレスを解消する手段(方法)を持っている人の割合
 目標値(令和5年度) : 87.4%(平成22年度)から増加させる

【図51】 ストレスを解消する手段（性別、複数回答）



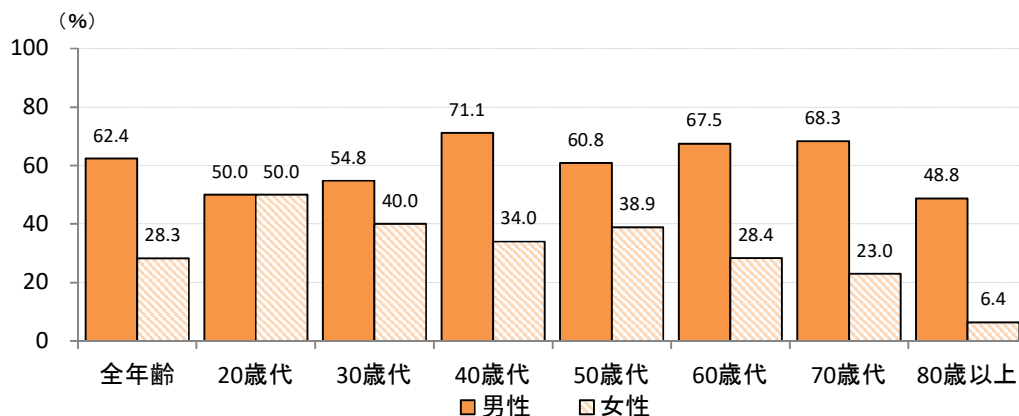
4 飲酒に関する状況

◆飲酒に関すること

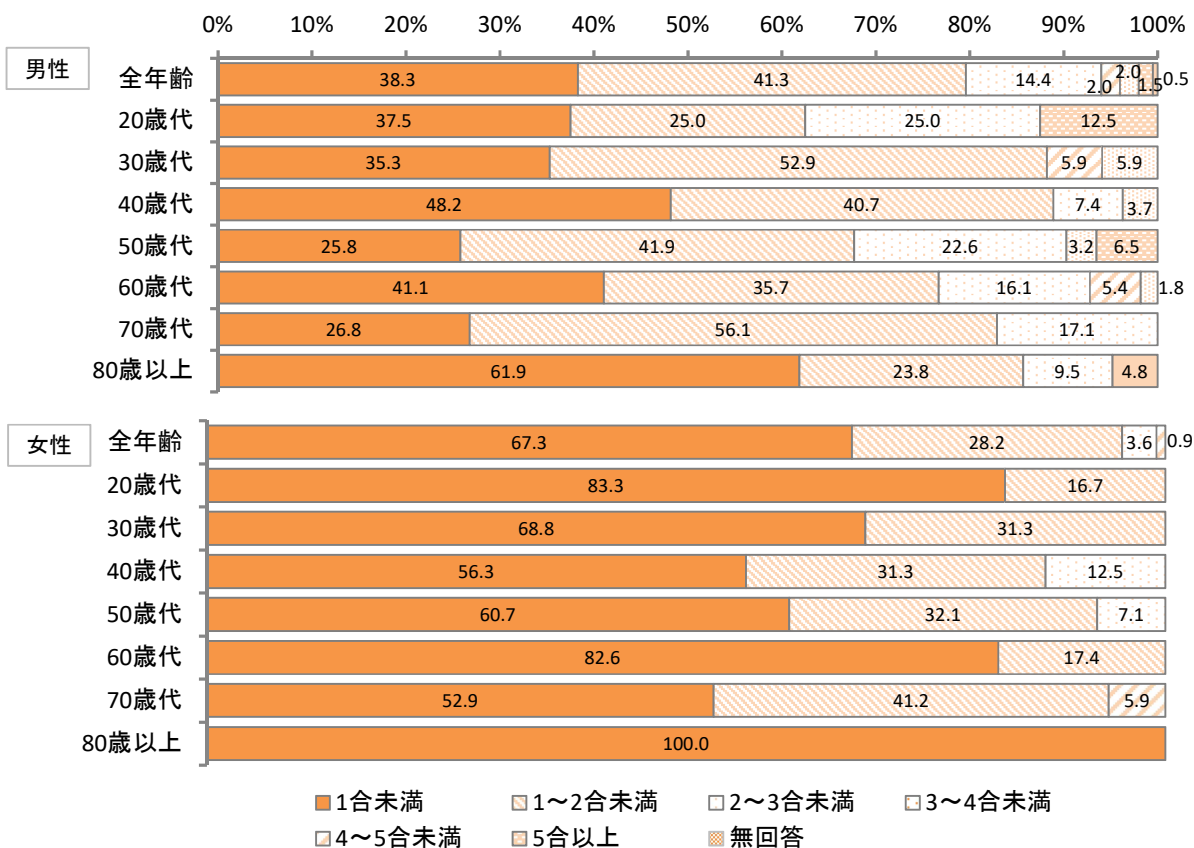
飲酒習慣のある者(月に1回以上アルコール類(お酒)を飲んでいる者)の割合は、男性は62.4%、女性は28.3%であった。

1日当たりの飲酒量では、男性(清酒換算で2合(40g)以上を飲んでいる者)の割合は20.4%、女性(清酒換算で1合(20g)以上)飲んでいる者)の割合は32.7%であった。

【図52】 飲酒習慣のある者(月1回以上飲む者)の割合(性・年齢階級別)



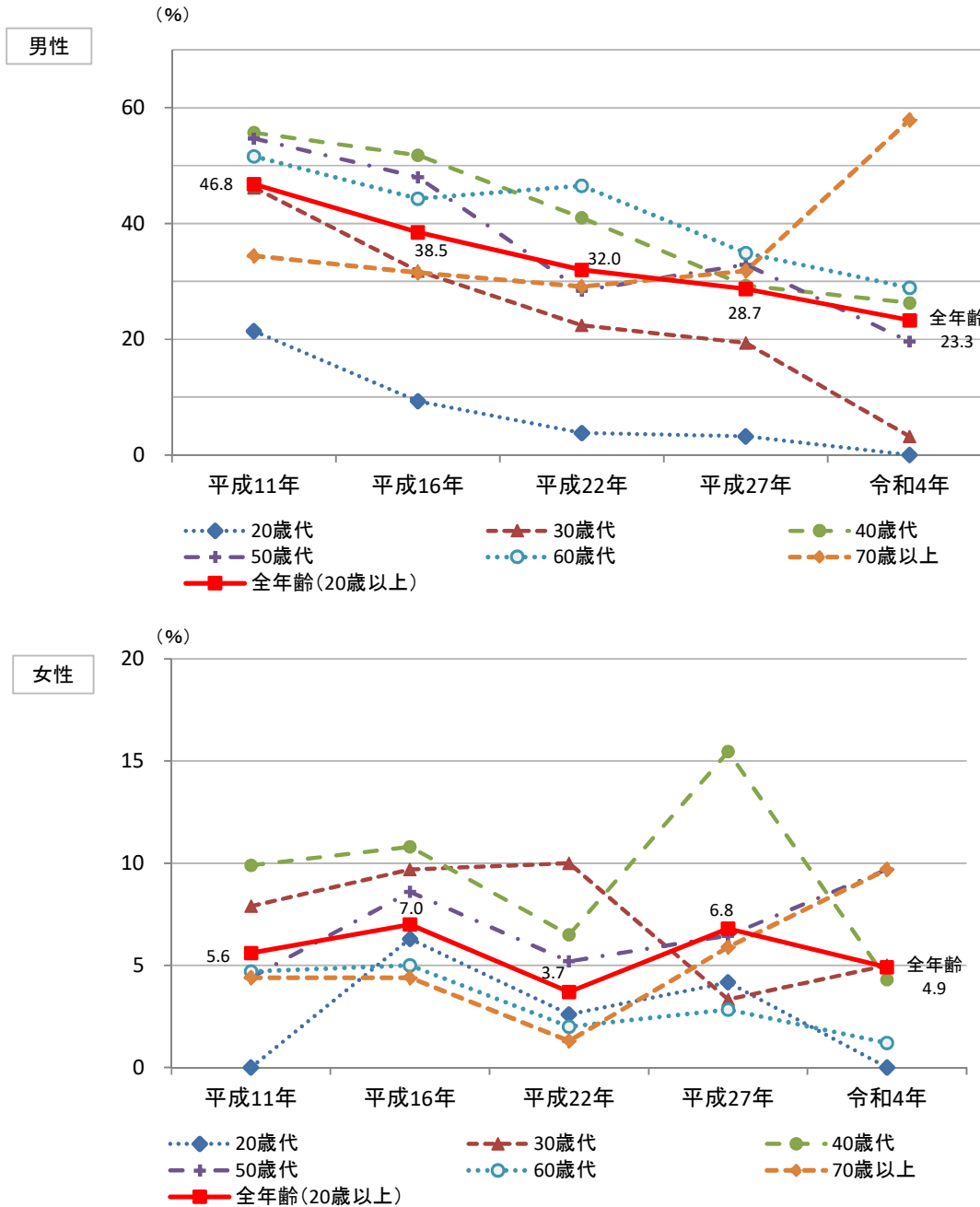
【図53】 1日当たりの飲酒量(性・年齢階級別)



◆飲酒習慣者(毎日)の年次推移

毎日飲酒する者の割合は、男性では70歳以上を除いて減少傾向にあり、女性では20歳代、40歳代、60歳代では減少傾向であった。
(※平成11年～平成16年は、「ほとんど毎日(週6日以上)飲酒する者」の割合)

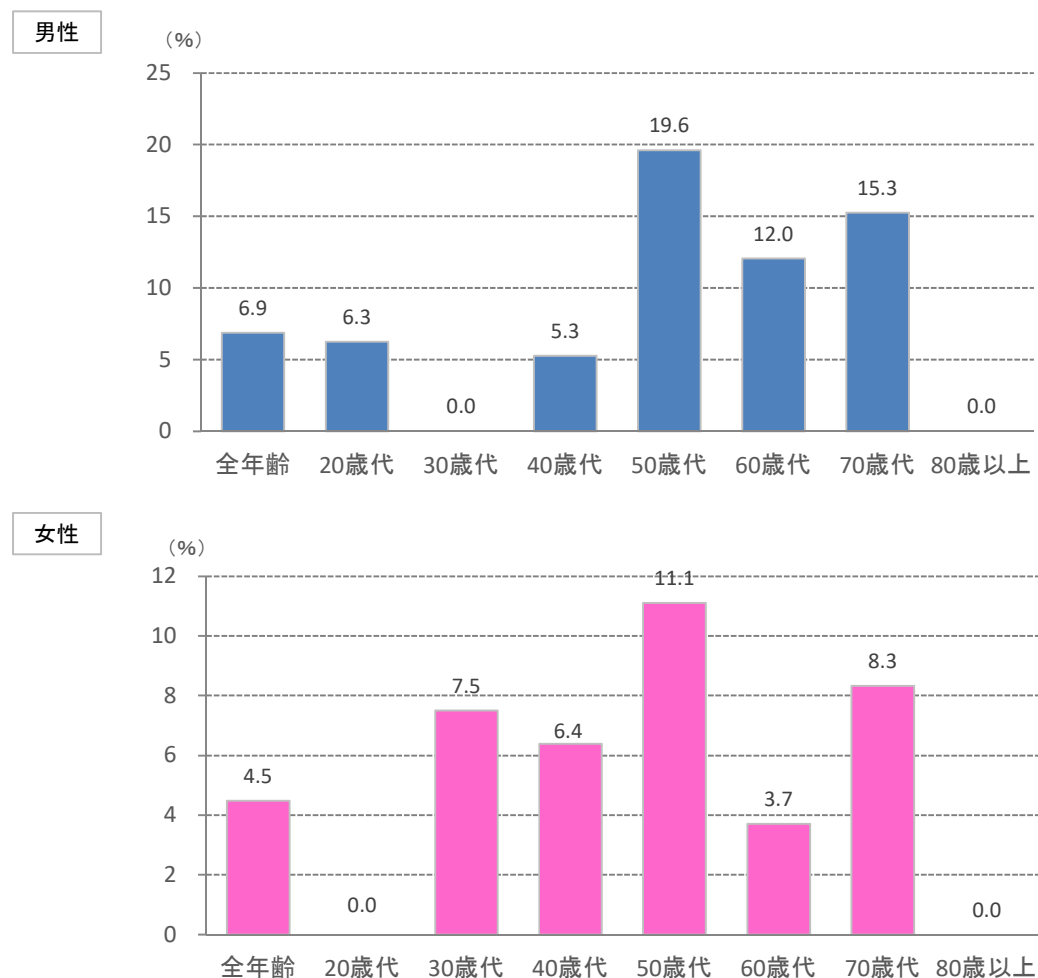
【図54】 飲酒習慣者(毎日)の年次推移 (性・年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
1日当たりの純アルコール摂取量が
男性40g以上、女性20g以上の者の割合
目標値(令和5年度)： 男性 9.5% 女性 6.4%

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(20歳以上)は、男性が6.9%、女性が4.5%であった。男性、女性ともに、50歳代の割合が最も高くなっていった。

【図55】生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者



(参考)愛媛県アルコール健康障害対策推進計画の目標
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合
目標値(令和4年度)： 男性9.5% 女性6.4%

※「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人」とは、1日当たりの純アルコール摂取量が男性で40g以上、女性で20g以上の人とし、以下の方法で算出

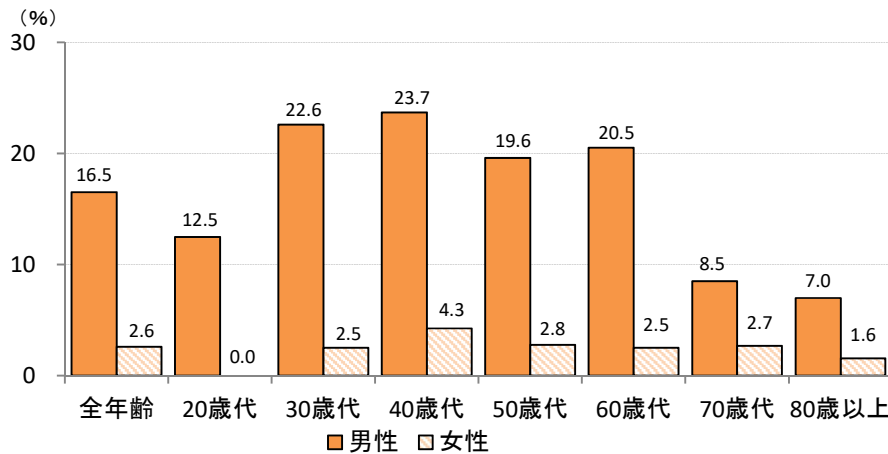
男性：「毎日×2合以上」+「週5～6日×2合以上」+「週3～4日×3合以上」+
「週1～2日×5合以上」+「月1～3日×5合以上」
女性：「毎日×1合以上」+「週5～6日×1合以上」+「週3～4日×1合以上」+
「週1～2日×3合以上」+「月1～3日×5合以上」

5 喫煙に関する状況

◆喫煙に関すること

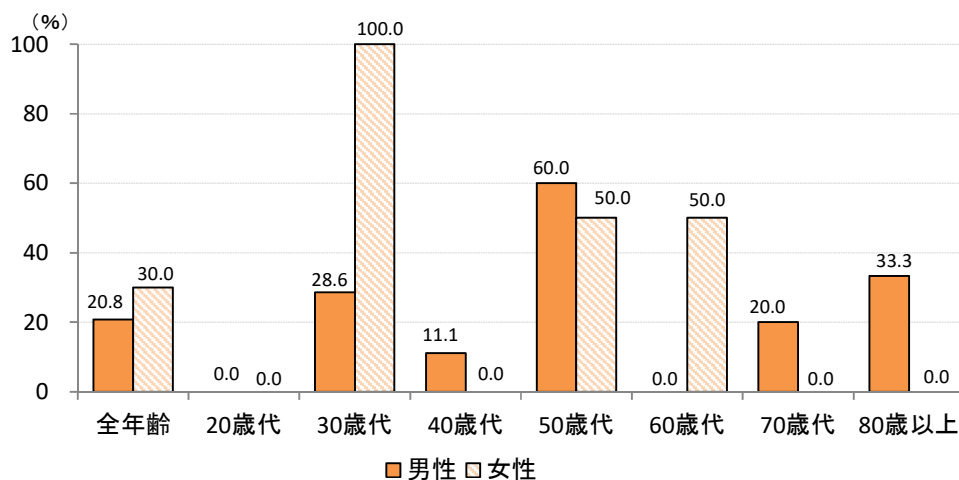
現在、習慣的にたばこを吸っている者の割合は、男性は40歳代の23.7%、女性は40歳代の4.3%が最も高かった。
禁煙に関する意識では、「チャンスがあれば禁煙したいと思う」、「この1か月以内に禁煙する予定である」を合わせると男性は20.8%、女性は30.0%であった。

【図56】 現在習慣的に喫煙している者の割合(性・年齢階級別)



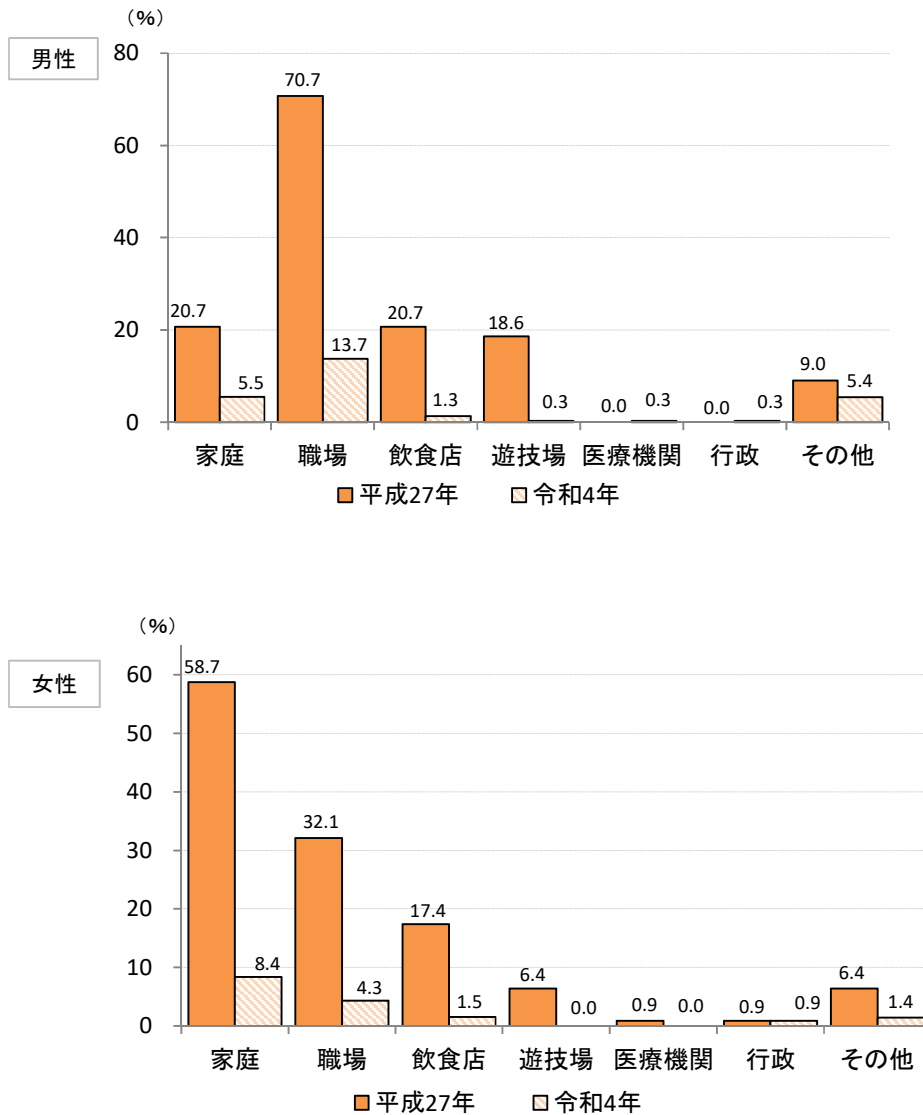
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
成人の喫煙率
目標値(令和5年度) : 8.2%

【図57】 現在習慣的に喫煙している者におけるたばこをやめたいと思う者の割合(「チャンスがあれば禁煙したいと思う」と「この1か月以内に禁煙をする予定である」と回答した者)
(性・年齢階級別)



週に数回以上受動喫煙のある者の割合は、平成27年では男性が職場で70.7%、女性が家庭で58.7%と最も多かったが、令和4年では男性が職場で13.7%、女性が家庭で8.4%と、健康増進法の改正により受動喫煙の割合は、大幅に減少した。

【図58】 受動喫煙の場所(性別、週に数回以上受動喫煙のある者、複数回答)

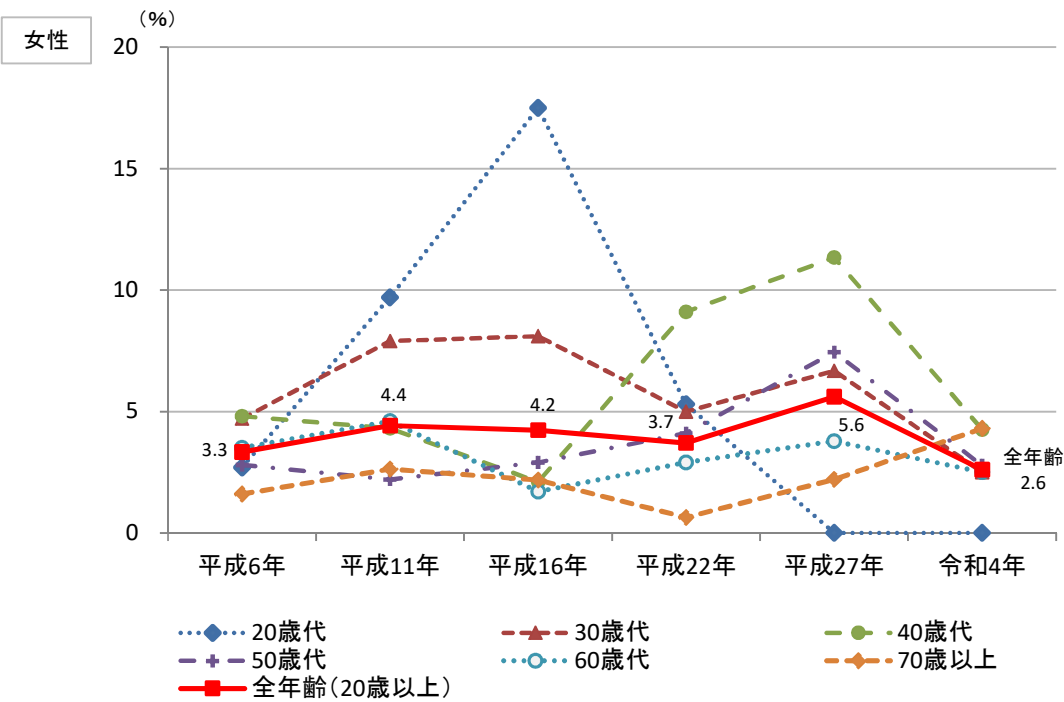
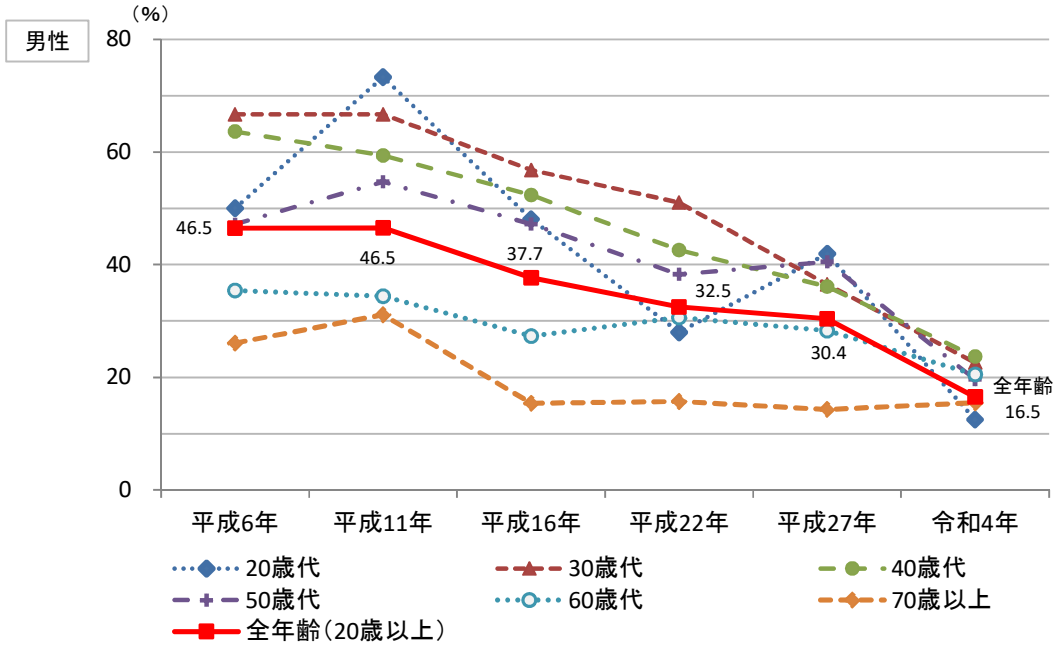


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
受動喫煙を受ける者の割合
目標値(令和5年度):
行政機関 0%
医療機関 0%
事業所 受動喫煙のない職場の実現
飲食店 29%

◆喫煙習慣者の年次推移

喫煙習慣者の割合は、男性、女性とも70歳以上を除き、どの年代も減少傾向であった。

【図59】 喫煙習慣者の年次推移（性・年齢階級別）



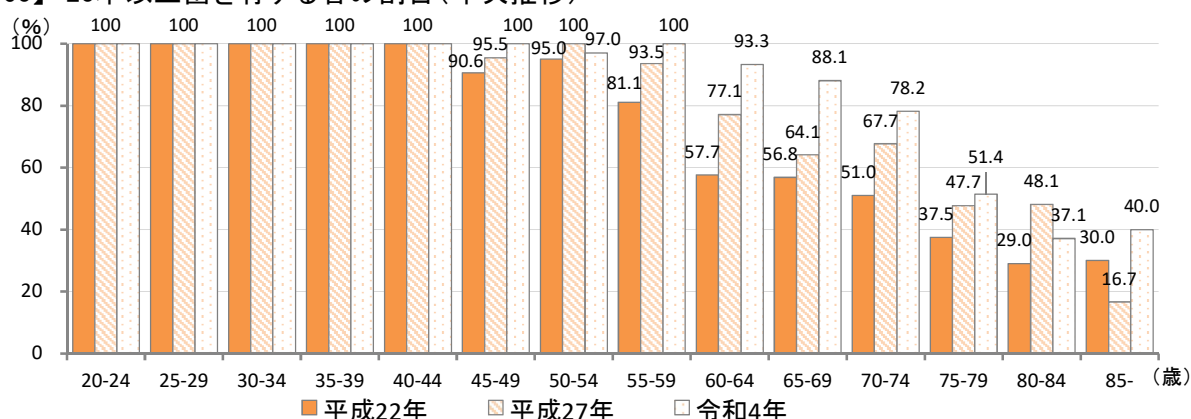
6 歯科に関する状況

(1) 歯の状況

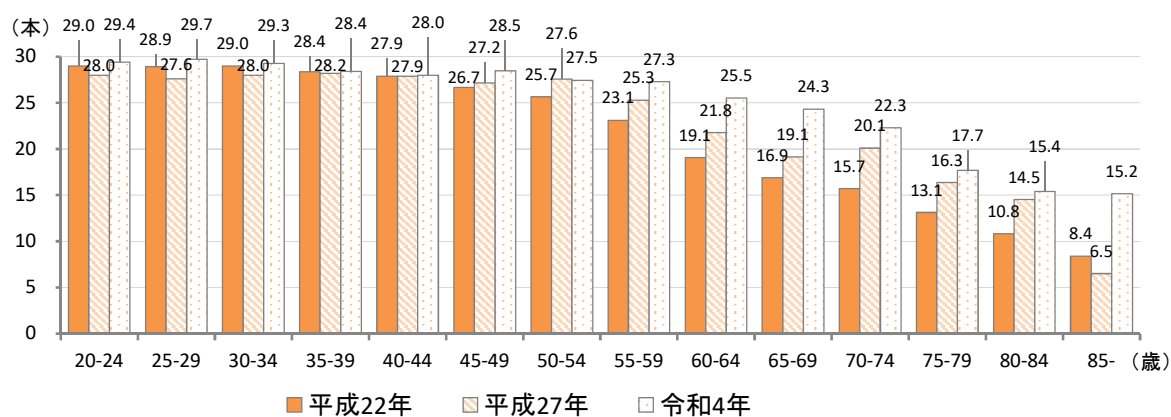
◆現在歯の状況

20本以上歯を有する者の割合は、概ね60歳から減少傾向で、75歳を超えると約半数まで減少した。経年的な比較では、20本以上歯を持つ者は概ね増加していた。
 1人平均現在歯数は加齢に伴い減少し、75歳を超えると20本を下回っていた。経年的な比較では、1人平均現在歯数も増加しており、特に60～74歳においては、大きく増加していた。
 60歳で24本以上歯を有する者の割合は、91.2%(*推定値)であった。
 80歳で20本以上歯を有する者の割合は、44.3%(*推定値)であった。
 ※60歳：55～59歳と60～64歳の割合を単純平均した値(歯-第14表参照)
 ※80歳：75～79歳と80～84歳の割合を単純平均した値

【図60】 20本以上歯を有する者の割合(年次推移)



【図61】 1人平均現在歯数(年次推移)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
 自分の歯を有する者の割合

目標値(令和5年度)： 60歳で24歯以上 75%以上
 80歳で20歯以上 50%以上

第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標

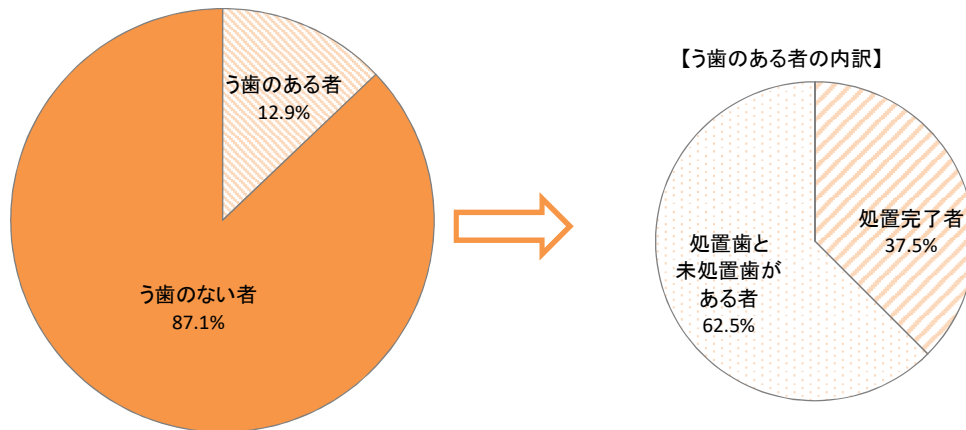
60歳で24本以上自分の歯を有する人の割合
 目標値(令和5年度)： 75%以上

80歳で20本以上自分の歯を有する人の割合
 目標値(令和5年度)： 50%以上

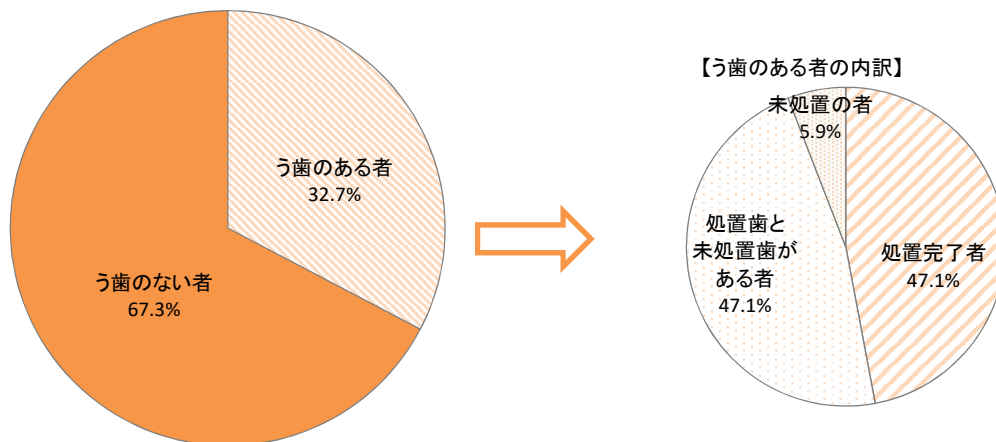
◆う歯の状況

1～14歳において、乳歯にう歯のある者の割合は12.9%であった。
5～14歳において、乳歯または永久歯にう歯のある者の割合は32.7%であった。

【図62】 う歯のある者の割合・乳歯(1～14歳)



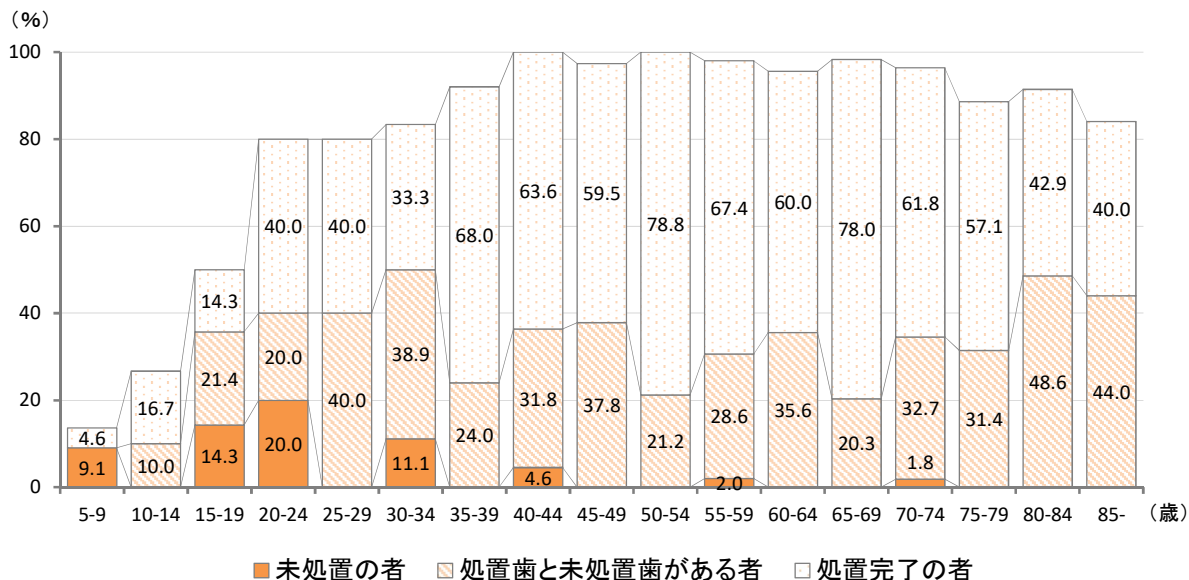
【図63】 う歯のある者の割合・乳歯+永久歯(5～14歳)



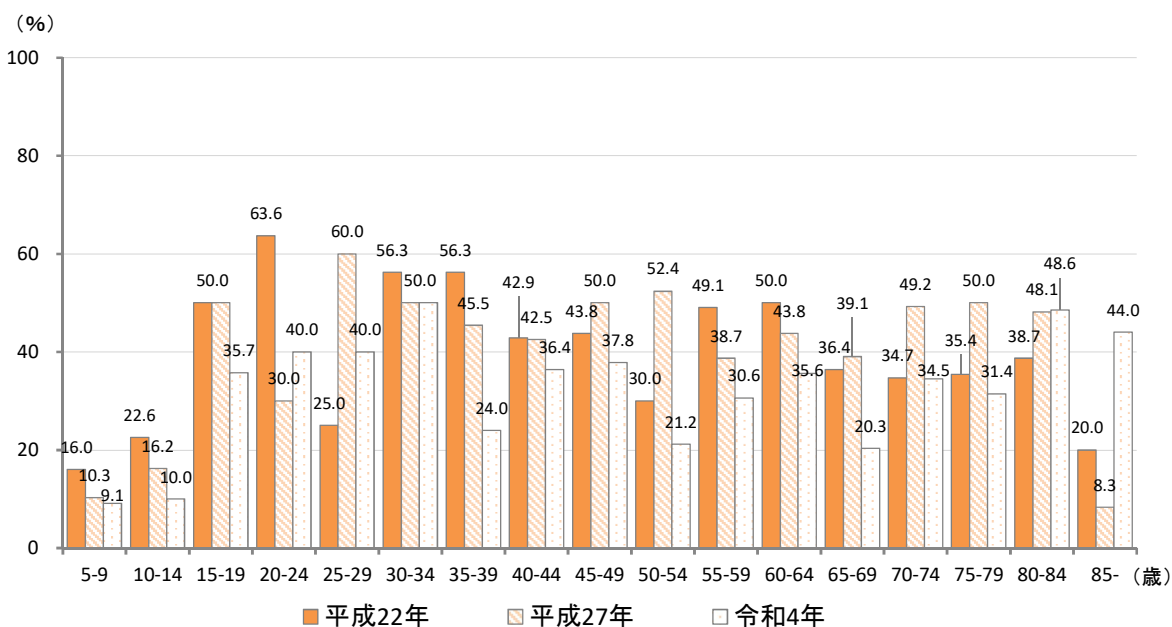
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
3歳児でう蝕(むし歯)がない者の割合
目標値(令和5年度) : 90%以上

永久歯にう歯のある者の割合は、40～70歳まではほぼ全ての者にう歯があった。
永久歯に未処置歯のある者の割合は、20歳代40.0%、30歳代34.9%、40歳代37.3%、50歳代26.8%、60歳代26.9%であった。(歯-第7表参照)
平成22年、27年と比較すると、15～19歳、35～44歳、55～64歳で年々減少していた。

【図64】 う歯のある者の割合・永久歯(5歳以上)



【図65】 未処置歯のある者の割合・永久歯(年次推移)

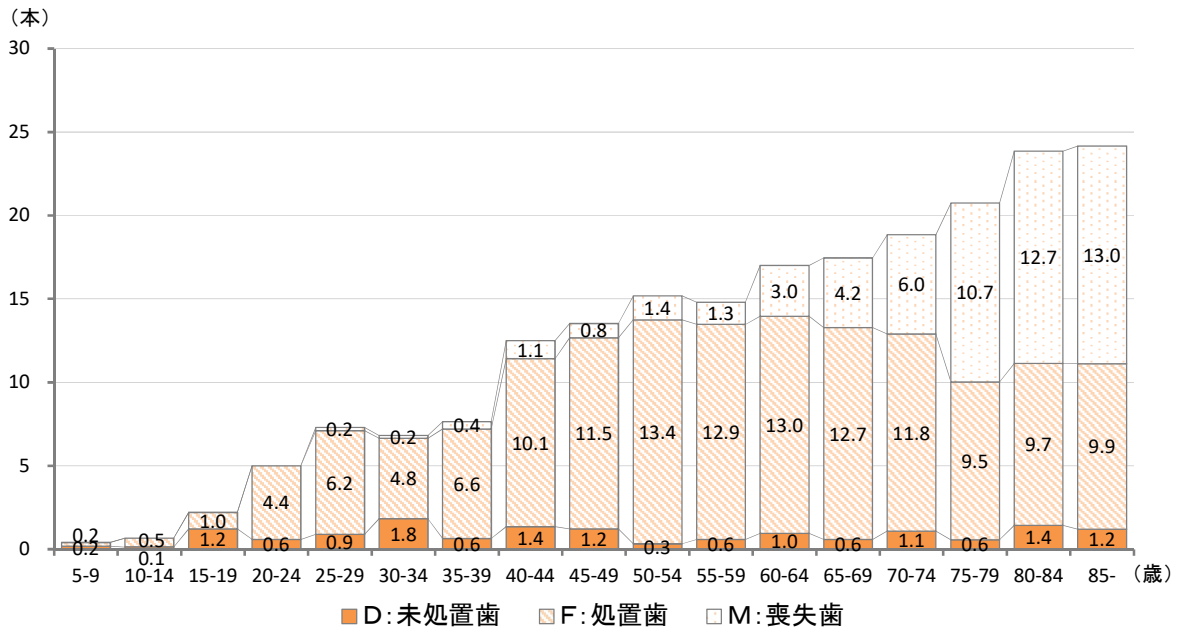


(参考) 第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
未処置歯を有する人の割合
目標値(令和5年度) : 40歳代 35%以下
60歳代 30%以下

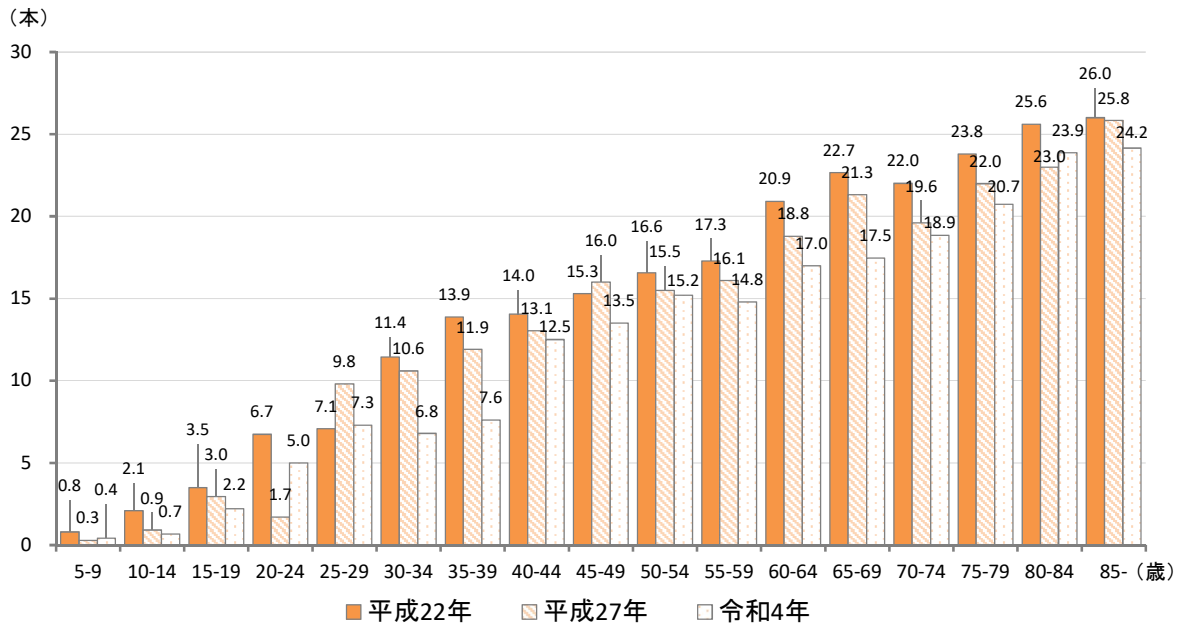
◆1人平均う歯数(DMFT指数)の状況

加齢に伴い1人平均う歯数は増加傾向が見られ、75歳以上は喪失歯が処置歯を上回っていた。平成22年及び平成27年と比較するとおおむね減少していた。

【図66】 1人平均う歯数(DMFT指数)・永久歯(5歳以上)



【図67】 1人平均う歯数(DMFT指数)・永久歯(年次推移)

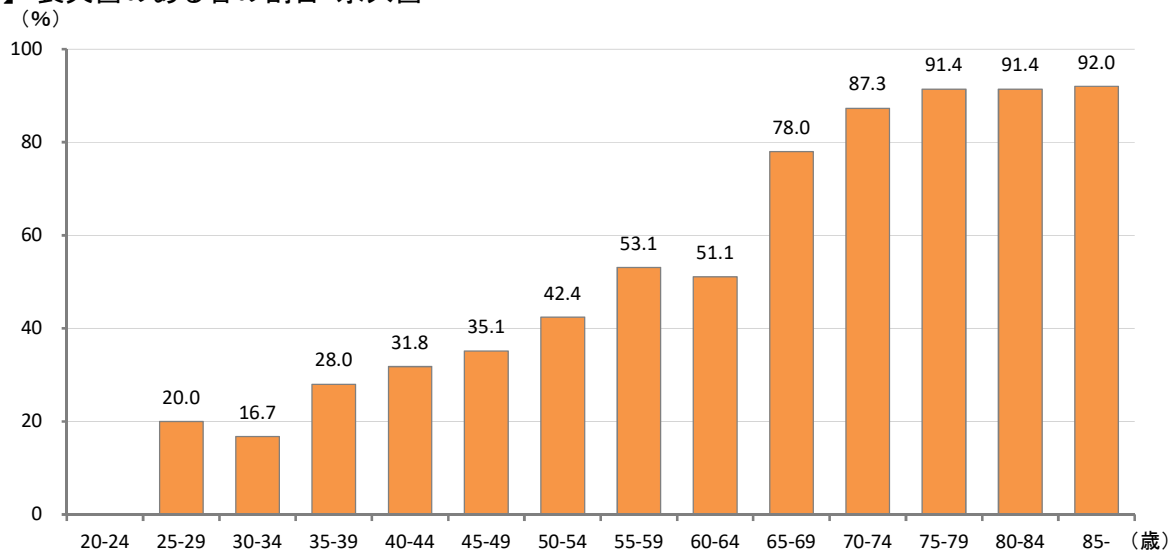


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
12歳児の1人平均う歯数
目標値(令和5年度) : 男子0.6本以下
女子0.8本以下

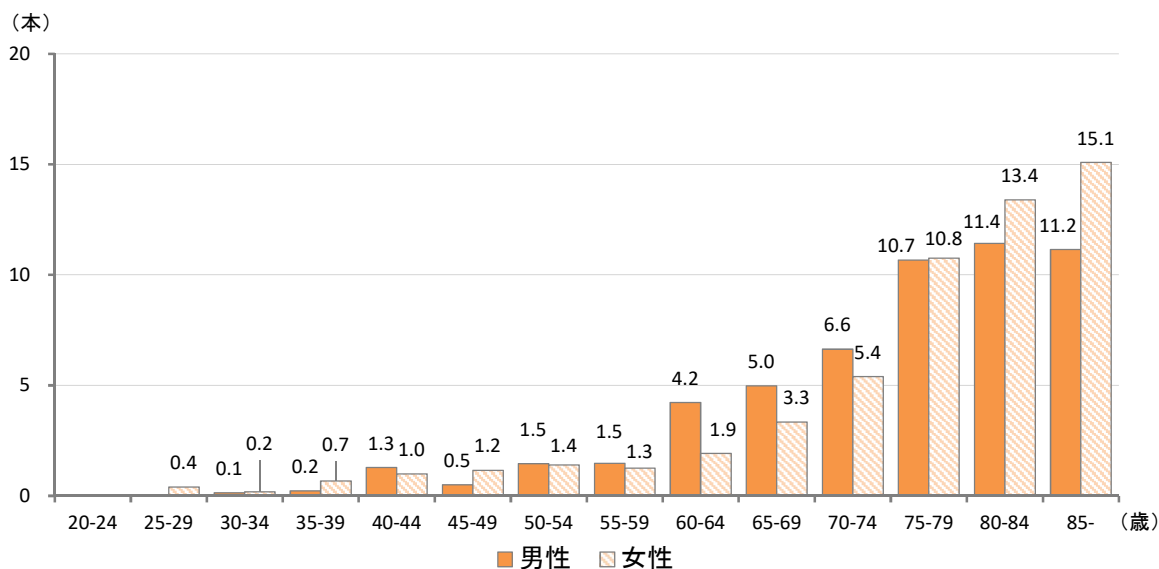
◆喪失歯の状況

喪失歯のある者の割合は、60～64歳以降で増加が著しかった。
1人平均喪失歯数を男女別で見ると、60～74歳までは男性が、75歳以上は女性が多かった。
40歳で喪失歯のない者の割合は、70.1%（※推定値）であった。
※35～39歳と40～44歳の割合を単純平均した値

【図68】 喪失歯のある者の割合・永久歯

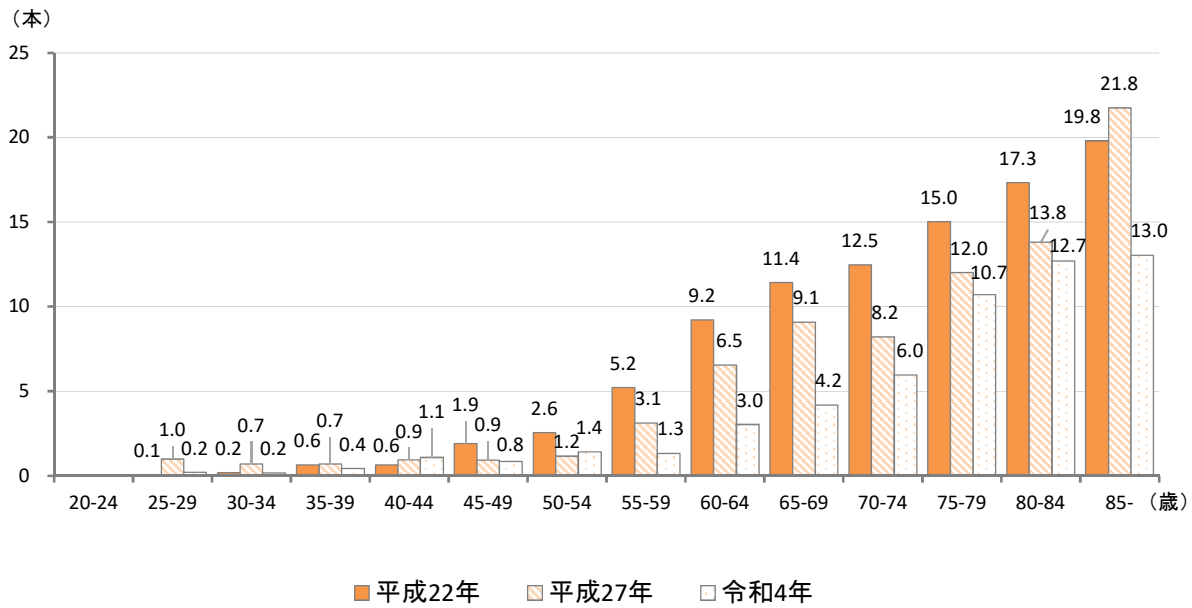


【図69】 1人平均喪失歯数・永久歯



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
40歳で喪失歯のない者の割合
目標値(令和5年度) : 75%以上

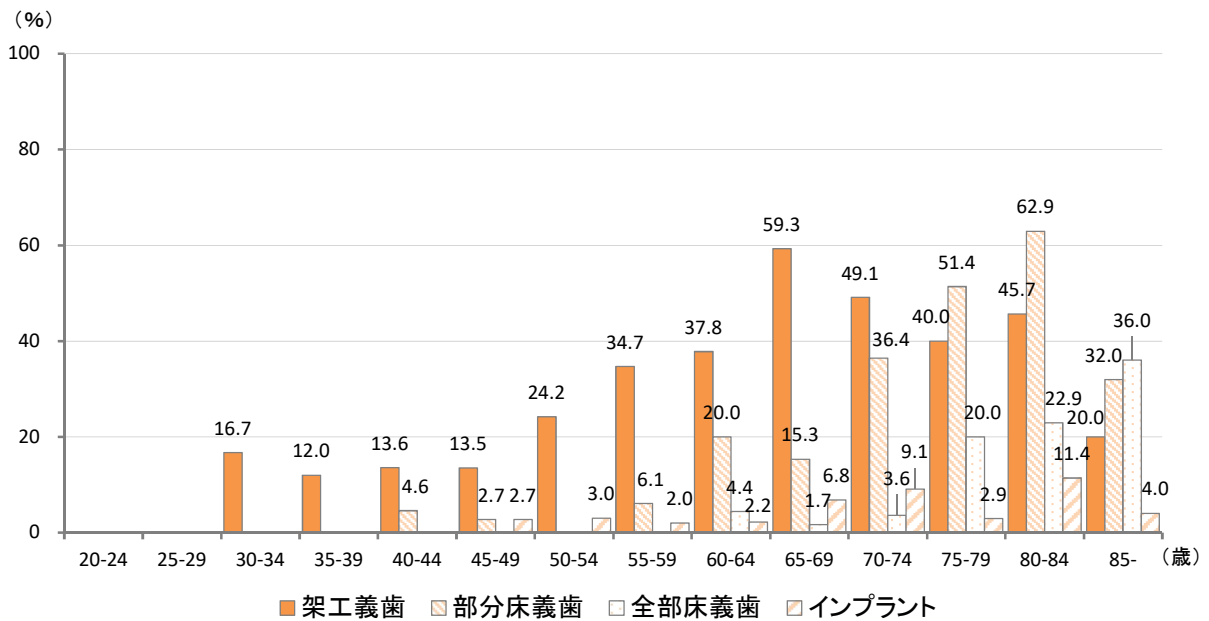
【図70】 1人平均喪失歯数・永久歯(年次推移)



◆補綴の状況

加齢とともに義歯の装着は増加し、ブリッジ(架工義歯)は30歳以上、部分入れ歯(部分床義歯)は40歳以上、インプラントは45歳以上、総入れ歯(全部床義歯)は60歳以上にみられた。

【図71】 補綴物の装着状況(架工義歯、部分床義歯、全部床義歯、インプラント)・永久歯(5歳以上)

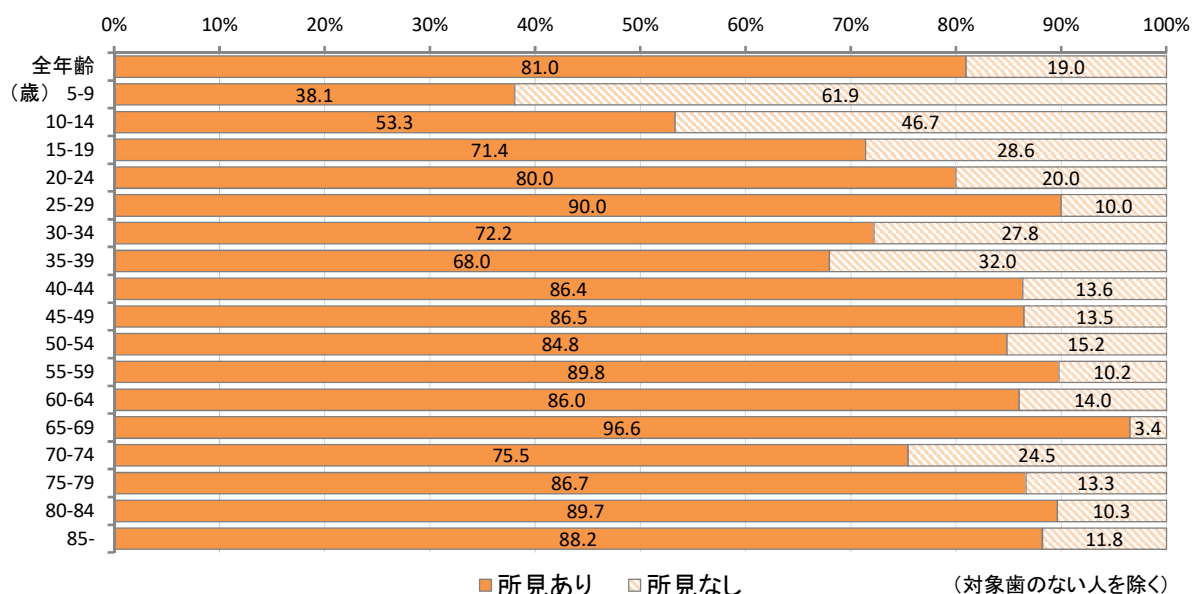


(2) 歯肉の状況

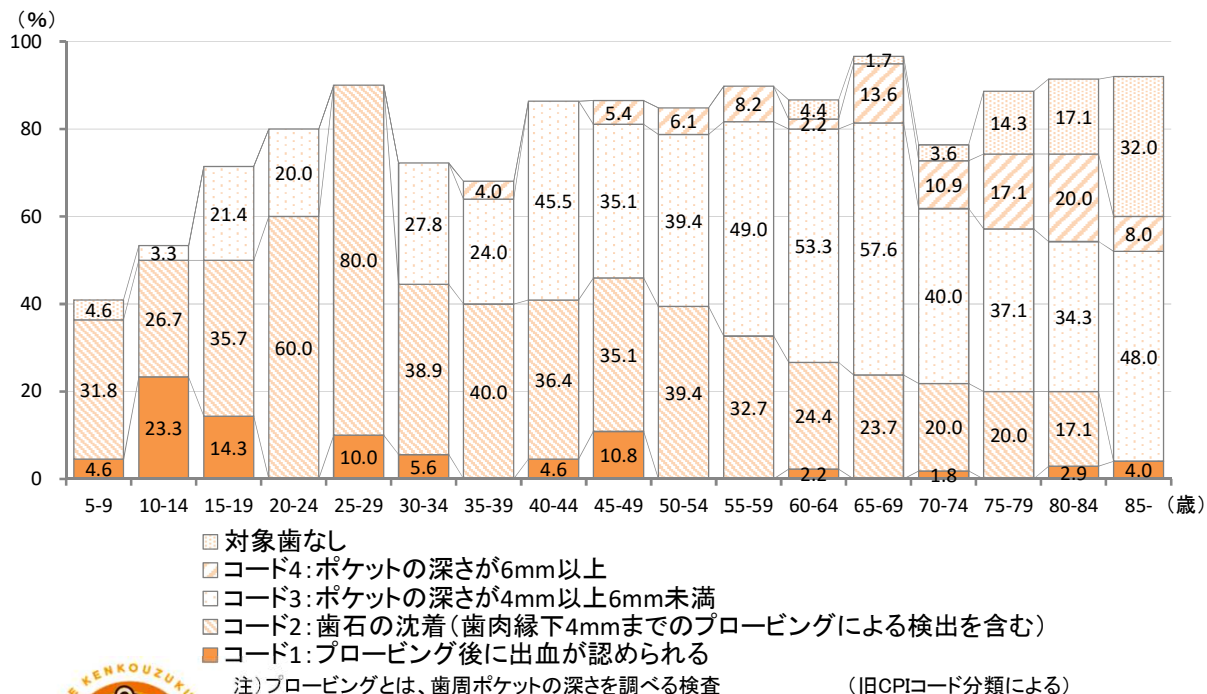
◆歯肉の状況

歯肉に所見がある者の割合は全体で81.0%であり、20歳代では86.7%であった。(歯-第30表参照)
歯肉の状況では、35歳以上(40～44歳を除く)で、歯周ポケットが深い者(コード4)がみられた。

【図72】 歯肉所見の有無・永久歯(5歳以上)



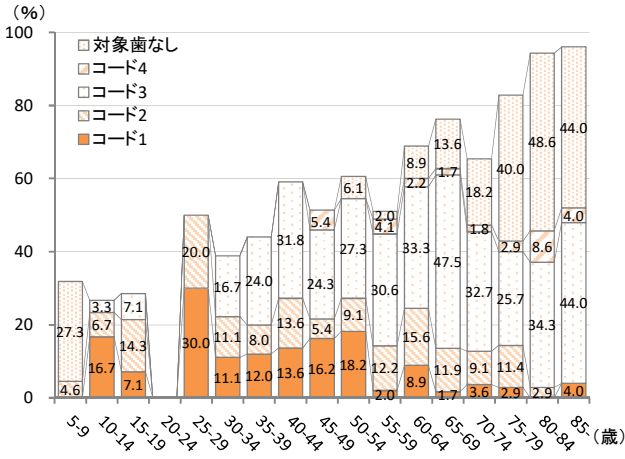
【図73】 歯肉の状況(全体)・永久歯(5歳以上)



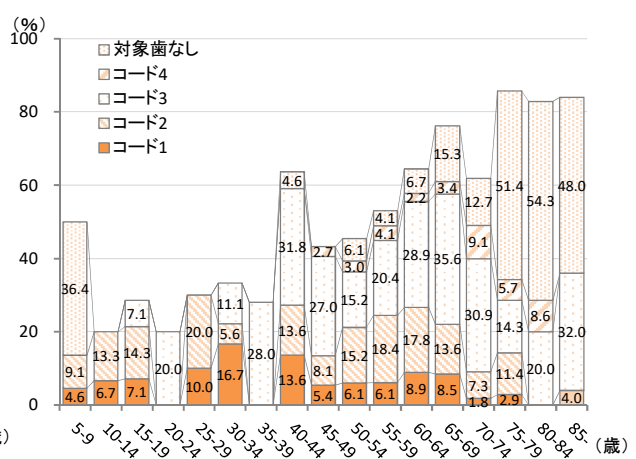
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合
目標値(令和5年度) : 25%以下

歯肉を6ブロックに分けて見ると、臼歯部において歯肉に所見のある者(コード1～4)の割合は、上顎は65～69歳、下顎は55～59歳が最も多く、前歯部においては上下顎とも40～44歳が最も多かった。前歯部では、上顎は64歳まで歯周ポケットが深い者(コード4)はおらず、下顎は75～79歳と85歳以上を除き歯周ポケットが深い者(コード4)はいなかったが、全ての年代に歯石の沈着(コード2)がみられた。

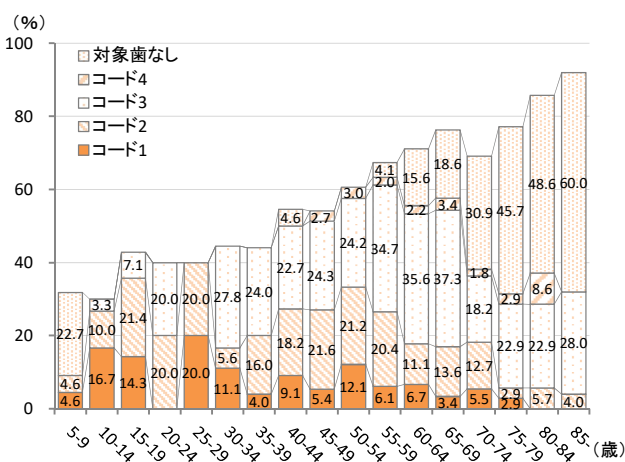
【図74】 歯肉の状況(右側上顎臼歯部)



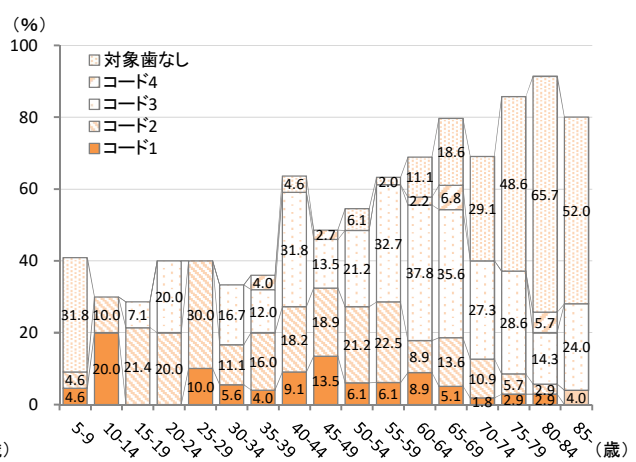
【図75】 歯肉の状況(左側上顎臼歯部)



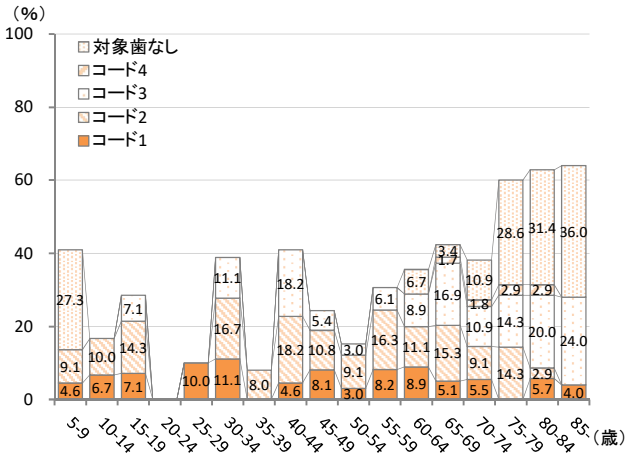
【図76】 歯肉の状況(右側下顎臼歯部)



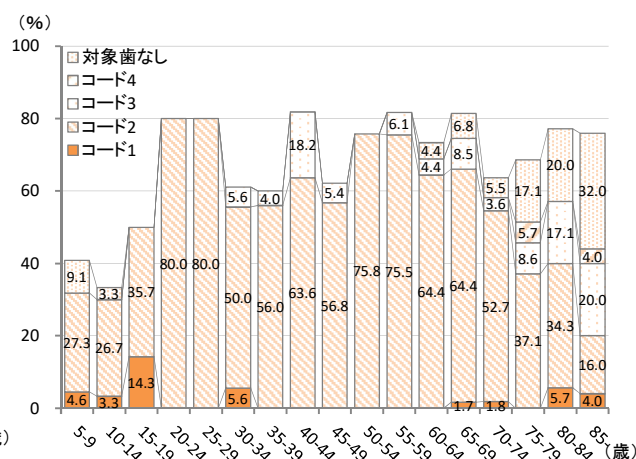
【図77】 歯肉の状況(左側下顎臼歯部)



【図78】 歯肉の状況(上顎前歯部)



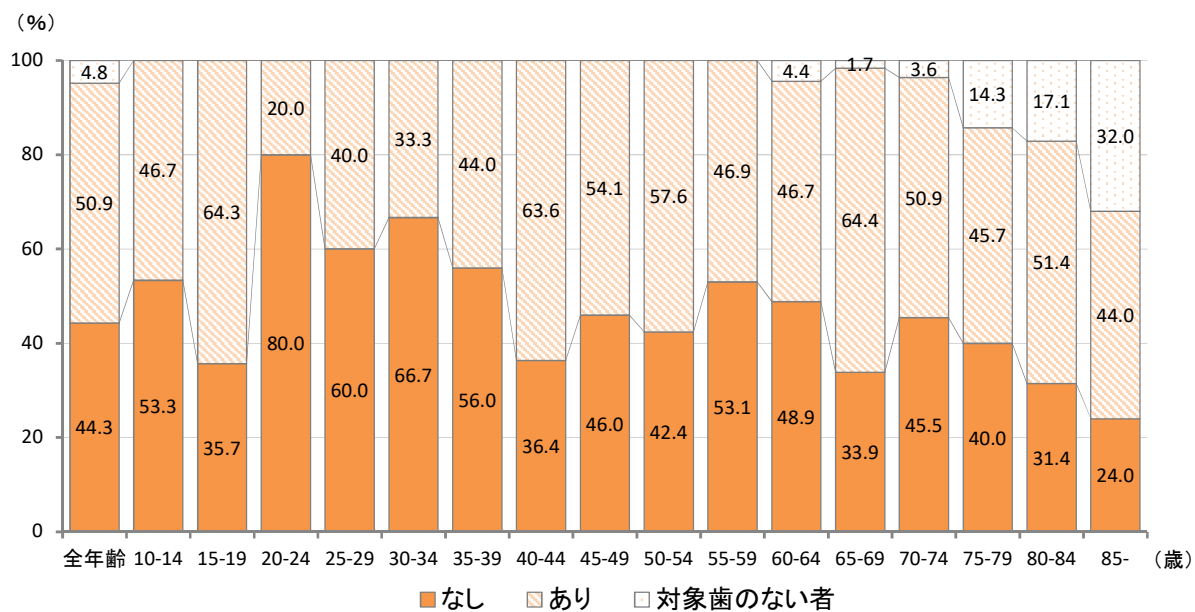
【図79】 歯肉の状況(下顎前歯部)



◆ 歯肉出血の状況

歯肉出血を有する者の割合は、20～24歳・30～34歳以外の年齢階級で40%を超え、全体では50%を超えていた。

【図80】 歯肉出血を有する者の割合(10歳以上・永久歯)

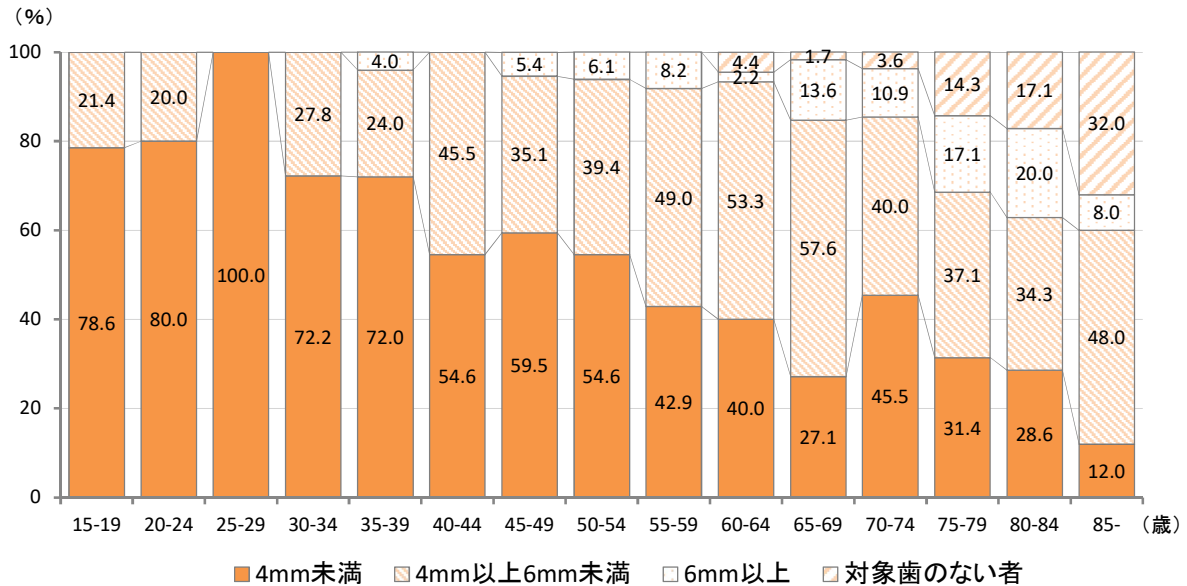


◆ 歯周ポケットの状況

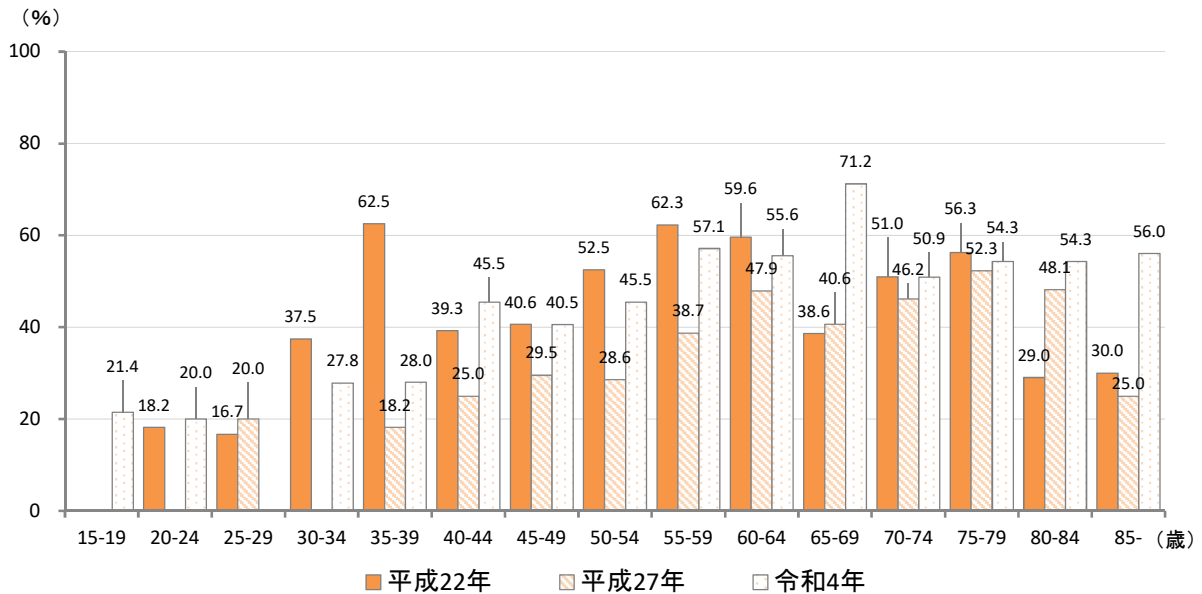
進行した歯周病を有する者(4mm以上の歯周ポケットを持つ者)の割合は40歳以上で40%を超え、55歳以上では半数を超えていた。前回調査と比較すると、25～29歳以外の全ての年齢階級で増加が見られた。

40歳代と60歳代の進行した歯周病を有する者の割合は40歳代42.4%、60歳代64.4%であった。

【図81】 歯周ポケット保有者の割合・永久歯(15歳以上)



【図82】 4mm以上の歯周ポケットを持つ者の割合(年次推移)



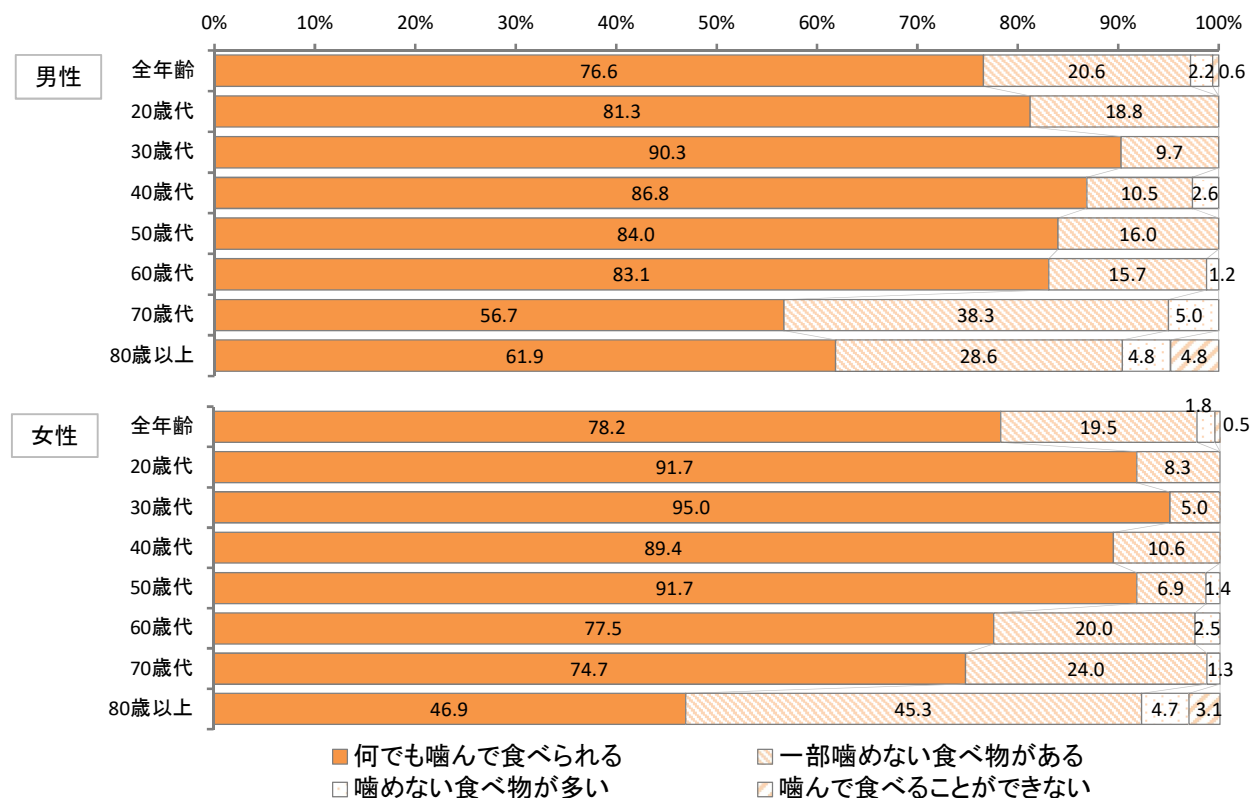
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
進行した歯周炎を有する者の割合
目標値(令和5年度) : 40歳代 22%以下
60歳代 45%以下

(3) 咀嚼の状況

◆咀嚼の状況

何でも噛んで食べることができると回答した者の割合は、男性76.6%、女性78.2%であった。

【図83】 噛んで食べる時の状態(性・年齢階級別)



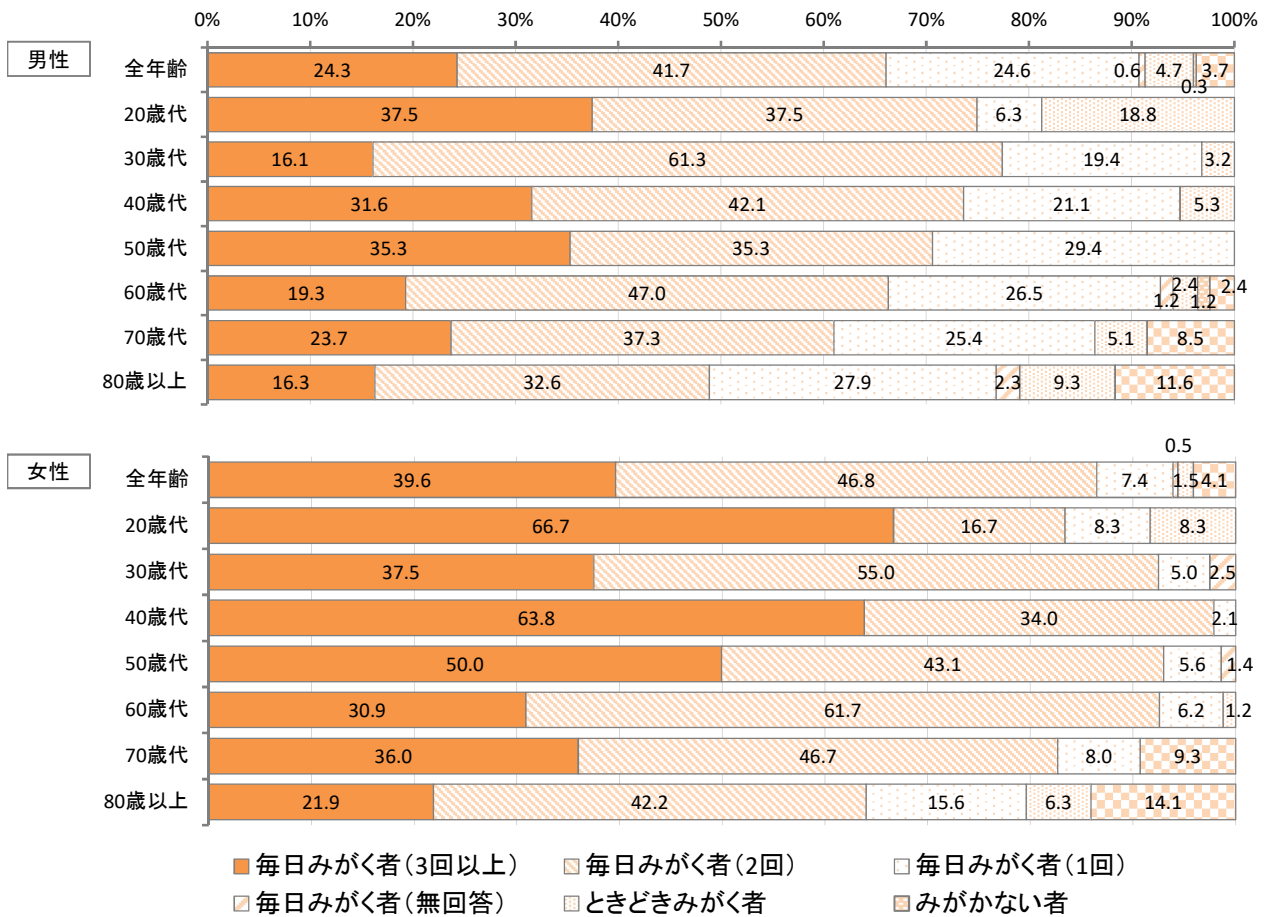
(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
60歳代における咀嚼機能良好者の割合
目標値(令和5年度) : 80%以上

(4) 歯科保健行動に関すること

◆歯みがきの状況

1日3回以上みがく者の割合は、全体で男性24.3%、女性39.6%であった。
男性はどの年代も1日2回みがく者が多く、女性は20歳代、40歳代、50歳代で1日3回以上みがく者が多かった。

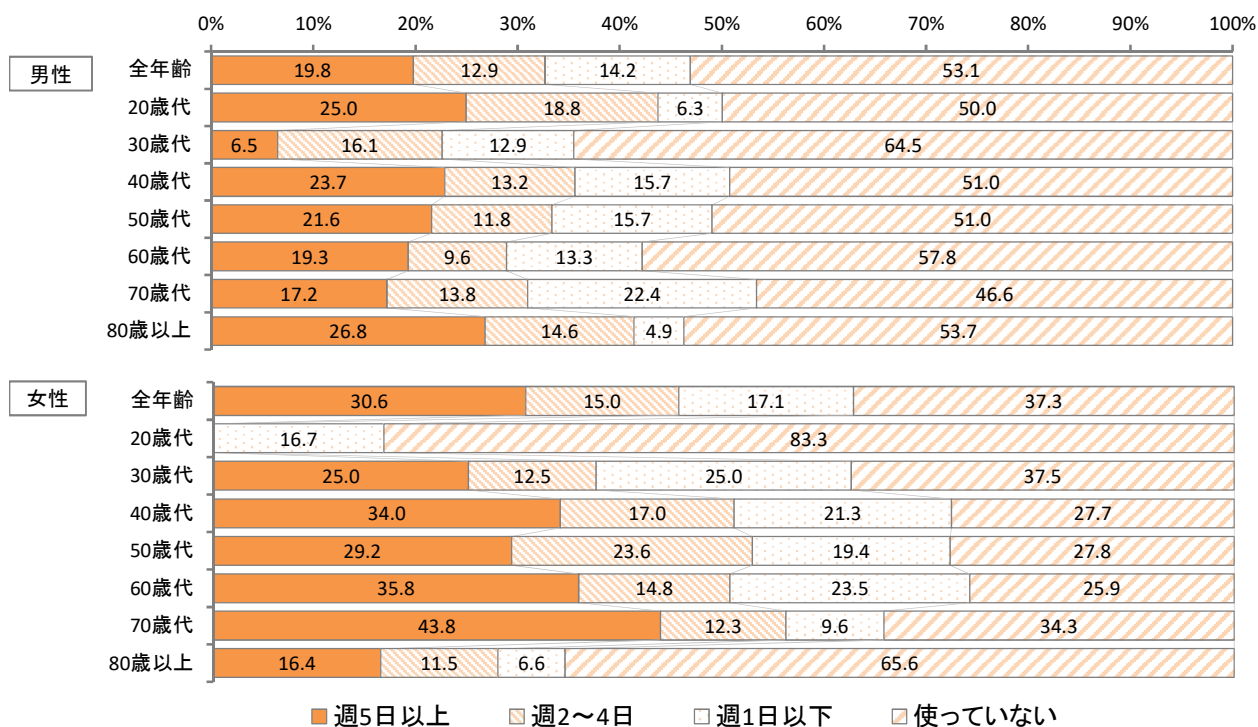
【図84】 歯みがきの状況(性・年齢階級別)



◆歯間部清掃用器具の使用状況

週2日以上歯間部清掃用器具を使用している者の割合は、男性32.7%、女性45.6%であった。
また40歳代では男性36.9%、女性51.0%、60歳代では男性28.9%、女性50.6%であった。

【図85】 歯間部清掃用器具を使用している者の割合（性・年齢階級別）

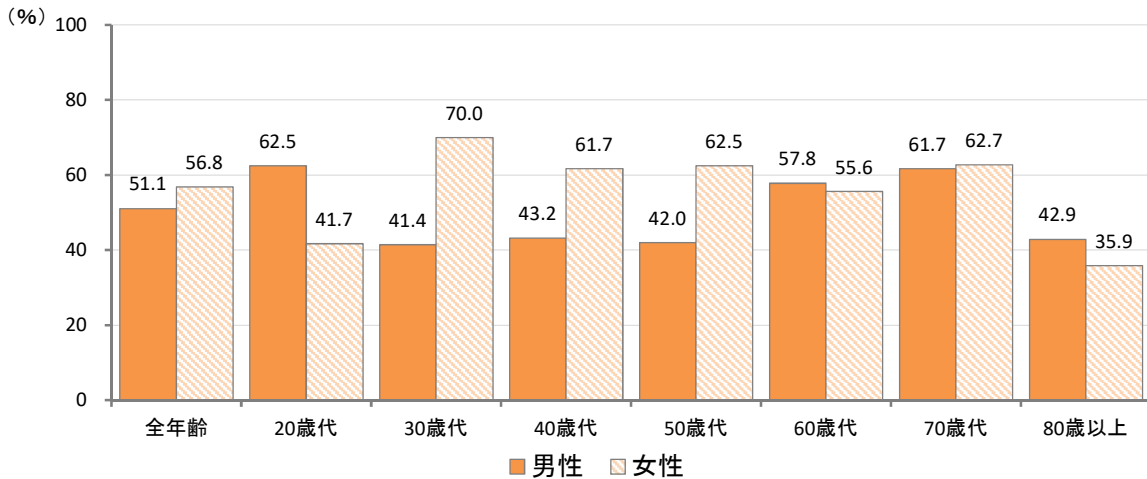


(参考)第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
歯間部清掃用器具を週2日以上使用している人の割合
目標値(令和5年度) : 40歳代 20%以上
60歳代 30%以上

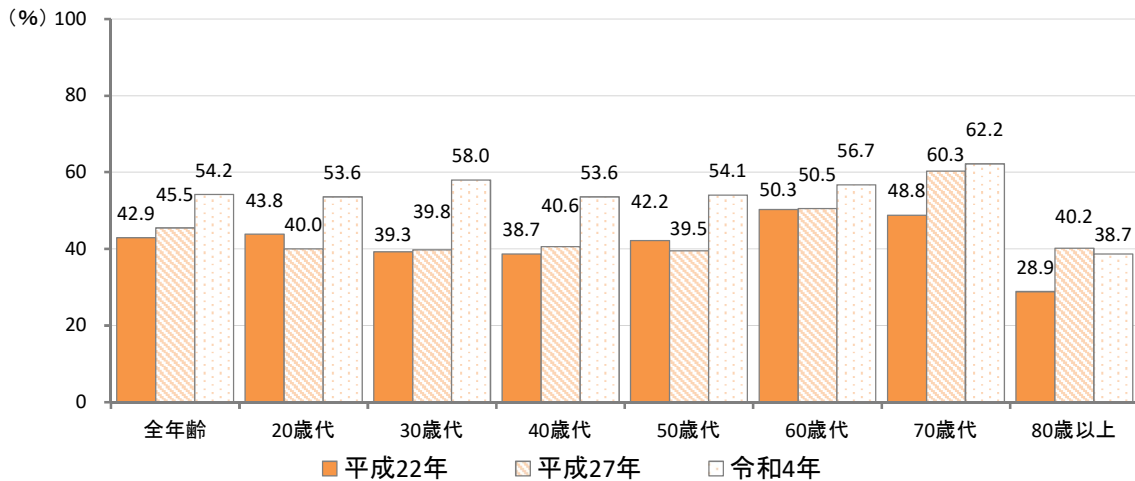
◆ 歯科健診等の状況

過去1年間に歯科健診を受けたことのある者の割合は男性51.1%、女性56.8%であった。30歳代女性が70.0%と最も高く、80歳以上の女性が35.9%と最も低かった。
平成22年、平成27年と比較すると、ほとんどの年代で増加が見られた。

【図86】 過去1年間に歯科健診を受けたことがある者の割合(性・年齢階級別)



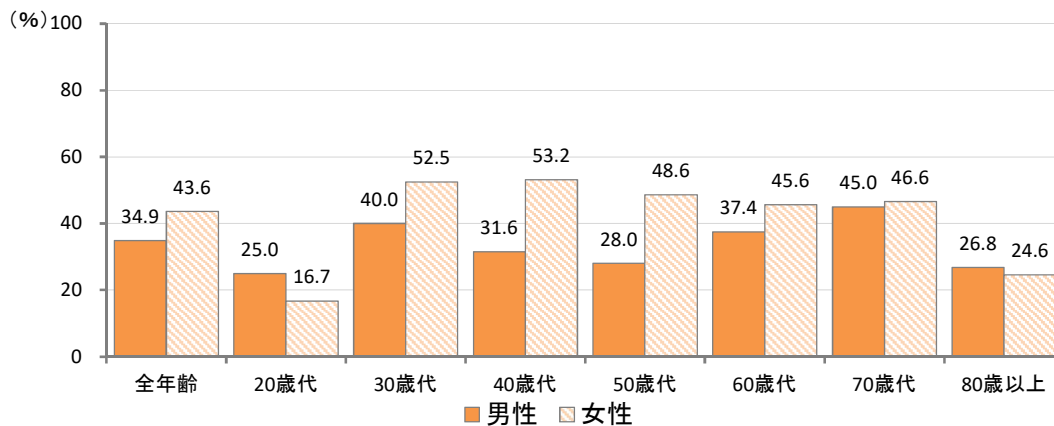
【図87】 過去1年間に歯科健診を受けたことがある者の割合(年次推移)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」及び
第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
過去1年間に歯科検診を受診した人の割合(20歳以上)
目標値(令和5年度) : 65%以上

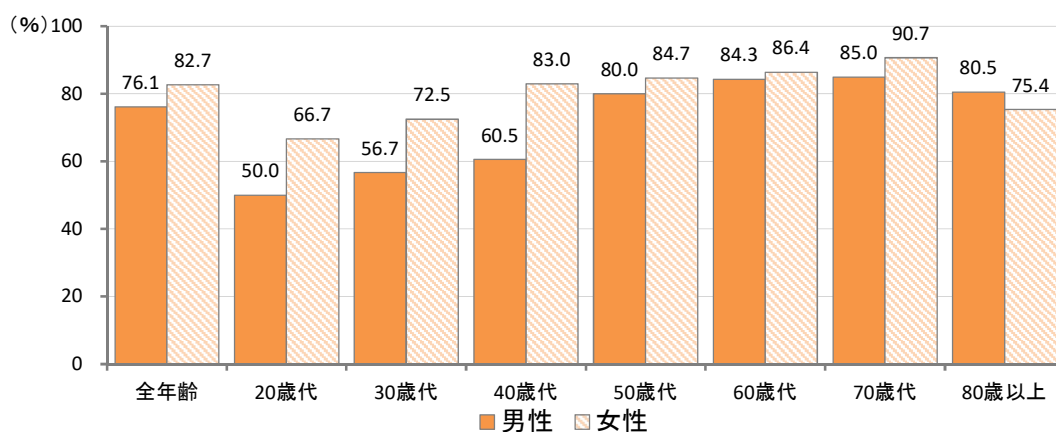
過去1年間に歯石除去や歯面清掃を受けたことがある者の割合は男性34.9%、女性43.6%であった。40歳代女性が53.2%と最も高く、20歳代女性が16.7%と最も低かった。

【図88】 過去1年間に歯石除去や歯面清掃を受けたことがある者の割合(性・年齢階級別)



かかりつけ歯科医がいる者の割合は、男性76.1%、女性82.7%であった。70歳代女性が90.7%と最も高かった。

【図89】 かかりつけ歯科医がいる者の割合(性・年齢階級別)

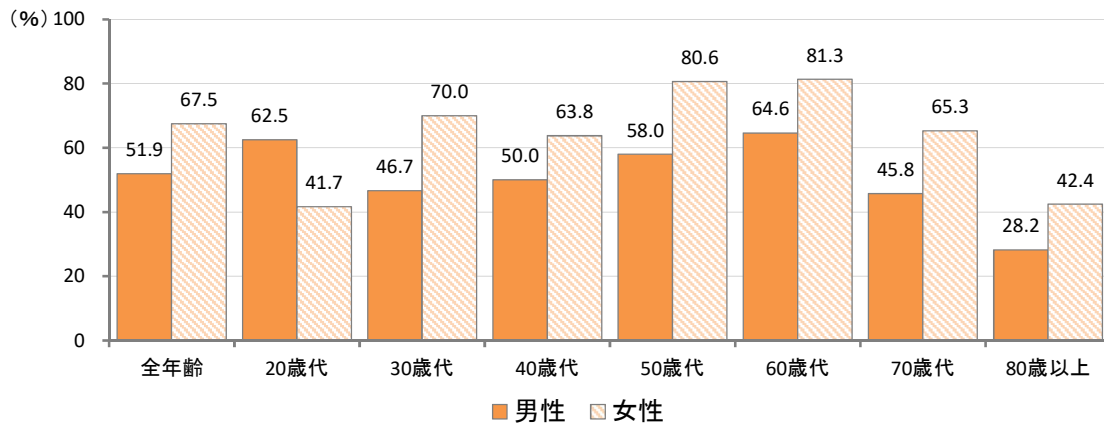


(5) 歯科保健知識に関すること

◆ 歯科疾患と全身の関係

歯科疾患とほかの病気が関連することを知っている者の割合は、男性51.9%、女性67.5%であった。60歳代女性が81.3%と最も高かった。

【図90】 歯科疾患とほかの病気が関連することを知っている者の割合(性・年齢階級別)

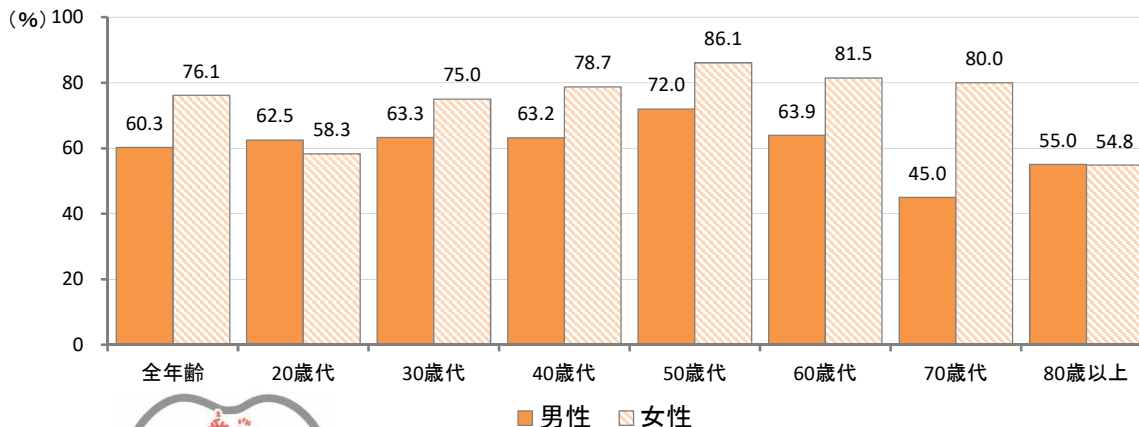


(参考) 第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
 歯科疾患とその他の疾患(糖尿病、肺炎、心臓病等)が
 関連のあることを知っている人の割合(20歳以上)
 目標値(令和5年度) : 70%以上

◆ 「8020運動」(ハチマルニイマル運動)について

「8020運動」の意味を知っている者の割合は、男性60.3%、女性76.1%であった。すべての年代で女性の方が高く、50歳代女性が86.1%と最も高かった。

【図91】 「8020運動」の意味を知っている者の割合(性・年齢階級別)

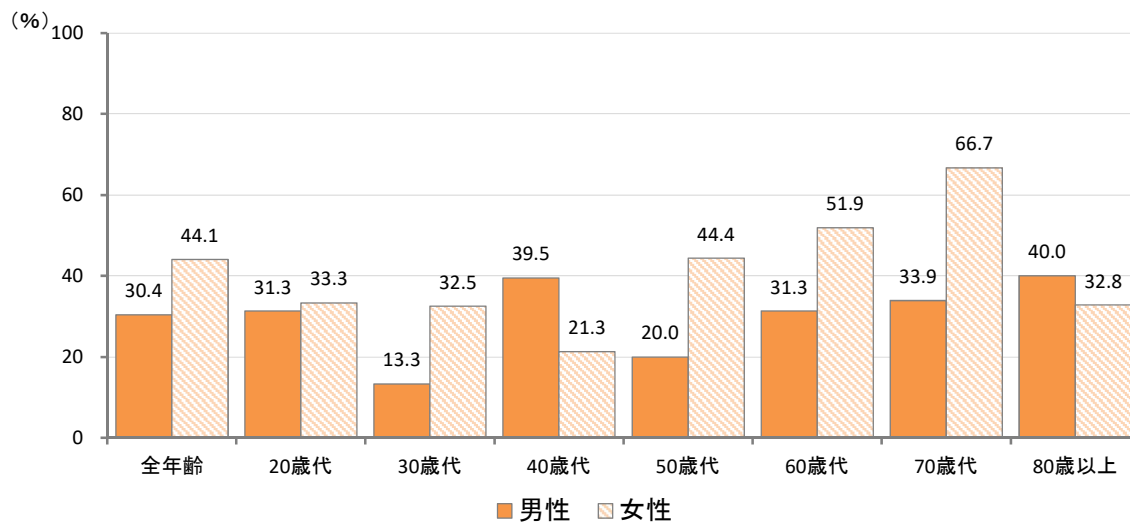


(参考) 第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
 8020運動の意味を知っている人の割合(20歳以上)
 目標値(令和5年度) : 70%以上

◆「噛ミング30」(カミングサンマル)について

噛ミング30の意味を知っている者の割合は、男性30.4%、女性44.1%であった。
70歳代女性が66.7%と最も高かった。

【図92】「噛ミング30」の意味を知っている者の割合(性・年齢階級別)



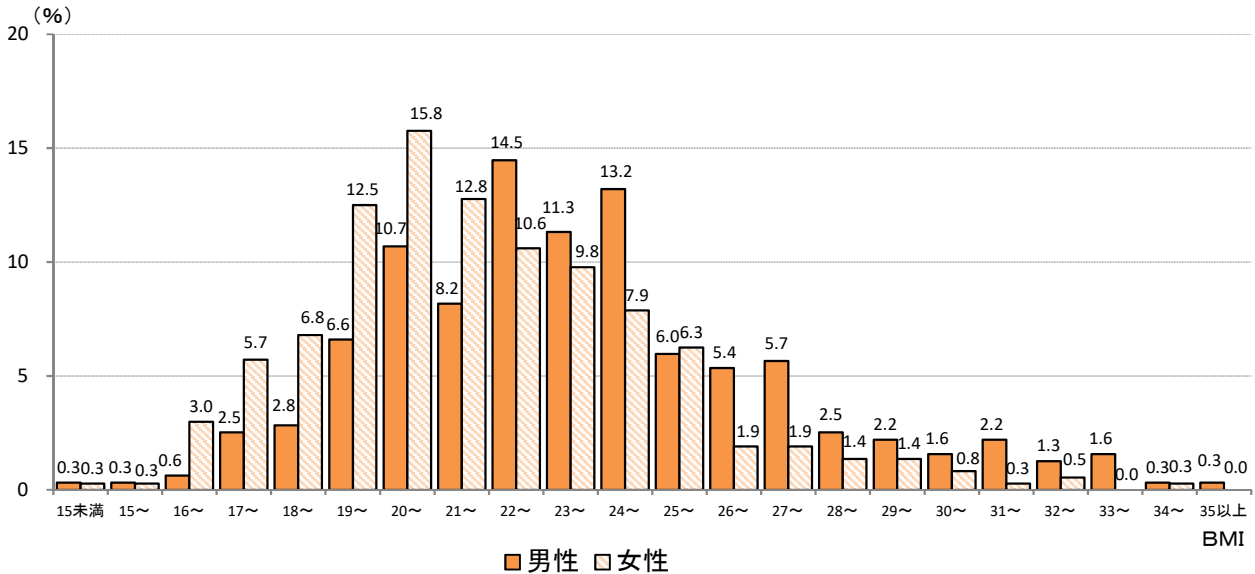
(参考) 第2次愛媛県歯科口腔保健推進計画の目標
噛ミング30の意味を知っている人の割合(20歳以上)
目標値(令和5年度) : 50%以上

7 身体の状態

◆BMIの分布 [(BMI=体重kg/(身長m)²] (身長・体重は自己申告)

BMIは、男性では22以上23未満、女性では20以上21未満の者が最も多かった。

【図93】 BMIの分布 (性別、18歳以上)

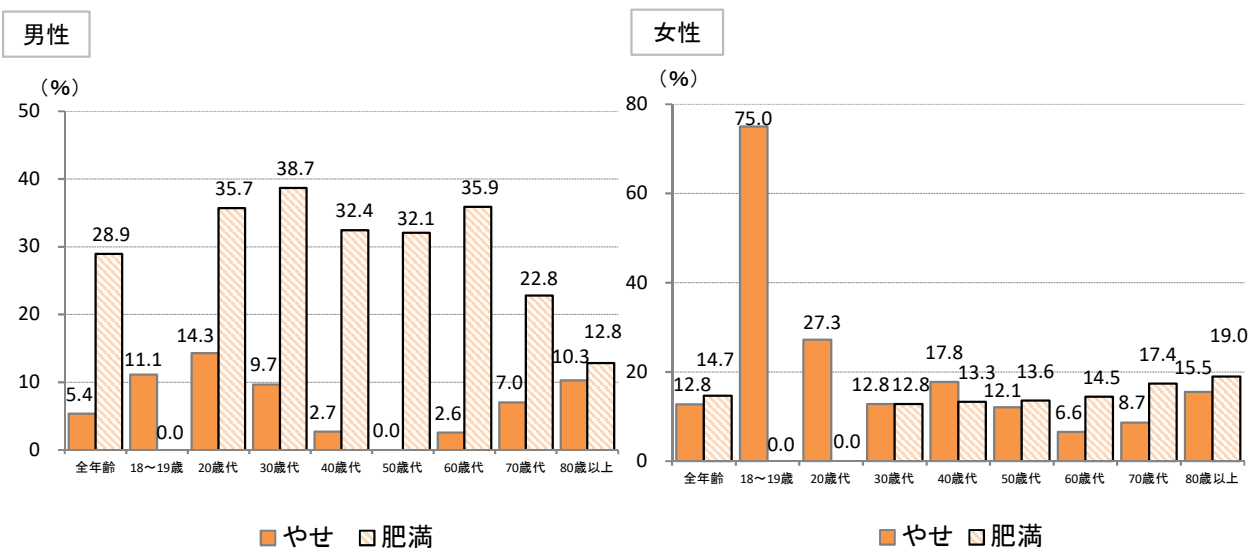


◆やせ及び肥満の割合

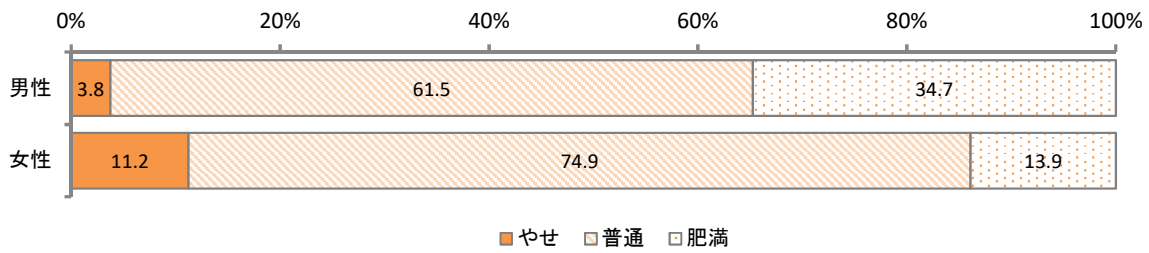
男性のやせの割合は、20歳代で14.3%と最も高く、次いで18~19歳で11.1%だった。肥満の割合は、30歳代で38.7%と最も高く、20~60歳代で30%を超えていた。

女性のやせの割合は、18~19歳で75.0%と最も高く、次いで20歳代で27.3%だった。肥満の割合は、80歳以上で19.0%と最も高かった。

【図94】 やせと肥満の割合 (性・年齢階級別、18歳以上)



【図95】 特定の世代のやせ及び肥満割合(男性:20~60歳代、女性:40~60歳代)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
適正体重を維持している者の割合

肥満(BMI25以上)、やせ(BMI18.5未満)の減少

目標値(令和5年度): 20歳~60歳代男性の肥満者の割合 28%

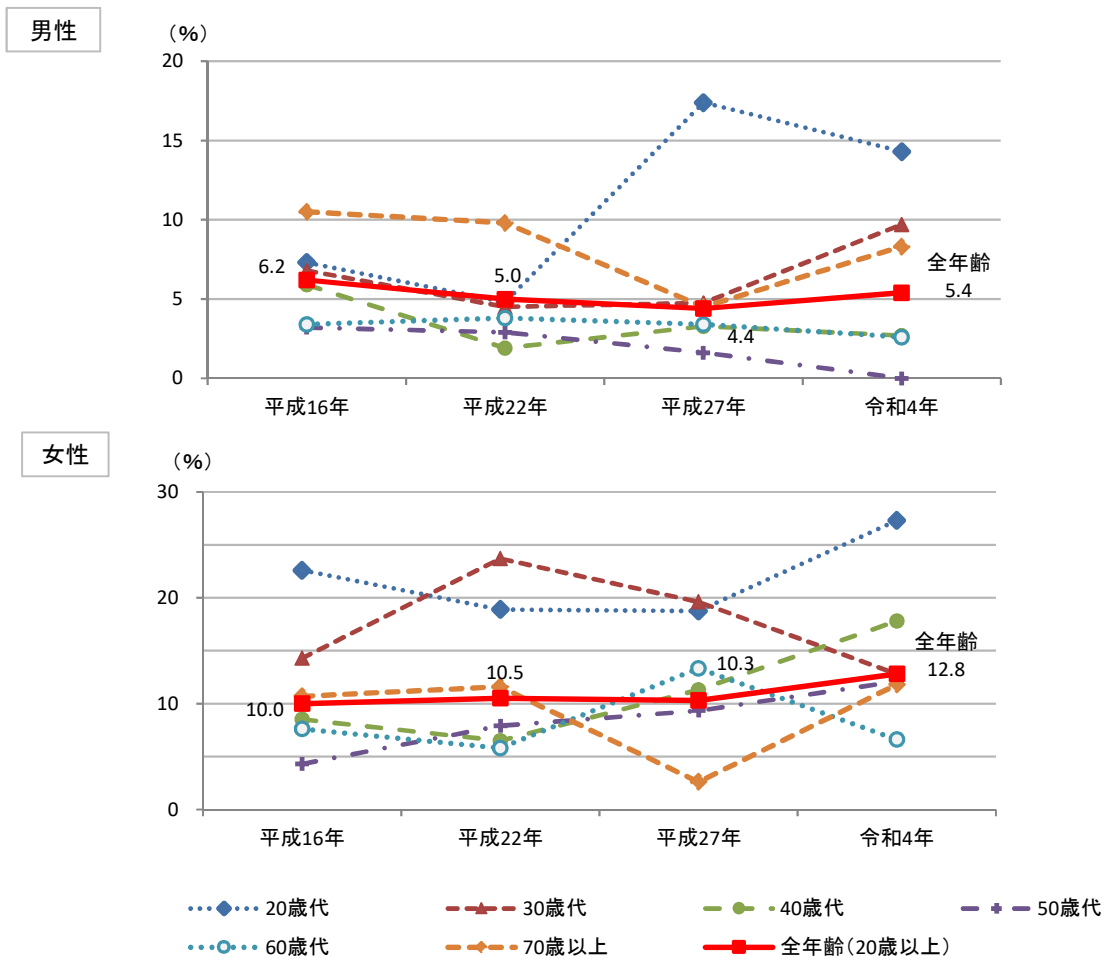
40歳~60歳代女性の肥満者の割合 19%

20歳代女性のやせの者の割合 13%

◆やせの年次推移

男性のやせは、20歳代では平成22年から増加傾向にあるが、全年齢では横ばいだった。
女性のやせは、20歳代・40歳代では増加しており、全年齢でもわずかに増加傾向だった。

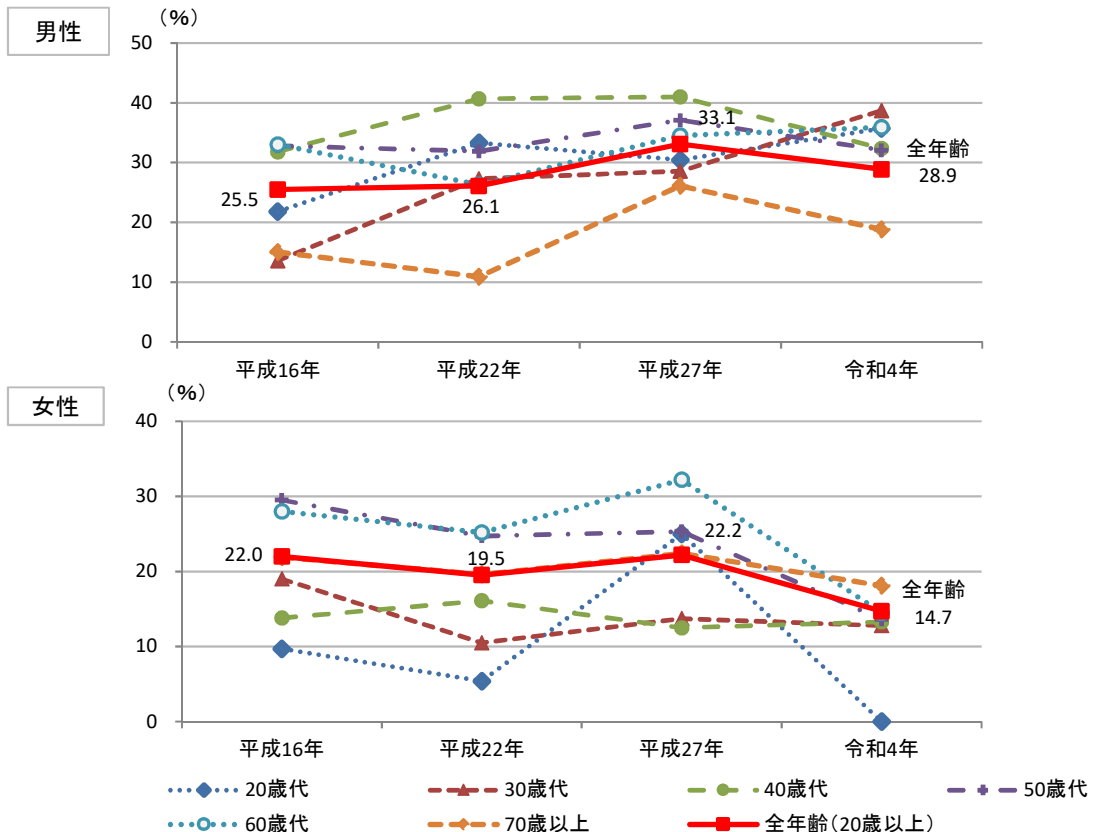
【図96】 やせの年次推移(性・年齢階級別、20歳以上)



◆肥満の年次推移

男性の肥満は、20歳代・30歳代で増加していたが、全年齢では横ばいだった。
女性の肥満は、30歳代・40歳代を除いて減少しており、全年齢では減少していた。

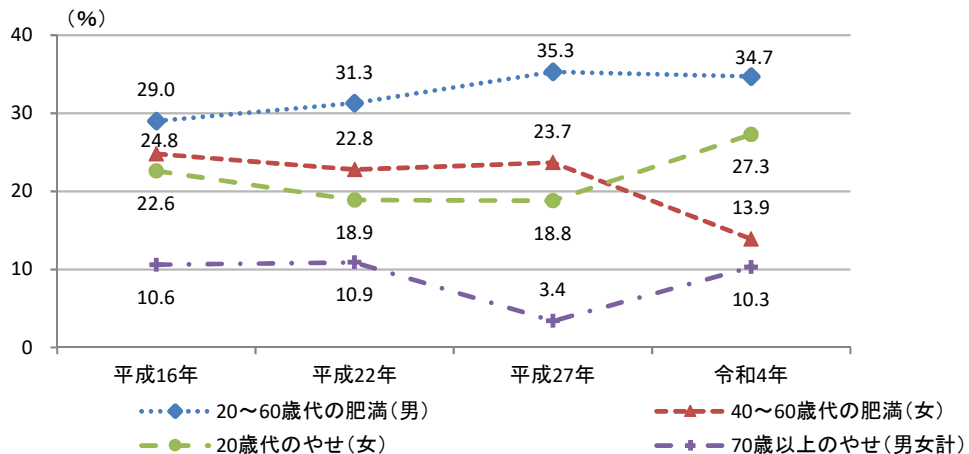
【図97】 肥満の年次推移(性・年齢階級別、20歳以上)



◆特定の世代のやせ及び肥満の年次推移

肥満は、20～60歳代の男性は横ばい、40～60歳代女性は減少していた。
やせは、20代女性は増加、70歳以上(男女)は横ばいだった。

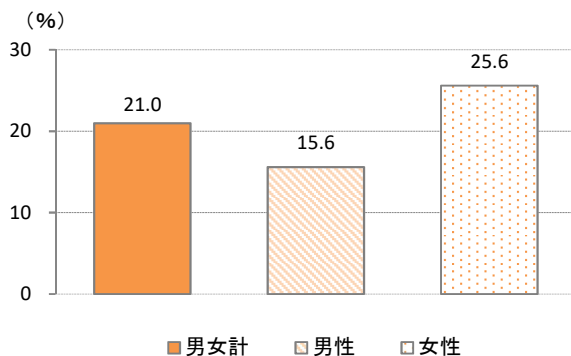
【図98】 特定の世代のやせ及び肥満の年次推移



◆低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合

低栄養傾向(BMI20以下)にある65歳以上の高齢者は21.0%で、男性15.6%、女性25.6%だった。

【図99】 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合 (65歳以上)

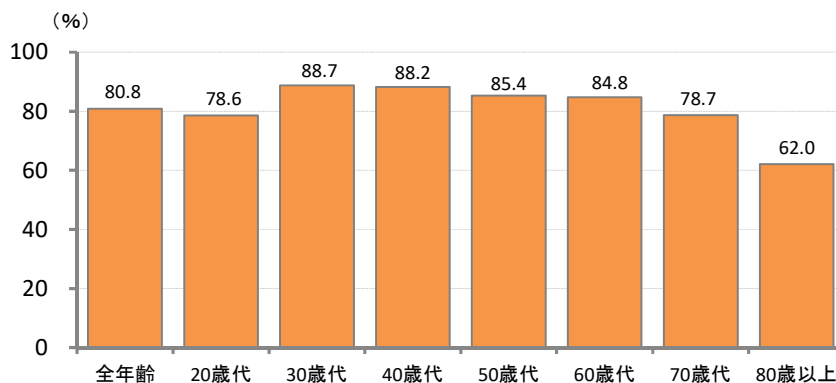


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者(65歳以上)の割合
目標値(令和5年度) : 20.3%(平成22年度)から減少させる

8 健康に関する状況

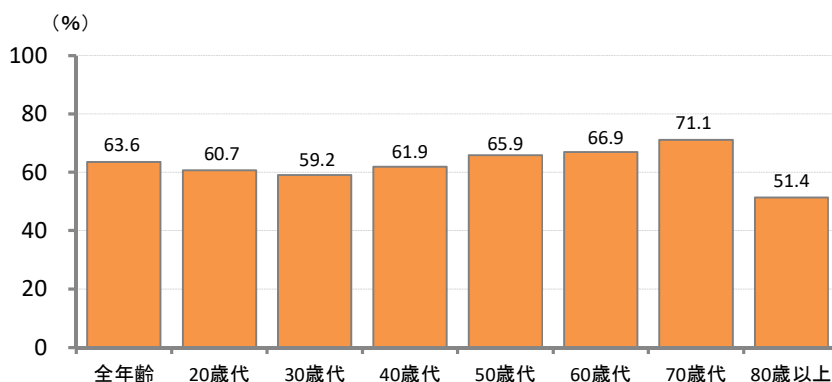
今の健康状態を「健康である」、「どちらかといえば健康である」と感じている者の割合は、80.8%であり、年齢階級別にみると、20歳代・70歳代・80歳以上では8割を下回っていた。
 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のために、継続的に食事の改善や運動を実践している者の割合は、63.6%であり、年齢階級別にみると、70歳代が最も高くなっていた。
 また、生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践している者の割合は、56.6%であり、年齢階級別にみると、70歳代が最も高くなっていた。
 体重を週1回以上測定している者の割合は、男性40.8%、女性54.2%で、年齢階級別にみると、20歳代・80歳以上を除き、男性より女性の方が高くなっていた。

【図100】 健康状態の自己評価(「健康である」、「どちらかといえば健康である」と回答した者の割合)
(年齢階級別)



(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
 生活の質(自分で健康と感じている人の割合)
 目標値(令和5年度) : 79.8%(20歳以上、平成22年度)から増やす
 65.1%(65歳以上、平成22年度)から増やす

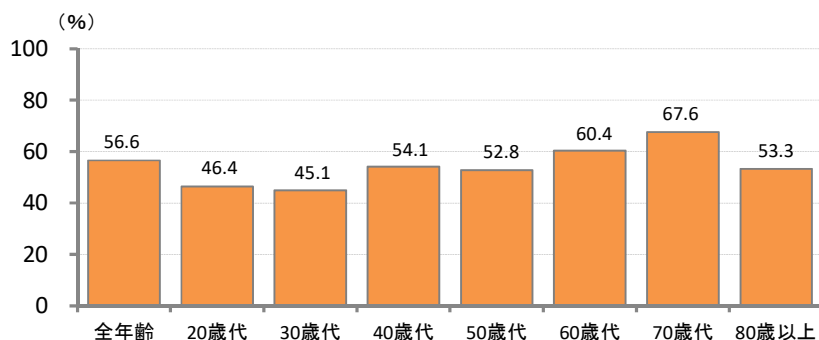
【図101】 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のために、継続的に食事の改善や運動を実践している者の割合(年齢階級別)



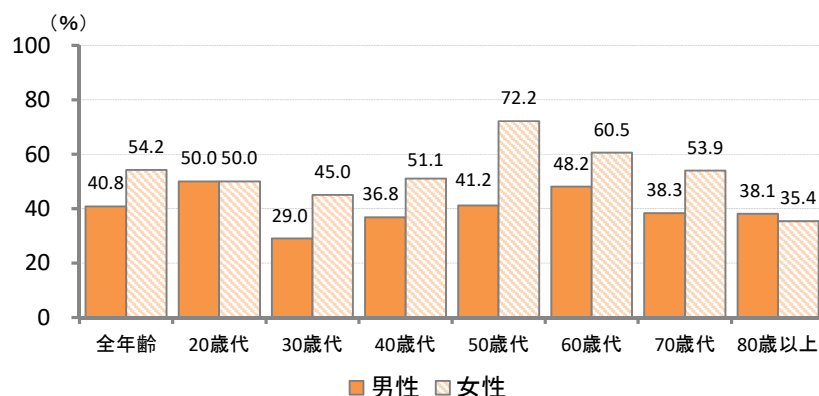
第3次愛媛県食育推進計画

(参考) 第3次愛媛県食育推進計画の目標
 内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している県民の割合の増加
 目標値(令和5年度) : 75%以上

【図102】生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践している者の割合(年齢階級別)

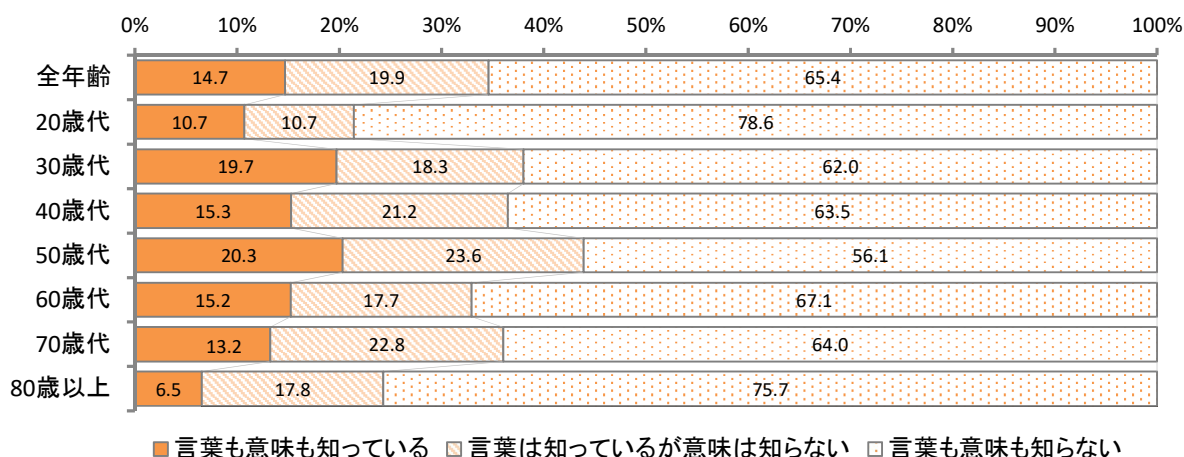


【図103】体重を週1回以上測定している者の割合(性・年齢階級別)



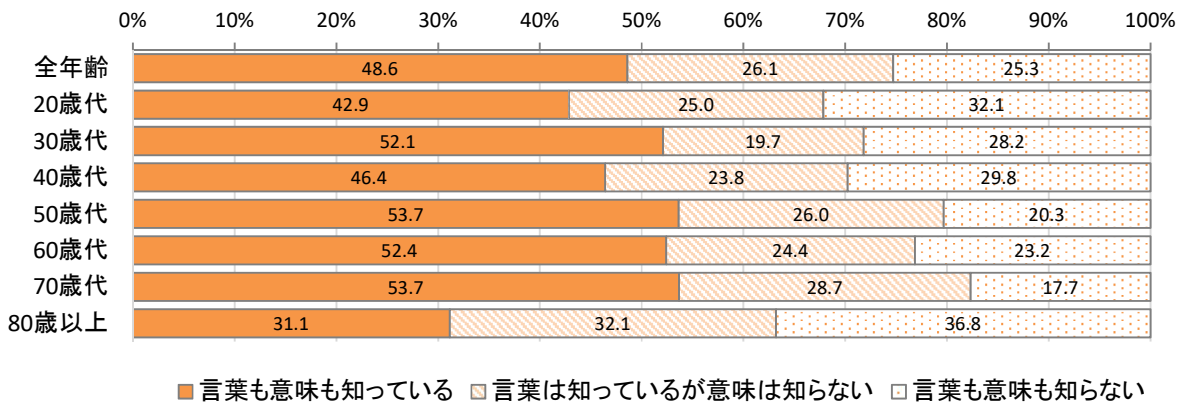
COPD(慢性閉塞性肺疾患)について、「言葉も意味も知っている」と回答した者の割合は14.7%であり、年齢階級別にみると、20歳代・80歳以上の認知度が低かった。
健康寿命について、「言葉も意味も知っている」と回答した者の割合は48.6%であり、年齢階級別にみると、20歳代・40歳代・80歳以上で半数を下回っていた。

【図104】COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度(年齢階級別)



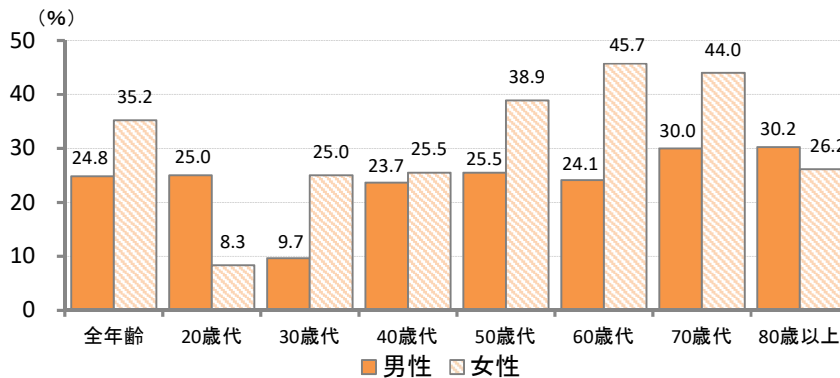
(参考)第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
COPDの認知度の割合
目標値(令和5年度) : 80%

【図105】健康寿命の認知度(年齢階級別)

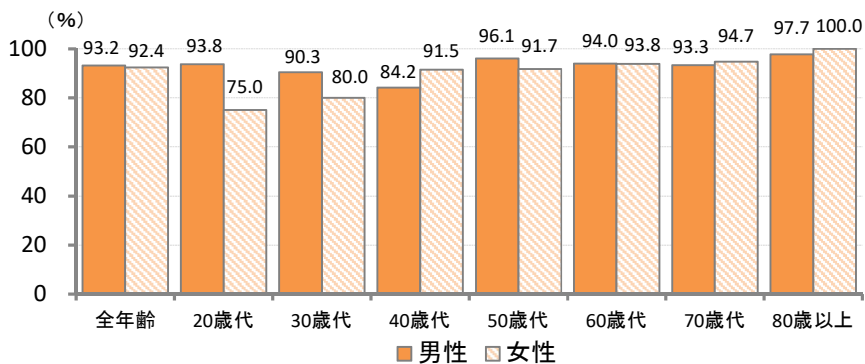


血圧について、愛媛県の健康課題が「高血圧」であることを知っている者の割合は、男性24.8%、女性35.2%で、年齢階級別にみると、20歳代・80歳代を除いて男性より女性が高くなっていました。
 また、過去1年間に血圧測定を受けたことがある者の割合は、男性93.2%、女性92.4%で、20歳代女性を除き、8割を超えていた。
 血圧を測定した場所については、男女ともに医療機関、自宅(家庭血圧)、職場の健診の順に割合が高くなっていました。年齢階級別にみると、20～50歳代では職場の健診、医療機関の順だが、60歳代以上では医療機関、自宅(家庭血圧)の順に割合が高くなっていました。
 また、測定した血圧の値を知っている者の割合は76.9%で、年齢階級別にみると、60歳代以上で8割を超えていた。

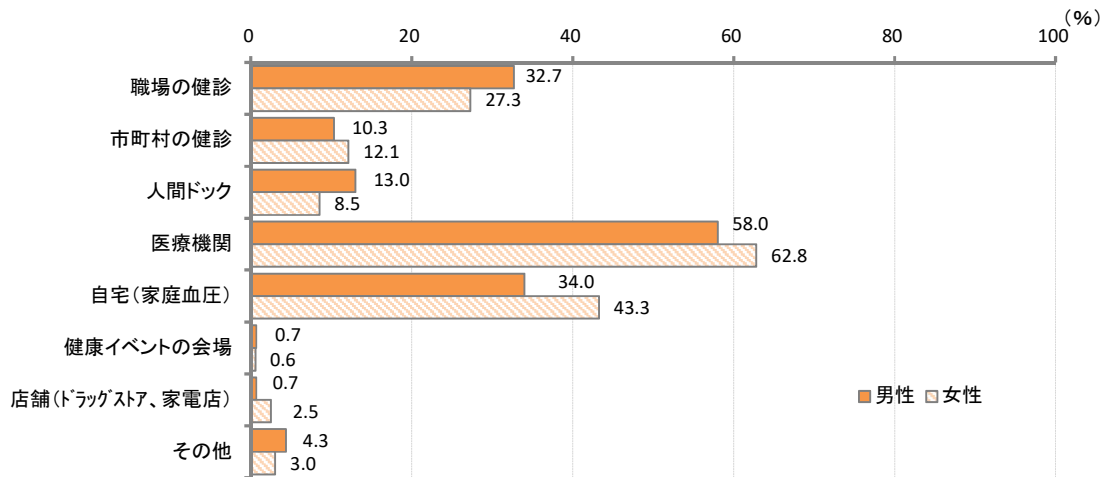
【図106】愛媛県の健康課題が「高血圧」であることを知っている者の割合(性・年齢階級別)



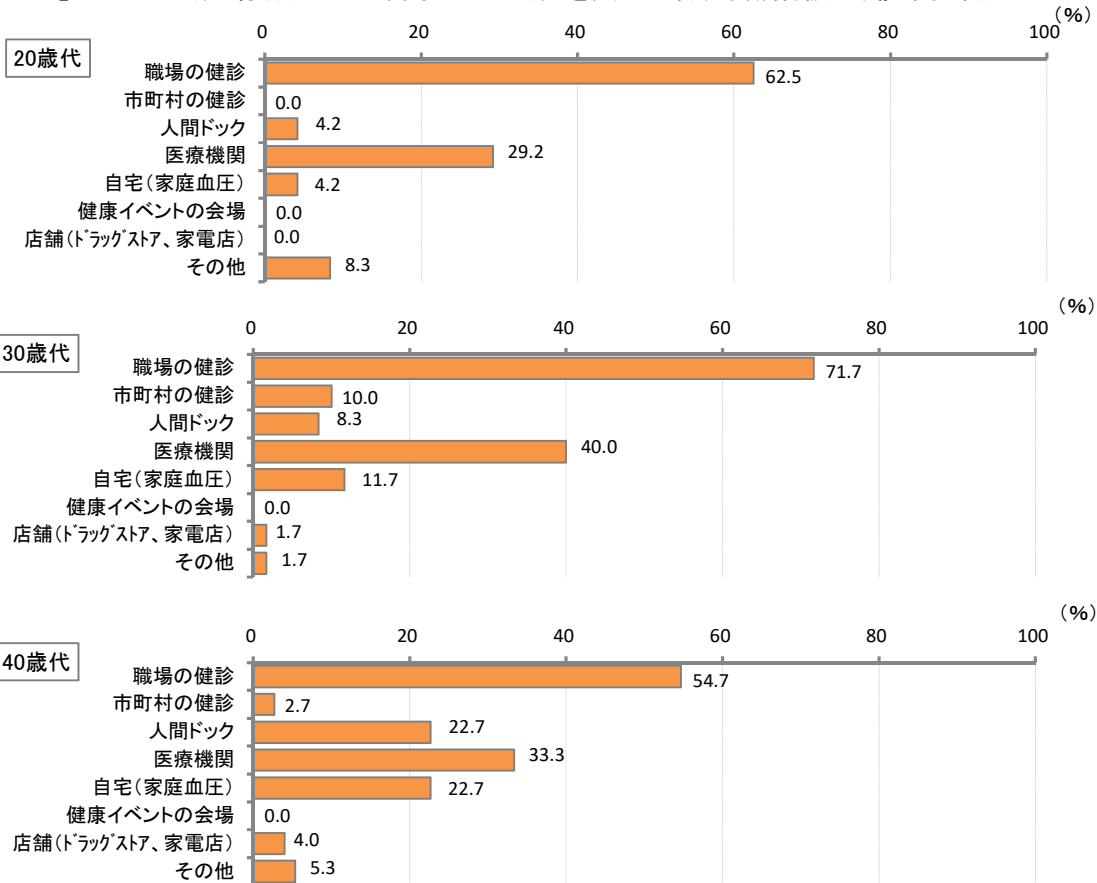
【図107】過去1年間に血圧測定を受けたことがある者の割合(性・年齢階級別)



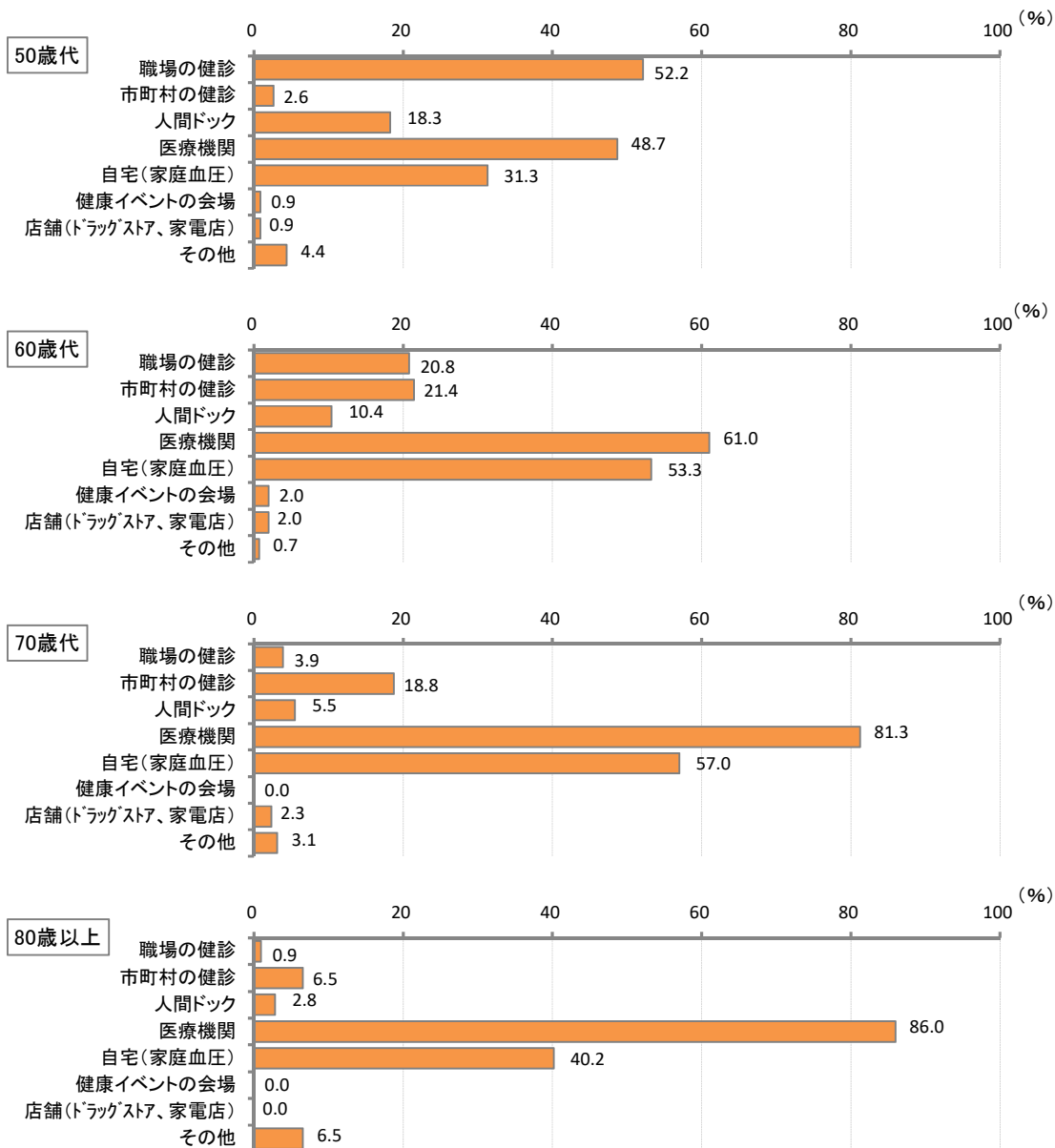
【図108】 血圧の測定場所(過去1年間に血圧測定を受けた者、性別、複数回答)



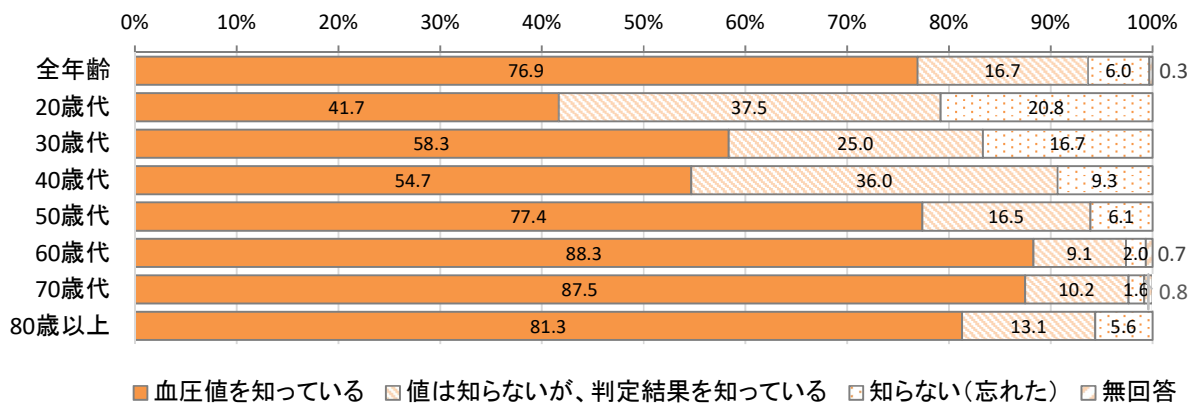
【図109】 血圧の測定場所(過去1年間に血圧測定を受けた者、年齢階級別、複数回答)



結果の概要
(生活状況調査)



【図110】 測定した血圧の値の認知度(過去1年間に血圧測定を受けた者、年齢階級別)

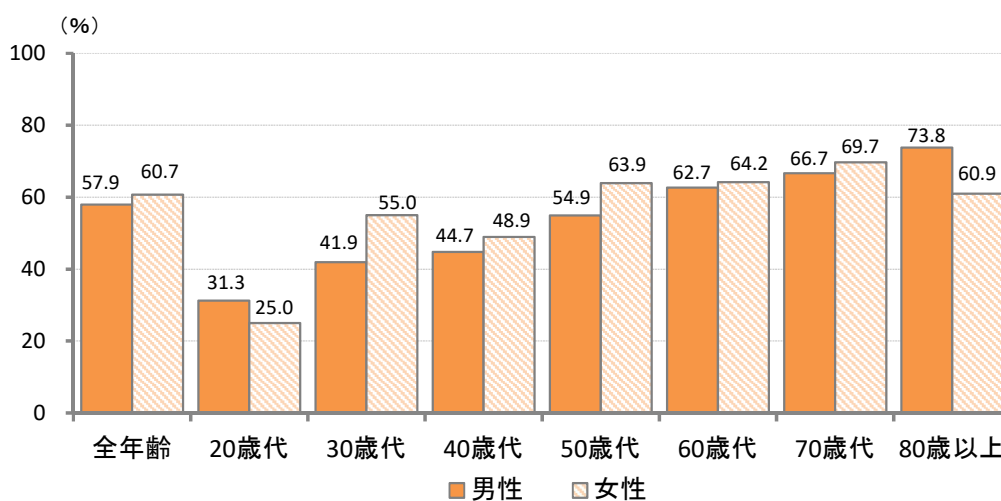


9 食文化・環境に関する状況

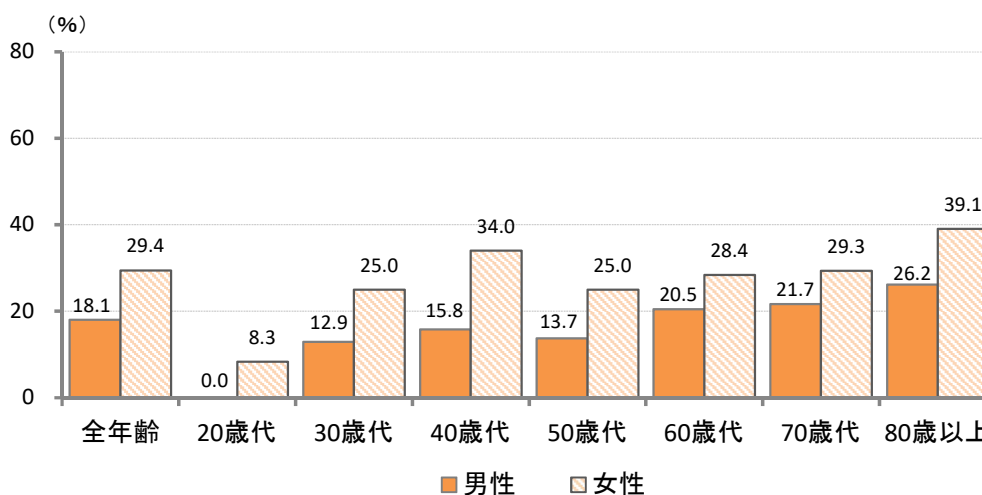
◆郷土料理や伝統料理に関すること

郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている者の割合は、男性57.9%、女性60.7%であった。性・年齢階級別にみると、男女ともに20歳代が最も低く、年齢が上がるにつれて増加傾向にあった。また、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合は、男性18.1%、女性29.4%であり、すべての年代で女性の方が高くなっていた。

【図111】 郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている者の割合(性・年齢階級別)



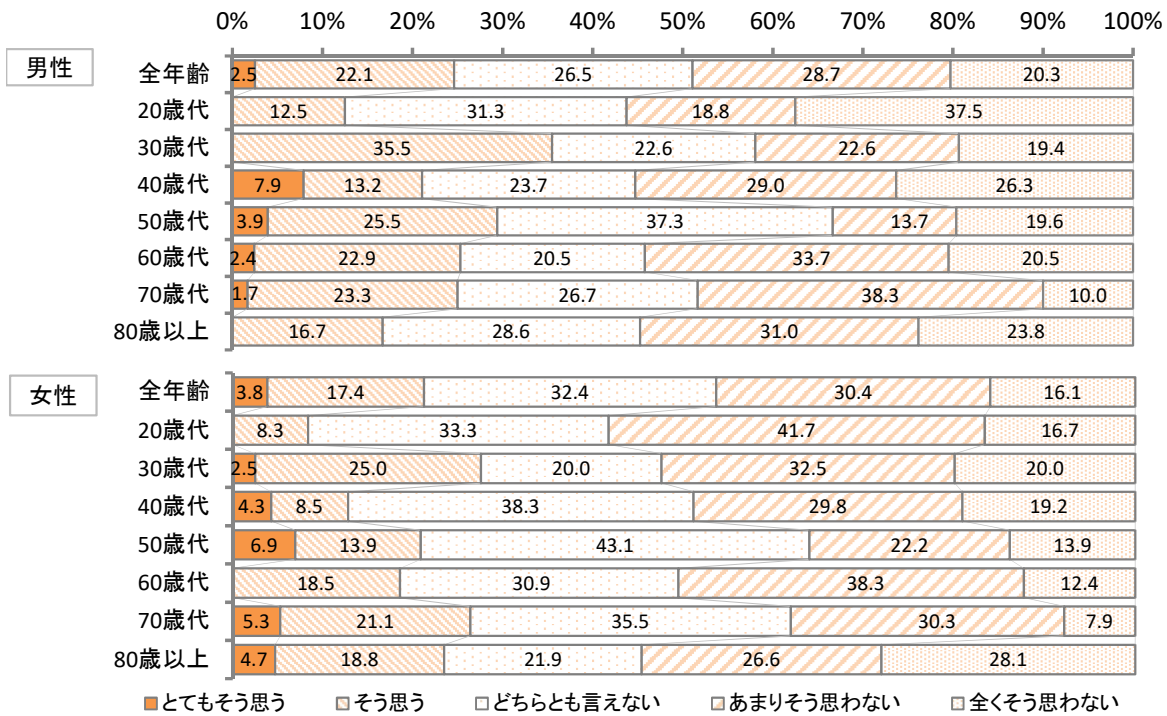
【図112】 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている者の割合(性・年齢階級別)



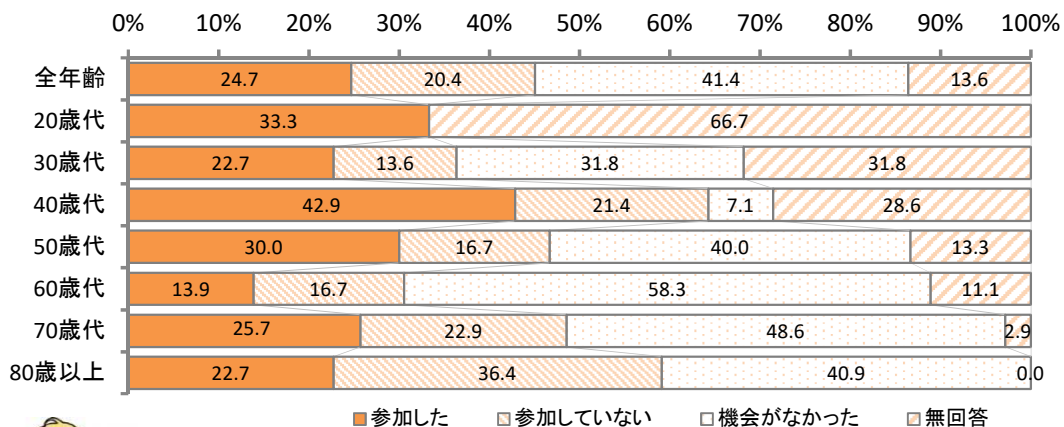
◆地域や所属コミュニティに関すること

地域等で共食したいと思う者(「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した者)の割合は、男性24.6%、女性21.2%であった。さらに、地域等で共食したいと思う者が共食した割合は、24.7%であり、年齢階級別では60歳代が13.9%と最も少なかった。
また、50～80歳代では「機会がなかった」と回答した割合が、4割を超えていた。

【図113】 地域や所属コミュニティでの食事会等に参加したいと思う者の割合(性・年齢階級別)



【図114】 地域や所属コミュニティでの食事会に参加したいと思う者が食事会等に参加した者の割合(年齢階級別)

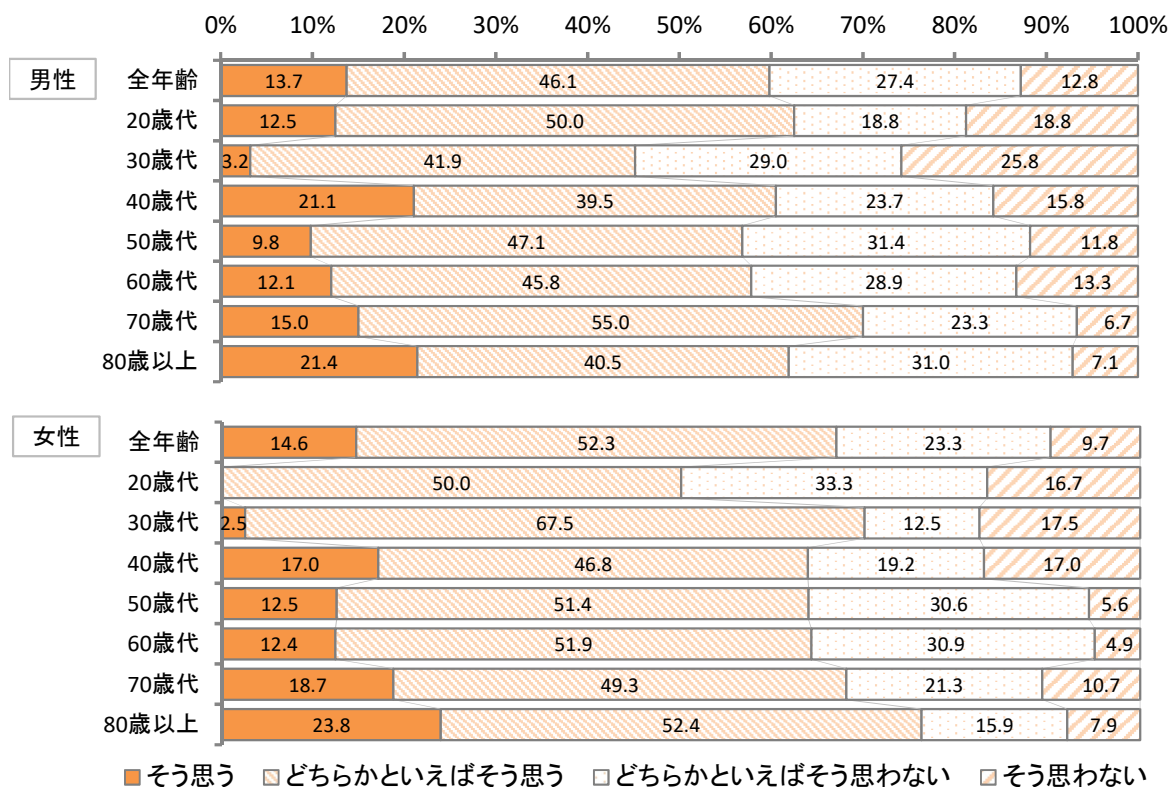


第3次愛媛県食育推進計画

(参考) 第3次愛媛県食育推進計画の目標
地域等で共食したいと思う人が共食する県民の割合の増加
目標値(令和5年度) : 増加させる(※現状値なし)

居住地域でお互い助け合っていると思う者(「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した者)の割合は、男性59.8%、女性66.9%であった。
年齢階級別にみると、男性では70歳代、女性では80歳以上の割合が最も高かった。

【図115】 居住地域でお互い助け合っていると思う者の割合(性・年齢階級別)

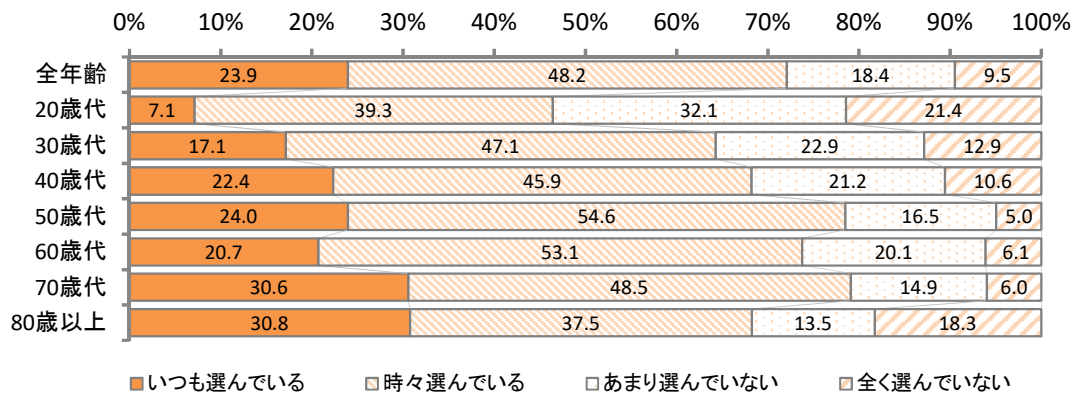


(参考) 第2次県民健康づくり計画「えひめ健康づくり21」の目標
居住地域でお互い助け合っていると思う県民の割合
目標値(令和5年度) : 男性67.0%(平成27年度)から増加させる

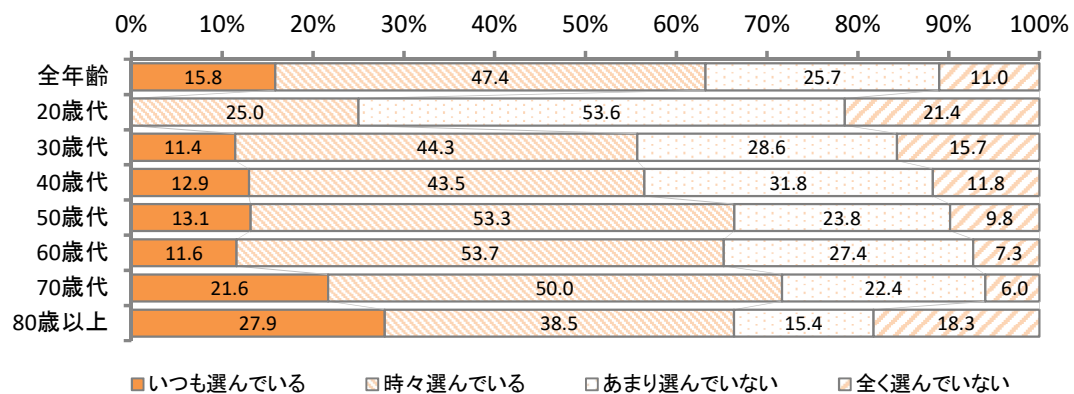
◆地産地消に関すること

産地や生産者を意識して農林水産物や食品を選ぶ者(「いつも選んでいる」、「時々選んでいる」と回答した者)の割合は72.1%であり、20歳代が46.4%と最も低かった。
また、環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ者(「いつも選んでいる」、「時々選んでいる」と回答した者)の割合は63.2%であり、20歳代が25.0%と最も低かった。

【図116】産地や生産者を意識して農林水産物や食品を選ぶ者の割合(年齢階級別)



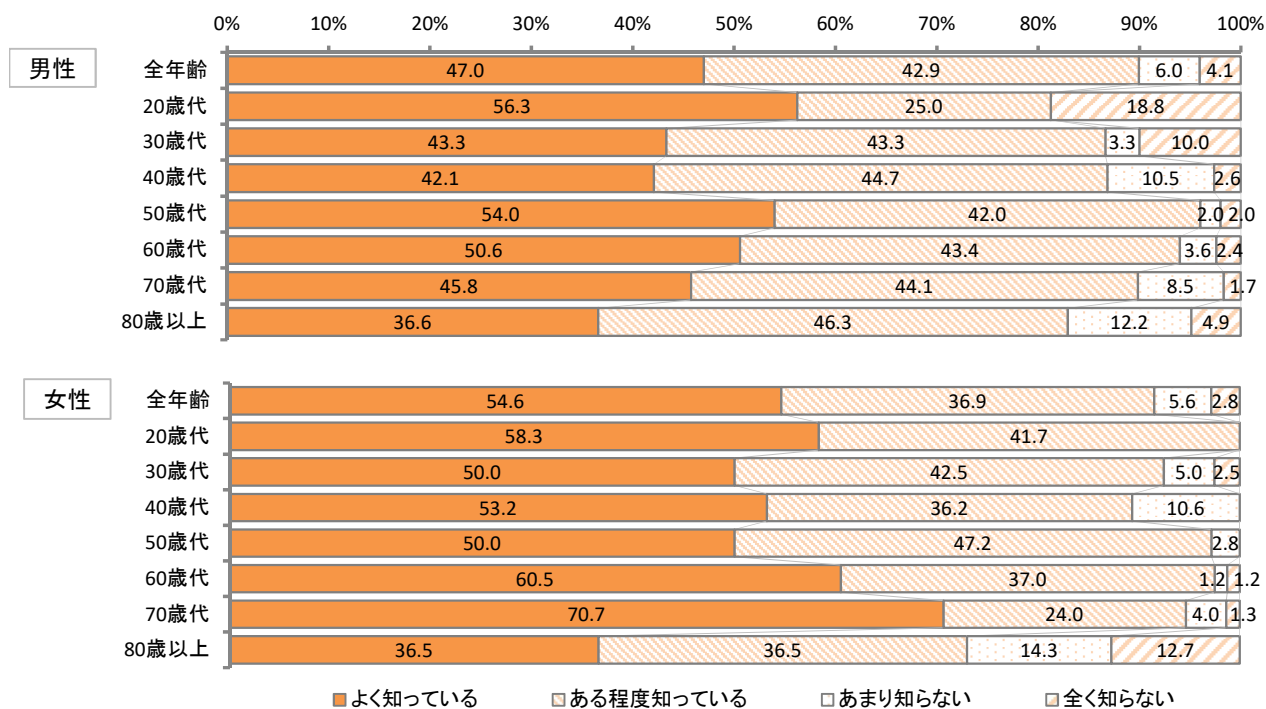
【図117】環境に配慮した農林水産物や食品を選ぶ者の割合(年齢階級別)



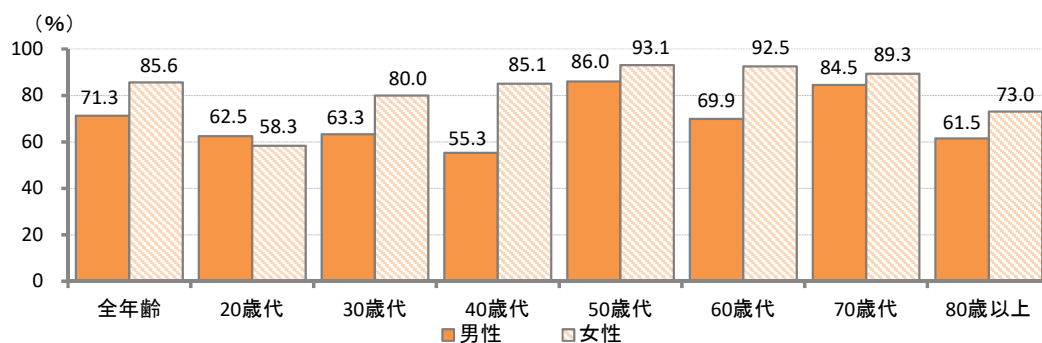
◆食品ロスに関すること

食品ロスが問題となっていることを知っている者(「よく知っている」、「ある程度知っている」と回答した者)の割合は、男性89.9%、女性91.5%であった。食品ロス削減のために何らかの取組みをしている者の割合は、男性71.3%、女性85.6%であった。
また、その取組みとして、最も多かったのは、男女とも「残さずに食べる」で8割を超えていた。

【図118】食品ロスが問題となっていることを知っている者の割合(性・年齢階級別)



【図119】食品ロス削減のために何らかの取組みをしている者の割合(性・年齢階級別)



第3次愛媛県食育推進計画

(参考)第3次愛媛県食育推進計画の目標

食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民の割合の増加
目標値(令和5年度) : 増加させる(※現状値なし)

【図120】 食品ロスを減らすために取り組んでいること(性別・複数回答)

